

F D活動報告書

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)

第 7 号

平成 23 年度（春・秋学期）



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

平成 24 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 23年度授業評価アンケート結果概要	7
III 23年度授業評価アンケートフォーム	95
IV 講演会	99

はじめに

FD 活動は日常的に教育改善を行うのに必須の活動である。本研究科では、教育内容の改善に向けて、不断の努力を行っている。とはいえ、教育効果は教授者と学習者の双方のインターアクションの在り方に依存するという関係にある。そこで、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価を行ってきた。この授業評価はFD 活動の柱となってきた。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

繰り返しになるが、以上のような授業評価アンケートは、本研究科が専門職大学院としての教育水準を継続的に向上させることを目的として、それを実施し、その結果を分析し、教育にフィードバックするためのものであり、FD 活動のひとつである。また、第三者評価制度の導入（「学校教育の一部を改正する法律」（2002 年）による）により、専門職大学院としての研究教育活動についての評価を、評価機関から定期的に受けることが求められている。これは、大学教育の質に関する新たな保証システムとして導入された制度であり、本研究科もこの評価を受けることを意識して普段から教育水準の維持・向上に努めている。

FD 活動報告書第 1 号は、本研究科に在籍する学生が 1 年次生のみであったこと等の事情で平成 18 年度春学期に開催されたすべての 1 年次配当科目に対する授業評価を収録した。報告書第 2 号は、平成 18 年度秋学期科目と平成 19 年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、報告書第 3 号では、平成 19 年度の秋学期科目のみ収録して、調整を図った。そして報告書第 4 号から当該年度の 1 年分の科目を収録することとした。これら 4 冊の報告書は自己点検評価報告書第 2 号（平成 21 年 3 月）とともに分野別認証評価に際して提供された。本研究科はこの認証評価ですべての基準を満たし、認定会計大学院の称号を得た。報告書第 5 号は分野別認証評価後の最初の報告書であった。今年度は、報告書第 7 号である。

系列の総括をして気づいたことは、一般的に講義に対する満足度と理解度に相関関係があること、また、講義の進度（学生側の感覚）と理解度や満足度に相関関係があるということである。中には講義のスピードが速く感じられても理解度の高い例や、満足度が高いのに理解度が低い例も見られ、ますますFD の充実が必要であることが実感された。

昨年度に指摘したが、授業評価に加えて、①1 年次・2 年次で共通問題による試験を年度末に行い、②教員が積極的に教科書を作成し、③学生の学習力の差に配慮してカリキュラム内外で対応しているほか、④本研究科の教育顧問や客員教授による有益なセミナーを実施していること、⑤非常勤講師等とのコミュニケーションの充実をはかり教授者のインセンティブを高めていること、⑥これらに関して日常的に話し合いの場を設けていること、など具体的にFD 活動を充実させてきた。

すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、このFD 活動報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。

平成 24 年 3 月

会計研究科長 柴 健次

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 23 年度の春学期と秋学期に開講されたすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（論文指導・修士論文では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

専任教員が担当する科目では、各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。非常勤講師が担当する授業科目については、担当教員へアンケート集計結果及び本報告書を送付している。

(5)対象科目リスト(索引)

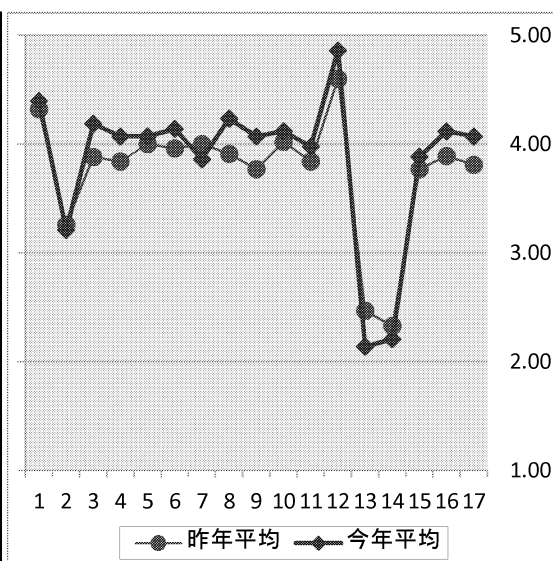
類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁						
基本科目群	横断科目	理論科目	必修科目	会計専門職業倫理	2	2	横断科目	春・秋	7				
				上級簿記	2	1	財務会計系	春・秋	8				
				上級財務会計論<財務会計論>	2	1	財務会計系	春・秋	9				
				上級原価計算論	2	1	管理会計系	春・秋	10				
				上級管理会計論	2	1	管理会計系	春・秋	11				
				監査制度論	2	1	監査系	春・秋	12				
				監査基準	2	1	監査系	春・秋	13				
				企業法<企業法入門>	2	1	法律系	春・秋	14				
発展科目群	横断科目	理論科目	選択必修科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目	春	15				
				会計基準論	2	1	財務会計系	春	16				
				会計制度論	2	1	財務会計系	秋	17				
				財表作成簿記<特殊簿記>	2	1	財務会計系	秋	18				
				戦略管理会計論	2	1	管理会計系	秋	19				
				上級税務会計論	2	1	税務会計系	春	20				
				租税法会計論	2	1	税務会計系	秋	21				
				公会計理論	2	1	公会計系	秋	22				
				監査実施論	2	1	監査系	秋	23				
				監査報告論	2	1	監査系	秋	24				
				商法	2	1	法律系	春	—				
				中級会社法<会社法>	2	1	法律系	秋	—				
				民法(総則・物権)<民法>	2	1	法律系	秋	—				
				経営学理論	2	1	経営系	春	—				
				インベストメント論	2	1	ファイナンス系	春	25				
				コーポレート・ファイナンス論	2	1	ファイナンス系	秋	26				
				ミクロ経済学	2	1	経済・統計系	秋	27				
				統計学	2	2	経済・統計系	秋	—				
				国際会計基準論	2	2	財務会計系	春	28				
				国際会計制度論	2	2	財務会計系	春	—				
				企業分析論	2	2	管理会計系	春	29				
				コストマネジメント論	2	2	管理会計系	秋	30				
				上級税務戦略論	2	2	税務会計系	秋	—				
				公監査論	2	2	公会計系	春	—				
				政府・自治体会計論	2	2	公会計系	春	31				
				国際監査制度論	2	2	監査系	春	—				
				金融商品取引法<証券取引法>	2	2	法律系	春	32				
				上級会社法	2	2	法律系	春	—				
				租税法理論<租税法>	2	2	法律系	春	—				
				民法(債権)	2	2	法律系	春	—				
				経営戦略論	2	2	経営系	春	—				
				経営組織論	2	2	経営系	春	—				
				資本市場論	2	2	ファイナンス系	不開講	—				
				マクロ経済学	2	2	経済・統計系	春	33				
				実践科目	横断科目	個別演習科目	選択必修科目	会計事例研究	2	1	財務会計系	春	34
								管理会計事例研究	2	1	管理会計系	秋	—
								監査事例研究	2	1	監査系	秋	35
								基本会計プログラム演習	2	1	IT・ビジネススキル系	秋	36
								基本監査プログラム演習	2	1	IT・ビジネススキル系	秋	37
								BATIC演習	2	1	IT・ビジネススキル系	春	38
								IFRS実務	2	1	財務会計系	秋	39
								ディスクロージャー実務	2	2	財務会計系	秋	40
税務会計事例研究	2	2	税務会計系					春	—				
企業法判例演習<判例演習>	2	2	法律系					秋	41				
起業・株式公開事例研究	2	2	経営系					春	—				
実践会計プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系					春	42				
実践監査プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系					夏集	—				
アカデミック・ソリューションA	1	1	個別演習科目					春	43-50				
アカデミック・ソリューションB	1	1	個別演習科目					秋	51-58				
プロフェッショナル・ソリューションA	1	2	個別演習科目					春	59-64				
プロフェッショナル・ソリューションB	1	2	個別演習科目					秋	65-71				
論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目					通年	—				

類別		授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁	
応用科目群	横断科目	特殊講義 （企業経営を教える会計の課題と方向）	2	1	横断科目	春	—	
		中小企業金融論	2	1	ファイナンス系	秋	—	
	理論科目	会計検査制度論	2	1	監査系	秋	—	
		英文会計論	2	2	財務会計系	秋	—	
		会計戦略論	2	2	財務会計系	春	—	
		無形資産会計論	2	2	財務会計系	春	72	
		金融商品会計論	2	2	財務会計系	春	73	
		企業結合会計	2	2	財務会計系	不開講	—	
		企業価値マネジメント論 <企業価値計算論>	2	2	管理会計系	秋	—	
		会計情報システム	2	2	管理会計系	不開講	—	
		国際税務戦略論	2	2	税務会計系	春	—	
		非営利会計論	2	2	公会計系	秋	74	
		国際公会計制度論	2	2	公会計系	秋	75	
		保証業務論	2	2	監査系	春	76	
		内部監査論	2	2	監査系	春	—	
		不正摘発監査論	2	2	監査系	春	—	
		法人税法	2	2	法律系	秋	77	
		行政法	2	2	法律系	秋	—	
		プロダクト・マネジメント論	2	2	経営系	春	—	
		国際経営論	2	2	経営系	不開講	—	
		リスク分析論	2	2	ファイナンス系	春	—	
		国際財務戦略論	2	2	ファイナンス系	不開講	—	
		公共経済学	2	2	経済・統計系	秋	78	
		XBRL論	2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—	
		実践科目	国際会計事例研究	2	2	財務会計系	秋	—
			国際管理会計事例研究	2	2	管理会計系	秋	—
			国際税務会計事例研究	2	2	税務会計系	秋	—
			公会計・公監査事例研究	2	2	公会計系	秋	—
			国際監査事例研究	2	2	監査系	春	—
			企業再生事例研究	2	2	経営系	秋	—
	リサーチ・メソドロジー		2	2	IT・ビジネススキル系	不開講	—	
	国際コミュニケーション論		2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—	
	会計系科目		平均	財務会計系				79
管理会計系							80	
税務会計系						81		
公会計系						82		
監査系						83		
非会計系科目		平均	法律系				84	
	経営系					—		
	ファイナンス系					85		
	経済・統計系					86		
	IT・ビジネススキル系					87		
	個別演習科目（アカデミック・ソリューションA）					88		
	個別演習科目（アカデミック・ソリューションB）					89		
	個別演習科目（プロフェッショナル・ソリューションA）					90		
個別演習科目（プロフェッショナル・ソリューションB）				91				
系別平均						92		

Ⅱ . 2011 年度授業評価アンケート結果概要

科 目	会計専門職業倫理			
配当年次	2	開講時限	春月4/秋月3	
受講者数	44	回答者数	43	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.32	4.40	5	5	3
2	3.26	3.21	3	5	2
3	3.88	4.19	4	5	3
4	3.84	4.07	4	5	2
5	4.00	4.07	4	5	1
6	3.96	4.14	4	5	2
7	4.00	3.86	5	5	1
8	3.91	4.23	5	5	2
9	3.77	4.07	4	5	1
10	4.02	4.12	4	5	1
11	3.84	3.98	5	5	1
12	4.60	4.86	5	5	4
13	2.47	2.14	2	5	1
14	2.33	2.21	2	5	1
15	3.77	3.88	4	5	1
16	3.89	4.12	4	5	1
17	3.81	4.07	4	5	1
回答者数	57	43			



受講生の傾向

例年のとおり、予習復習の必要性以外は概ね肯定的な評価であったと思う。当年度の学生の傾向としては真面目に課題に取り組む姿勢が顕著であり、アンケートへの回答はとまかく授業外での取り組みも十分であったと思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

必要最小限出席するというような傾向を除くよう、興味を持てる授業内容にするよう工夫した。チーム編成も受講生の声を聴いて配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

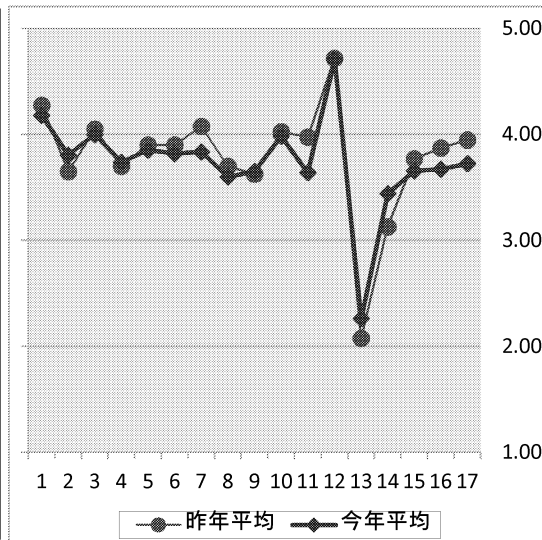
- ・大学院協会での議論を踏まえ、内容的に理論、制度、実践のバランスに留意する(特に理論面の強化)。グループワーク等積極的な参加を促すための採点基準の工夫。
- ・グループワークが苦手な学生に対する留意。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生との対話を重要視し、進んで参加したくなるような授業内容となるよう工夫したい。

科 目	上級簿記		
配当年次	1	開講時限	春月2木3/春月3木2/秋木2
受講者数	70	回答者数	61

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.28	4.18	4	5	1
2	3.65	3.80	3・4	5	1
3	4.05	4.00	4	5	1
4	3.70	3.74	4	5	1
5	3.90	3.85	4	5	1
6	3.90	3.82	4	5	1
7	4.08	3.84	4	5	1
8	3.70	3.60	4	5	1
9	3.63	3.65	4	5	1
10	4.03	3.98	4	5	2
11	3.98	3.64	4	5	1
12	4.72	4.70	5	5	1
13	2.08	2.26	1	5	1
14	3.13	3.44	3	5	1
15	3.77	3.66	4	5	1
16	3.87	3.67	4	5	1
17	3.95	3.72	4	5	1
回答者数	40	61			



受講生の傾向

講義中は静穏な環境が保たれていたが、遅刻する受講生が散見され、また、講義中に携帯電話等を操作したり、別の問題集で別の勉強をしている受講生もいた。会計基準等の原文は教科書として指定し、試験でも持ち込み可能としていたが、あまり参照してない様子であった。試験での得点力に差があり、得点力の低い受講生は、財務諸表の基本様式を理解できておらず、日商検定2級の習熟度に問題があるように見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に、パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。また、オリジナルの確認問題を毎回作成・配布して、講義内容の理解と復習を促した。パワーポイントと確認問題は、重要な論点を優先的に取り扱い、会計基準等の新設・変更を踏まえて内容をリファインしている。今年度は、検定試験等の傾向を考慮して取り扱う論点を増やし、説明に時間をかけた。講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、簿記一巡の手続や原理・原則に従って説明することを心がけた。また、会計基準等で重要な部分は、講義中に該当箇所を指示して確認させるなど、原文を参照して勉強することの大切さを実感してもらえるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

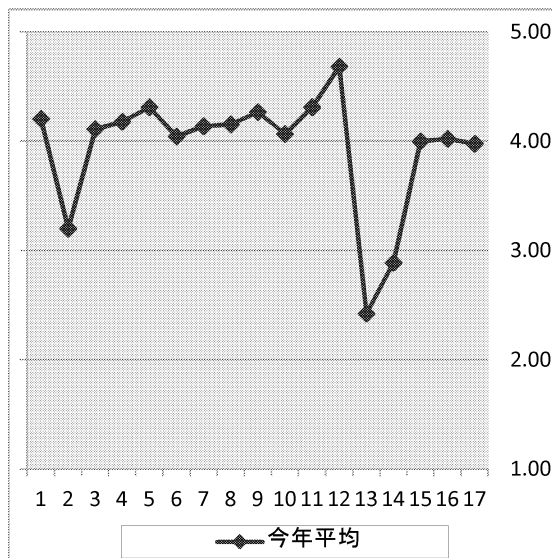
会計基準等の原文を参照して勉強するスタイルを定着させるように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを念頭においた説明を心がける。財務諸表の様式をしっかりと覚えるように指導する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を参照して勉強するように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを一連の手続として捉えて学習するように指導する。講義で取り扱う論点を増やしたこともあって、問題演習の時間を適切に確保できないことがあった。要領よく説明するように工夫する。

科 目	上級財務会計論		
配当年次	1	開講時限	春月2・木3/春月3・木2/秋火2
受講者数	52	回答者数	45

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.20	4	5	1
2	—	3.20	3	5	1
3	—	4.11	4	5	1
4	—	4.18	4	5	1
5	—	4.31	5	5	1
6	—	4.04	4	5	1
7	—	4.14	4	5	1
8	—	4.16	4	5	1
9	—	4.27	5	5	1
10	—	4.07	4	5	1
11	—	4.31	5	5	1
12	—	4.68	5	5	1
13	—	2.42	3	5	1
14	—	2.89	3	5	1
15	—	4.00	4	5	1
16	—	4.02	4	5	1
17	—	3.98	4	5	1
回答者数	—	45			



受講生の傾向

全体的に、欠席や遅刻する受講生がほとんどおらず、熱心に受講していたように思われる。質問番号13/14から判断すると予習・復習に充てる時間が平均値として、30分～1時間弱のようであり、講義時間内は熱心であるという傾向がうかがえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度より担当する講義であり、昨年度の授業評価アンケートを踏まえた講義をすることはできなかった。パワーポイントを使用しての講義であるため、学生がただスライドを見ているだけにならないように、講義資料や話し方に留意したつもりである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

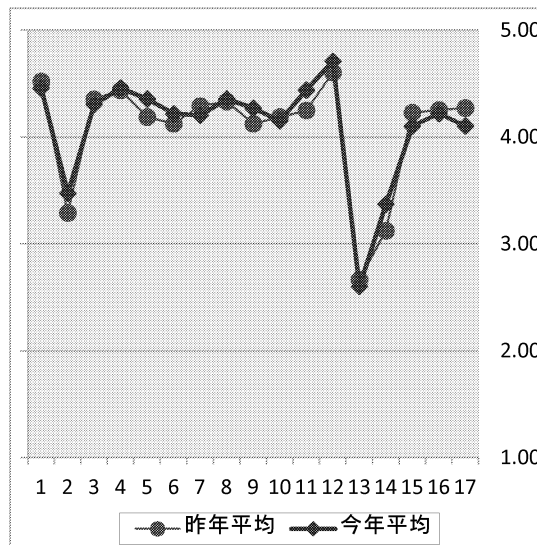
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習の時間が短いことから、講義時間外での学習を促すような課題や小テストといった方策を講じる必要がある。

科目	上級原価計算論			
配当年次	1	開講時限	春月3・木2/春月2・木3/秋月3	
受講者数	66	回答者数	59	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	4.46	5	5	1
2	3.29	3.47	3	5	3
3	4.35	4.31	4・5	5	1
4	4.44	4.46	5	5	1
5	4.19	4.36	5	5	1
6	4.13	4.22	4	5	1
7	4.29	4.20	4	5	1
8	4.33	4.36	5	5	1
9	4.13	4.27	4	5	1
10	4.19	4.15	4	5	1
11	4.25	4.44	5	5	1
12	4.60	4.71	5	5	1
13	2.67	2.60	3	5	1
14	3.13	3.37	3	5	1
15	4.23	4.10	4	5	1
16	4.26	4.22	4	5	2
17	4.27	4.11	4	5	1
回答者数	48	59			



受講生の傾向

春学期の受講者は、基礎的な学習が進んでいる学生と進んでいない学生が混在していたため、基礎的な学習を踏まえて一部の発展的な知識の習得を目標とした。秋学期の受講者は、基礎的な学生が進んでいない学生が支配的であったため、基礎的な知識の習得に主眼を置いた。ただし、学習項目について、春学期と秋学期の間に大きな差異はない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業で体感できる受講生の学習状況をできる限り反映させることができるように、各回の講義の進め方(とくに話し方や授業の組み立て方)を柔軟に行い、計算過程の図表による簡略化などを用いて学生の理解が進むように説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

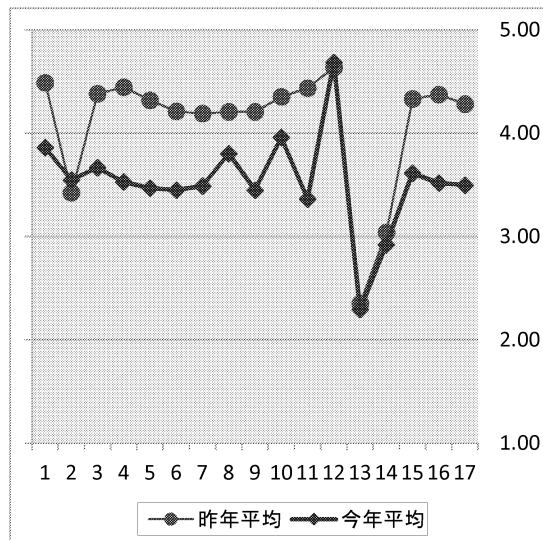
学生間の習熟度の差の拡大を考慮し、一つの授業をいくつかのパートに分けて、それぞれのパートで「初級」、「中級」、「上級」の論点についてレクチャーしていくことを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	上級管理会計論			
配当年次	1	開講時限	春月3・木2/春月2・木3/秋金2	
受講者数	68	回答者数	52	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.49	3.86	4	5	1
2	3.43	3.55	3	5	1
3	4.38	3.67	4	5	1
4	4.45	3.53	3	5	1
5	4.32	3.47	4	5	1
6	4.21	3.45	4・5	5	1
7	4.19	3.49	4	5	1
8	4.21	3.80	4	5	1
9	4.21	3.45	4	5	1
10	4.35	3.96	4	5	1
11	4.44	3.37	4	5	1
12	4.64	4.69	5	5	1
13	2.35	2.29	3	5	1
14	3.04	2.92	3	5	1
15	4.33	3.62	4	5	1
16	4.38	3.52	4	5	1
17	4.28	3.50	4	5	1
回答者数	49	52			



受講生の傾向

当該科目の理解度について、受講前の段階における学生間の差が大きい。また、科目の重要性に比して特に復習が十分ではないと思われる学生が見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義に際しては、練習問題の解説を丁寧に行うこと、および計算の背後にある理論および実践についても解説するよう留意した。

ただし、今年度より本講義を担当したため、工夫点および留意点について昨年度との比較はできない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

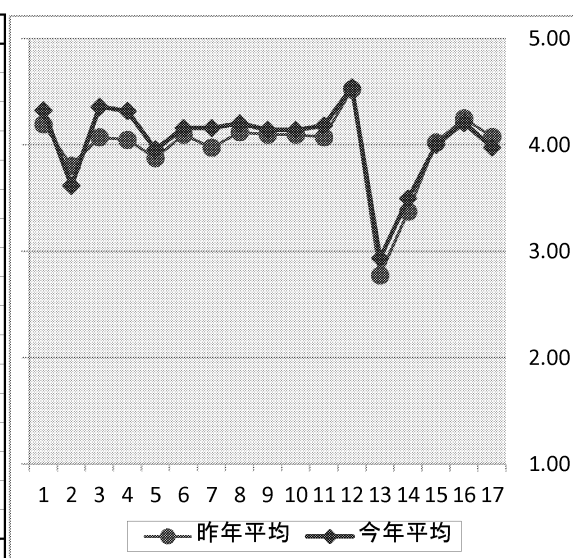
一面的な授業ではなく、いくつかのパートに分けて授業を実施することや、事例だけでなくメタファーなどを用いて、よりわかりやすく授業を行うことを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートを通じて、全般的な改善の必要性を感じた。特に理解の十分ではない学生に対するフォローの必要性があると考えている。

科 目	監査制度論			
配当年次	1	開講時限	春火2・金3/春火3・金2/秋火3	
受講者数	57	回答者数	50	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.33	5	5	1
2	3.80	3.62	3	5	1
3	4.07	4.36	5	5	1
4	4.05	4.32	5	5	1
5	3.88	3.96	4	5	1
6	4.10	4.16	4	5	1
7	3.98	4.16	4	5	1
8	4.12	4.20	4	5	1
9	4.10	4.14	5	5	1
10	4.10	4.14	4	5	1
11	4.07	4.18	5	5	1
12	4.53	4.54	5	5	1
13	2.78	2.94	3	5	1
14	3.38	3.50	5	5	1
15	4.03	4.00	4	5	1
16	4.25	4.21	4	5	1
17	4.08	3.98	4	5	1
回答者数	41	50			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は高く80%以上となっており、昨年に比べるとほぼ全ての面で勉学に対する意欲が相対的に高まっているように解される。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(項目13)も昨年度より若干の増加がみられるとともに、復習時間も向上が見られる(項目14)ため、昨年度の受講生に比べて今年度の受講生のモラルは高いと捉えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度も監査基準改訂があったため、該当する箇所や不備のあった箇所などを追加的なパワーポイントによるスライドを用意・配布した上で、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了する(1週間)ごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を指名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

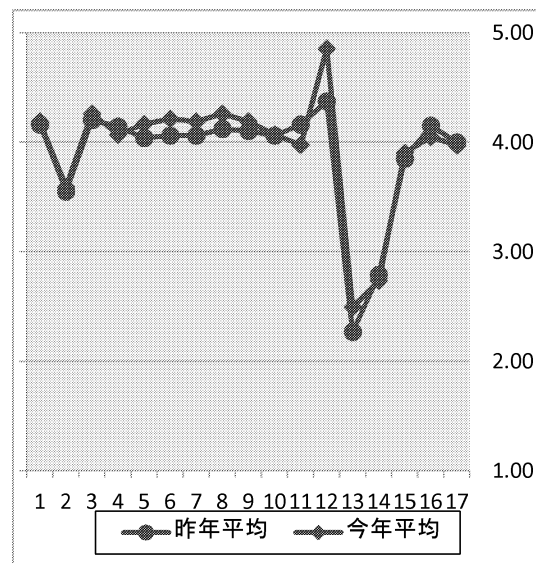
今年度はこちらの期待に沿う形で、受講生の側で予習・復習の時間が若干増加したものの、相変わらず少ないため復習課題の一部提出強制をする必要があるかもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題の強制提出ではなく、希望者からの提出を受け付け再添削とコメントを行なった。

科 目	監査基準			
配当年次	1	開講時限	春水2/秋水2	
受講者数	49	回答者数	42	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.16	4.19	4	5	1
2	3.55	3.60	3	5	3
3	4.20	4.26	4	5	3
4	4.14	4.07	4	5	1
5	4.04	4.17	4	5	2
6	4.06	4.21	4	5	2
7	4.06	4.19	4	5	2
8	4.12	4.26	4	5	3
9	4.10	4.19	4	5	1
10	4.06	4.07	4	5	2
11	4.16	3.98	4	5	1
12	4.38	4.86	5	5	4
13	2.27	2.50	1	5	1
14	2.79	2.74	3	5	1
15	3.85	3.90	4	5	1
16	4.15	4.05	4	5	1
17	4.00	3.97	4	5	1
回答者数	49	42			



受講生の傾向

受講生の質が、公認会計士試験を目指すタイプと、単位目的のタイプに大きく分かれていたように思う。特に留学生の多くは、後者に偏っていて、期末試験対策は非常に熱心であった。一部に、非常に熱心な学生がいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

宿題(暗記および確認テスト)は、定期的ではないが継続した。これに積極的に取り組んでいる学生も見られた。試験目的の学生が比較的少なかったことから、講義内容は、スピード(多くの内容をカバーする)よりも、じっくり理解することに重点をおいた、試験の体制(持ち込み等)を早目に伝達したことにより、気分的に落ち着いたようであった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

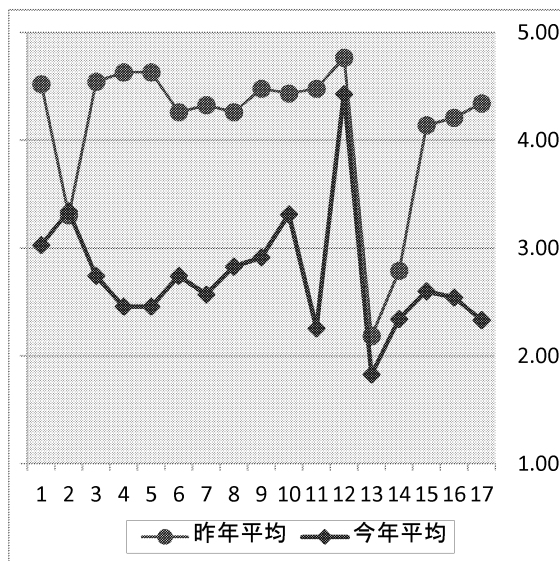
思った以上に、さらに丁寧なペースで講義を行う必要があると感じた。宿題(暗記および確認テスト)は、やる気のある受講生にとっては、非常に評判がいいように思うので、継続する。机上の話だけではなく、実際の監査現場での話に興味があるようなので、より鮮明に現場の状況がわかるように、伝えていきたいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度は本講座を担当しないため、該当なし。

科 目	企業法			
配当年次	1	開講時限	春水3/秋月2	
受講者数	56	回答者数	35	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.52	3.03	3	5	1
2	3.30	3.34	3	5	1
3	4.54	2.74	2	5	1
4	4.63	2.46	1・3	5	1
5	4.63	2.46	5	5	1
6	4.26	2.74	2	5	1
7	4.33	2.57	3	5	1
8	4.26	2.83	3	5	1
9	4.48	2.91	3	5	1
10	4.43	3.31	3	5	1
11	4.48	2.26	2・3	5	1
12	4.77	4.43	5	5	1
13	2.19	1.83	1	5	1
14	2.79	2.34	3	5	1
15	4.14	2.60	3	5	1
16	4.21	2.54	3	5	1
17	4.34	2.33	3	5	1
回答者数	46	35			



受講生の傾向

勉強している受講生とそうでない受講生の差が激しい印象があった。特に、春学期は、授業にほとんど付いてきていないと思われる受講生が相当数見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度、初めて担当になったため、昨年度のアンケートについてはコメントできない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

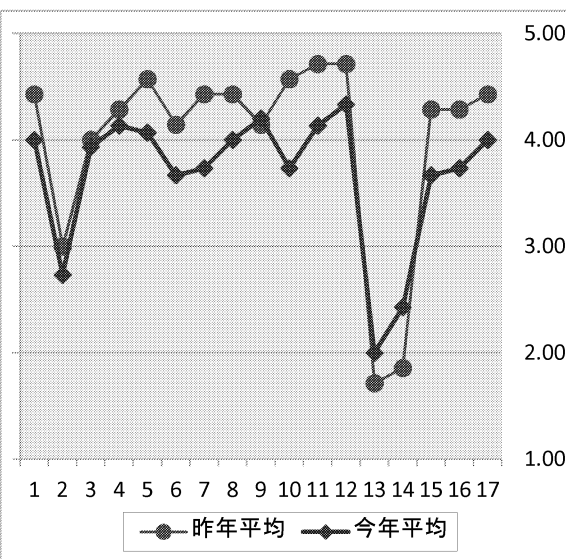
今年度、初めて担当になったため、昨年のアンケートの記載についてはコメントできない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

同様に、コメントできない。ただし、昨年度と比較して、評価が大きく下がったことについては、講義の仕方に問題があり、受講生に理解しにくかったのではないかと反省している。比較的詳細なレジュメを作成し、相応の時間を費やして講義の準備をしたつもりではあるが、できるだけ詳細にわたる説明をしようとしたために、消化不良になったのではないと思われる。今後は、基本的な点に絞って、じっくりと解説するなど、受講生に理解しやすいように工夫したいと考えている。

科 目	会計専門職業数学			
配当年次	1	開講時限	土2	
受講者数	23	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.00	4	5	1
2	3.00	2.73	3	3	1
3	4.00	3.93	4	5	1
4	4.29	4.13	5	5	1
5	4.57	4.07	4	5	1
6	4.14	3.67	3	5	1
7	4.43	3.73	4	5	1
8	4.43	4.00	4	5	1
9	4.14	4.20	5	5	1
10	4.57	3.73	4	5	1
11	4.71	4.13	5	5	1
12	4.71	4.33	5	5	1
13	1.71	2.00	2	3	1
14	1.86	2.43	3	4	1
15	4.29	3.67	3	5	1
16	4.29	3.73	4	5	1
17	4.43	4.00	4	5	1
回答者数	7	15			



受講生の傾向

この授業の受講生は、学部時代に数学をよく勉強してきた者とそうでない者が混在した。それで、最初は、学部時代に数学を勉強してきていなかった受講生向けの初歩的な授業を行い、授業になれるにつれて、内容の高いレベルにまで引き上げていったが、全員が最後まで熱心に受講してくれた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数式はできるだけ簡単なものにして、経営学、経済学、会計学などで使われる応用例を用いて受講生の関心を高める工夫をした。そして、各自の理解度を高めるために、毎回のように宿題を出し、次回の授業時に受講生にホワイトボードに解答をかかせて、全員でその解答の成否を分析してした。さらに中間テスト、期末テストなどテストを何度も実施し、受講生の習熟度を高めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

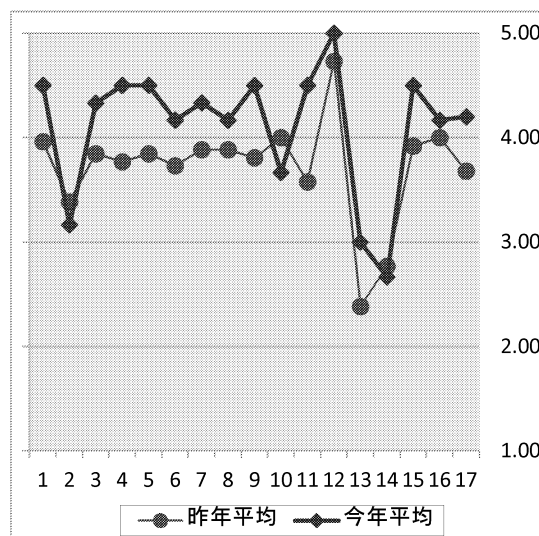
受講生の大半がもともと文系であるので、最初は数学に対するアレルギーがあるように見受けられる。その数学アレルギーを取り除くように工夫する必要がある。したがって、数式はできるだけ簡単なものにするようにすべきである。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生は、簡単な数式にしたので、思ったより経済学、経営学、会計学などで用いる数学は簡単で分かり易く、面白いので、熱心に受講してくれた。それで、今後は一人でも多くの学生が受講してくれるようにアピールしたい。

科 目	会計基準論			
配当年次	1	開講時限	月4	
受講者数	8	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.96	4.50	4・5	5	4
2	3.38	3.17	3	4	3
3	3.85	4.33	4	5	4
4	3.77	4.50	4・5	5	4
5	3.85	4.50	4・5	5	4
6	3.73	4.17	4	5	4
7	3.88	4.33	4	5	4
8	3.88	4.17	4	5	4
9	3.81	4.50	4・5	5	4
10	4.00	3.67	3・5	5	3
11	3.58	4.50	4・5	5	4
12	4.73	5.00	5	5	5
13	2.38	3.00	3	4	2
14	2.77	2.67	2	4	3
15	3.92	4.50	4・5	5	4
16	4.00	4.17	5	5	3
17	3.68	4.20	4・5	5	3
回答者数	26	6			



受講生の傾向

予習確認型小テストを導入したため予習時間が伸びている。全体としての学習満足度も高まっている。授業に対する評価は大幅に高まっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

毎回の講義に入る前に当日の講義範囲に関する小テスト(予習確認試験)を導入した。教える側も学ぶ側も努力を求められる仕組みであるが、数回目からは慣れたようで、欠席者もほとんどなく、予習中心の学習が定着したようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

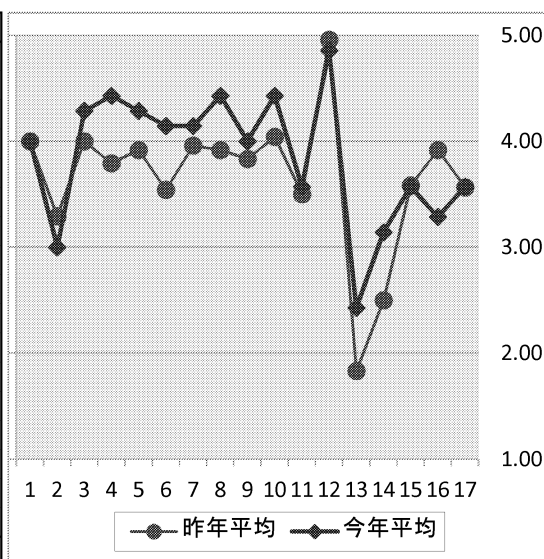
本年度の対応が効果が出ているものの、一層の学習意欲を掻き立てるために、また、学習時期を最適化するために、開講学期を春学期とし、かつ13回の予習確認型試験と最終試験を実施する。昨年度記載した「今後の対応」は引き続き維持する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2012年度はこの科目を非常勤講師が担当するので「今後の対応」をとれないが、13年度には11年度の方式を踏襲したいと思う。

科 目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	月4	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.00	4	5	2
2	3.29	3.00	3	4	2
3	4.00	4.29	5	5	3
4	3.79	4.43	5	5	3
5	3.92	4.29	5・4	5	3
6	3.54	4.14	5	5	2
7	3.96	4.14	5	5	2
8	3.92	4.43	5	5	3
9	3.83	4.00	5	5	2
10	4.04	4.43	5	5	3
11	3.50	3.57	5	5	1
12	4.96	4.86	5	5	4
13	1.83	2.43	1・3	5	1
14	2.50	3.14	2・5	5	1
15	3.58	3.57	5	5	1
16	3.92	3.29	2・4・5	5	1
17	3.57	3.57	5	5	1
回答者数	24	8			



受講生の傾向

復習確認型小テストを導入したため復習時間が伸びている。全体としての学習満足度は昨年並みである。授業に対する評価はやや高まっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この科目は教える側が会計の発想を伝える工夫を講義時に行うので、予習中心の授業には向かない。そこで、毎回、前回の講義内容を踏まえた記述問題(復習確認型試験)を解かせた。この繰り返しにより、原則をしっかり考えるという姿勢が身に着いたようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

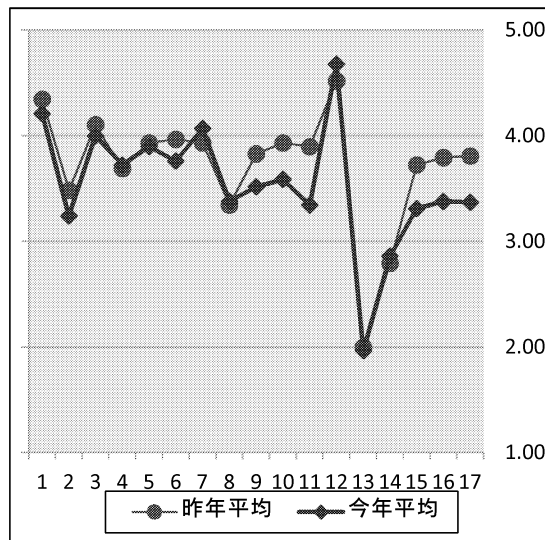
一昨年対比で昨年在評価等が悪化したのに対して、昨年対比で今年度は大幅に改善したので、昨年記載した「今後の対応」の効果を引き出すために明年度も継続する。ただし、明年度は、学習時期の適正化を図るため(上級財務会計論を継いだ内容とするために)に秋学期に開講し、復習確認試験を13回、最終試験を1回実施する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

効果が出ている昨年度の方式(復習確認型試験による復習重視の学習)を踏襲する。

科目	財表作成簿記		
配当年次	1	開講時限	木3
受講者数	36	回答者数	29

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.34	4.21	4	5	1
2	3.48	3.24	3	5	1
3	4.10	4.00	4	5	1
4	3.69	3.72	4	5	1
5	3.93	3.90	4	5	1
6	3.97	3.76	4	5	1
7	3.93	4.07	4	5	1
8	3.34	3.38	4	5	1
9	3.83	3.52	3	5	1
10	3.93	3.59	4	5	1
11	3.90	3.34	4	5	1
12	4.52	4.68	5	5	3
13	2.00	1.97	1	4	1
14	2.79	2.86	3	5	1
15	3.72	3.31	3	5	1
16	3.79	3.38	4	5	1
17	3.81	3.37	4	5	1
回答者数	29	29			



受講生の傾向

講義中は静穏な環境が保たれていたが、遅刻する受講生が散見され、また、講義中に携帯電話等を操作したり、別の問題集で別の勉強をしている受講生もいた。会計基準等の原文は教科書として指定し、試験でも持ち込み可能としていたが、あまり参照してない様子であった。試験での得点力に差があり、得点力の低い受講生は、取引の内容や仕訳の意味ないし手順を理解しないまま、問題をテクニカルに解いているように見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に、パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。また、オリジナルの確認問題を毎回作成・配布して、講義内容の理解と復習を促した。パワーポイントと確認問題は、重要な論点を優先的に取り扱い、会計基準等の新設・変更を踏まえて内容をリファインしている。今年度は、一連の手順として重要な部分は反復的に取り扱い、論点を整理して説明の手順を工夫するなど、受講生の理解を高めるようにした。講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、簿記一巡の手続や原理・原則に従って説明することを心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

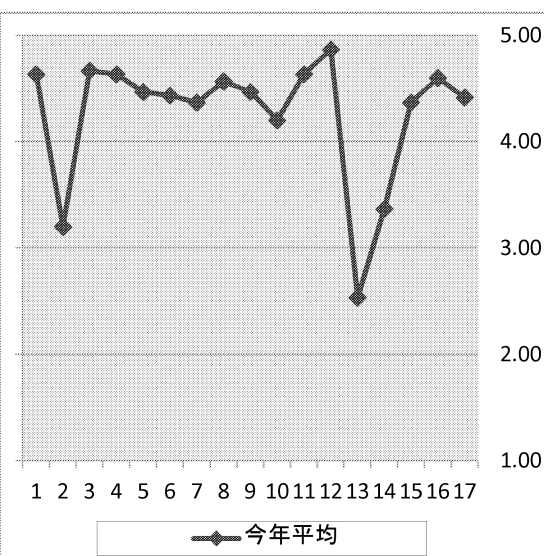
仕訳の意味や計算の方法を理解して問題を解き、財務諸表の作成につなげていくように指導する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

仕訳の意味と財務諸表の作成手順をしっかりと学習するように指導する。講義で取り扱う論点を増やしたこともあって、問題演習の時間を適切に確保できないことがあった。要領よく説明するように工夫する。

科 目	戦略管理会計論			
配当年次	1	開講時限	金3	
受講者数	37	回答者数	31	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.63	5	5	3
2	—	3.20	3	4	3
3	—	4.67	5	5	3
4	—	4.63	5	5	3
5	—	4.47	5	5	3
6	—	4.43	5	5	2
7	—	4.37	5・4	5	2
8	—	4.57	5	5	3
9	—	4.47	5	5	2
10	—	4.20	5	5	2
11	—	4.63	5	5	3
12	—	4.87	5	5	4
13	—	2.53	1	5	1
14	—	3.37	3	5	1
15	—	4.37	5	5	3
16	—	4.60	5	5	3
17	—	4.41	5	5	3
回答者数	—	31			



受講生の傾向

受講生はおおむね管理会計に興味を持った学生であった。そのため、管理会計のそれぞれの項目(伝統的な項目だけでなく最近の項目)を概観し、そのうえで全体がどのように再構成できるのかについて、既存文献(おもに我が国での代表的な教科書)をベースにレクチャーした。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

文献などで各項目が概括的に記述されていることが多いことや、文献そのものを読むことに慣れていない学生が多いことから、それぞれの項目について何が重要か(ポイントは何か)ということを絞り、中心となるポイントから派生させる形で授業を組み立て、それに基づいて実施した。

今後の対応

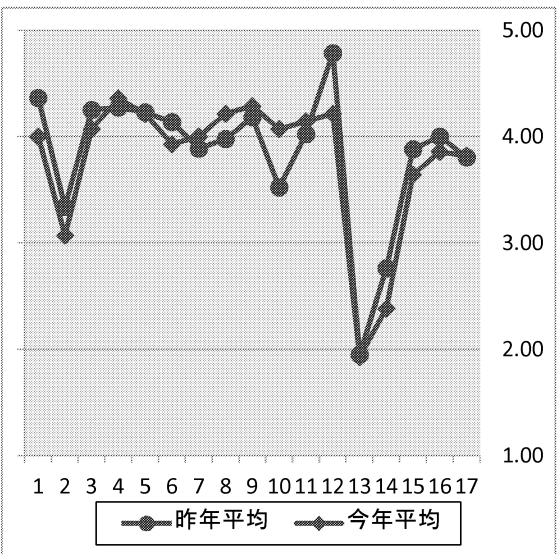
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	上級税務会計論			
配当年次	1	開講時限	火1	
受講者数	16	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.36	4.00	5	5	1
2	3.34	3.07	3	5	1
3	4.25	4.07	4・5	5	1
4	4.27	4.36	5	5	1
5	4.23	4.21	4	5	1
6	4.14	3.93	5	5	1
7	3.89	4.00	5	5	1
8	3.98	4.21	5	5	1
9	4.18	4.29	5	5	1
10	3.52	4.07	4	5	1
11	4.02	4.14	4・5	5	1
12	4.79	4.21	5	5	1
13	1.95	1.93	1	5	1
14	2.76	2.38	2	5	1
15	3.88	3.64	4	5	1
16	4.00	3.86	4	5	1
17	3.80	3.82	3・4	5	1
回答者数	44	14			



受講生の傾向

質問No. 13、14が示す通り、予習・復習に充てる時間が不足しているため、講義内容を十分に理解できていない受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、難易度の高い項目を数多く取り扱ったため、受講生の理解不足が目立っていた。このため、今年度は、基本項目を中心にした講義に切り替え、応用項目は、秋開講の「租税法会計論」で取り扱うよう学習量の平均化を行った。また、各回に小テストを実施し、復習不足を補うように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

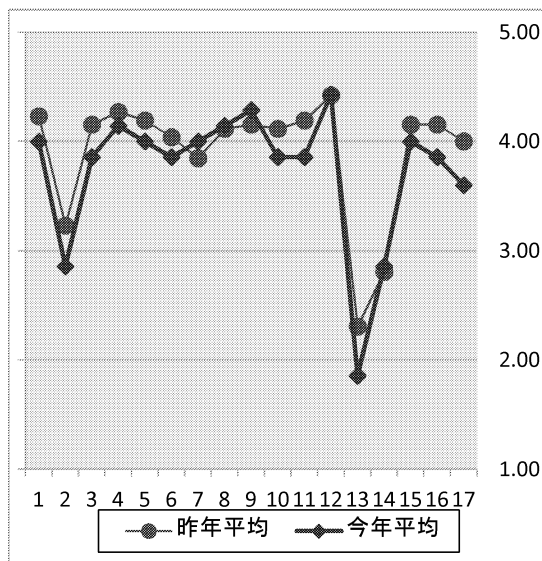
春学期開講の本講義は、税務会計の初学者が多い関係から、今年度と異なり、難易度を徐々に引き上げていく方式に切り替える必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の受講生も、税務会計の初学者が多かった。そこで、講義内容については、今年度に引き続き、秋開講の「租税法会計論」と関係させて、学習量の平均化を図る手法を採用したい。また、自宅学習時間を増やすため、課題レポートを課すことも検討したい。

科 目	租税法会計論		
配当年次	1	開講時限	火1
受講者数	11	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.23	4.00	5	5	2
2	3.23	2.86	3	3	2
3	4.15	3.86	5	5	1
4	4.27	4.14	5	5	1
5	4.19	4.00	4・5	5	1
6	4.04	3.86	4	5	1
7	3.85	4.00	4・5	5	1
8	4.12	4.14	4・5	5	2
9	4.15	4.29	5	5	2
10	4.12	3.86	5	5	2
11	4.19	3.86	5	5	1
12	4.42	4.43	5	5	3
13	2.31	1.86	1	3	1
14	2.81	2.86	1・3・5	5	1
15	4.15	4.00	5	5	2
16	4.15	3.86	4	5	2
17	4.00	3.60	4	5	2
回答者数	26	7			



受講生の傾向

既習者と初学者との税務会計に関する知識の差が大きかった。このため、質問No. 2が示す通り、講義の進度が遅いと感じる受講生が昨年度よりも増える結果となったと思われる。ただ、初学者は、講義後に毎回質問に来るなど、かなり熱心に取り組んだ印象を持っている。これは、質問14(復習時間)における平均が若干増えた要因であると推測する。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容を前半と後半に区分し、前半の法人税法の終了後、臨時試験を実施する旨を最初にアナウンスして、受講生のモチベーションの維持に努めた。また、昨年度と異なり、今年度は、春開講の「上級税務会計論」と連係して、法人税法の応用項目を本講義で取り扱い、法人税法を学ぶ負担を平均化するよう努めた。さらに、後半の消費税法にも多くの時間を割き、受講生の理解向上に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

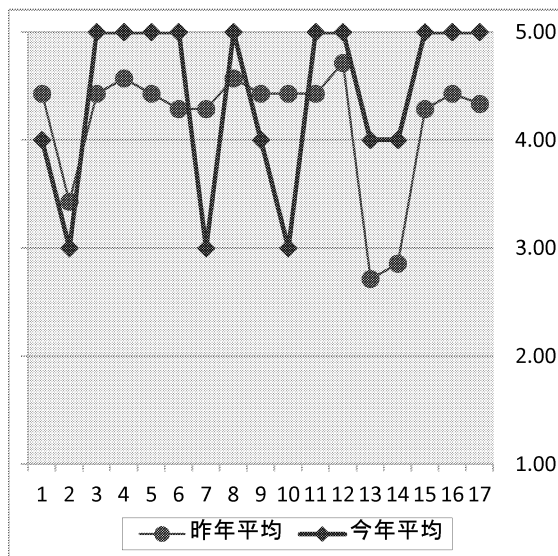
上級税務会計論と異なり、臨時試験を途中で実施した効果があり、受講生の税務会計への理解を高めることができた。今後も継続していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義の進度を上げるために、受講生の自宅学習時間を増やす必要がある。その方法の1つとして、課題レポートを提出させることを検討したい。

科 目	公会計理論			
配当年次	1	開講時限	金4	
受講者数	2	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.43	4.00	4	4	4
2	3.43	3.00	3	3	3
3	4.43	5.00	5	5	5
4	4.57	5.00	5	5	5
5	4.43	5.00	5	5	5
6	4.29	5.00	5	5	5
7	4.29	3.00	3	3	3
8	4.57	5.00	5	5	5
9	4.43	4.00	4	4	4
10	4.43	3.00	3	3	3
11	4.43	5.00	5	5	5
12	4.71	5.00	5	5	5
13	2.71	4.00	4	4	4
14	2.86	4.00	4	4	4
15	4.29	5.00	5	5	5
16	4.43	5.00	5	5	5
17	4.33	5.00	5	5	5
回答者数	7	1			



受講生の傾向

回答者が常時出席の1名であったため満足度の高い評価となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者との対話式の講義の進め方を定着させ、毎回の講義から得た知識を一つのレポートにまとめさせた。講義が進むにつれ、関心度が高まっていったようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

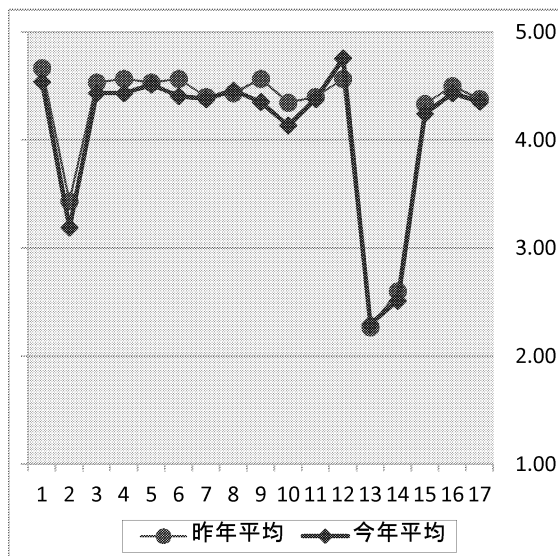
今後は、我が国における停滞する公会計制度改革と制度の基礎にある理論を峻別して、論点をより鮮明にするように心がける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

例年、受講者が多くないので、このところの講義方式を踏襲する。

科 目	監査実施論			
配当年次	1	開講時限	土3	
受講者数	37	回答者数	37	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.54	5	5	3
2	3.43	3.19	3	5	2
3	4.53	4.43	4	5	3
4	4.57	4.43	4	5	3
5	4.53	4.51	5	5	3
6	4.57	4.41	5	5	3
7	4.40	4.38	4	5	3
8	4.43	4.46	5	5	3
9	4.57	4.35	5	5	1
10	4.34	4.14	4	5	2
11	4.40	4.38	4	5	2
12	4.57	4.76	5	5	3
13	2.27	2.30	1	5	1
14	2.60	2.51	2	5	1
15	4.33	4.24	4	5	2
16	4.50	4.43	5	5	2
17	4.38	4.35	4	5	3
回答者数	30	37			



受講生の傾向

- ・授業の評価に関する質問No.1～11については全ての項目についてほぼ前年同様の評価であった。
- ・学生自身の授業への取り組みの質問No.12～17をみると、出席率が非常に高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解している学生が大多数であった。
- ・授業の進度(質問No.2)についても、ちょうど良いと回答している学生が多数であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問い(質問No.16)に対しては「普通～良」程度の回答が多かったため、今年度は実務経験を生かし、より分かりやすい講義を行ったつもりである。ただ、まだまだ改善の余地があるように思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

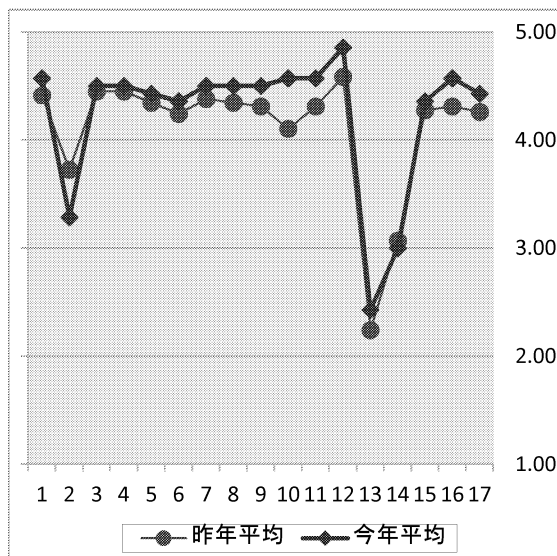
- ・いずれの評価項目についても昨年度より向上している。翌期も実務を踏まえた講義を実施していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・いずれの評価項目についても昨年度とほぼ同様である。翌期も実務を踏まえた最新の監査手法を取り入れた講義を実施していきたい。

科 目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	金1	
受講者数	20	回答者数	14	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.41	4.57	5	5	3
2	3.72	3.29	3	4	3
3	4.45	4.50	5	5	3
4	4.45	4.50	5	5	2
5	4.34	4.43	5	5	2
6	4.24	4.36	4	5	3
7	4.38	4.50	5	5	2
8	4.34	4.50	5	5	3
9	4.31	4.50	5	5	3
10	4.10	4.57	5	5	4
11	4.31	4.57	5	5	3
12	4.59	4.86	5	5	4
13	2.24	2.43	1	5	1
14	3.07	3.00	2	5	1
15	4.28	4.36	5	5	3
16	4.31	4.57	5	5	3
17	4.26	4.43	5	5	3
回答者数	30	14			



受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(項目12)は平均85%以上を確保しており、極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも去年に比べて相対的に高くなっている。しかし、公認会計士試験に直接関係する重要科目であるにもかかわらず、受講者数が去年に比べて半減している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査基準の改訂があったため、昨年以上に、毎回、パワーポイントによるスライドを追加的に用意・配布するとともに、必要に応じて各種の基準・実務指針・意見書等をコピーした上で配布した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列举した。さらにこれら配付資料の全ては、授業当日中に関西大学インフォメーション・システムにアップロードし、WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

昨年に続き、前回の理解度を確認するための小テストを授業時間の最初に15分程度で実施し、添削して返却した。また成績優秀者数名の答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

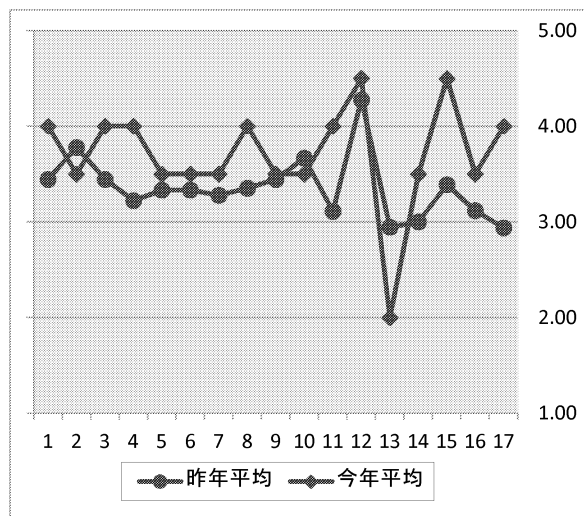
受講生の側での予習・復習の時間を確保するため、任意で復習課題の提出と添削・コメントを行なった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

公認会計士試験にとって重要科目であるため、今年度のように金曜1限に配置することが受講生の履修選択にどのように影響したかを把握した上で、一定の見直しが必要と思われる。

科 目	インベストメント論			
配当年次	1	開講時限	金4	
受講者数	5	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.44	4.00	4	4	4
2	3.78	3.50	3・4	4	3
3	3.44	4.00	4	4	4
4	3.22	4.00	4	4	4
5	3.33	3.50	3・4	4	3
6	3.33	3.50	3・4	4	3
7	3.28	3.50	3・4	4	3
8	3.35	4.00	4	4	4
9	3.44	3.50	3・4	4	3
10	3.67	3.50	3・4	4	3
11	3.11	4.00	4	4	4
12	4.28	4.50	4・5	5	4
13	2.94	2.00	1・3	3	1
14	3.00	3.50	3・4	4	3
15	3.39	4.50	4・5	5	4
16	3.12	3.50	3・4	4	3
17	2.94	4.00	4	4	4
回答者数	18	2			



受講生の傾向

工学部出身等の数学がかなり得意な学生が多かった。また、公認会計士試験で経営学を受験する、あるいは、証券アナリスト試験を受験する等の目的のはっきりした学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数学が苦手な学生に対し、数学を使わずに考え方の説明等を行う予定であったが、今年度の受講生は数学の得意な学生が多く、数学を使った説明に十分についてきてくれていたので、広い範囲を深く学習することができた。学生の資質を見ながら、対応することが必要と感じた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

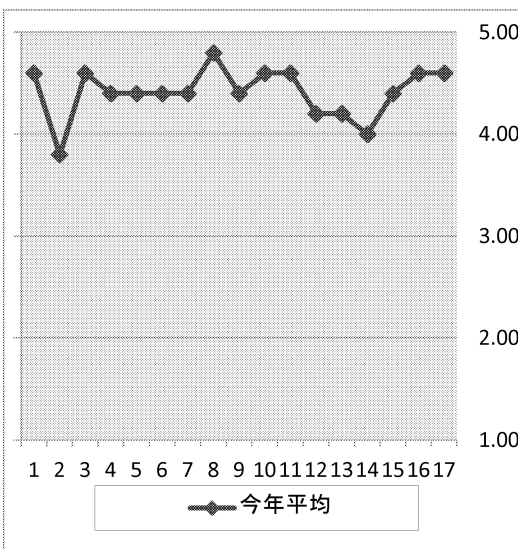
公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて、シラバスで明示するとともに、少なくとも高校レベルの数学について基礎から復習するようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度、当科目を担当予定ではないため、コメントなし。

科 目	コーポレート・ファイナンス論		
配当年次	1	開講時限	木1
受講者数	8	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.60	5	5	4
2	—	3.80	3・4	5	3
3	—	4.60	5	5	4
4	—	4.40	3・4	5	3
5	—	4.40	3・4	5	3
6	—	4.40	3・4	5	3
7	—	4.40	3・4	5	3
8	—	4.80	5	5	4
9	—	4.40	3・4	5	3
10	—	4.60	5	5	4
11	—	4.60	5	5	4
12	—	4.20	4・5	5	3
13	—	4.20	5	5	3
14	—	4.00	3・5	5	3
15	—	4.40	3・4	5	3
16	—	4.60	5	5	4
17	—	4.60	5	5	4
回答者数	—	6			



受講生の傾向

工学部出身等の数学がかなり得意な学生が多かった。また、公認会計士試験で経営学を受験する、あるいは、証券アナリスト試験を受験する等の目的のはっきりした学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数学が苦手な学生に対し、数学を使わずに考え方の説明等を行う予定であったが、今年度の受講生は数学の得意な学生が多く、数学を使った説明に十分についてきてくれたので、広い範囲を深く学習することができた。

今後の対応

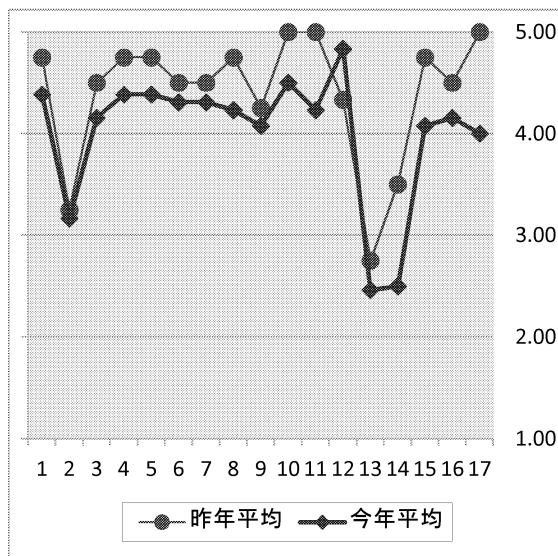
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。

科 目	ミクロ経済学			
配当年次	1	開講時限	土2	
受講者数	20	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.38	5	5	1
2	3.25	3.17	3	4	3
3	4.50	4.15	4	5	1
4	4.75	4.38	5	5	1
5	4.75	4.38	5	5	2
6	4.50	4.31	4・5	5	2
7	4.50	4.31	4・5	5	2
8	4.75	4.23	4・5	5	1
9	4.25	4.08	4	5	1
10	5.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	4.23	4・5	5	1
12	4.33	4.83	5	5	4
13	2.75	2.46	2・3	5	1
14	3.50	2.50	2	5	1
15	4.75	4.08	4	5	1
16	4.50	4.15	4	5	1
17	5.00	4.00	4	5	1
回答者数	4	13			



受講生の傾向

この授業では、消費の理論、生産の理論、市場の理論、厚生経済学の理論などの初歩的な授業を展開したので、受講生は授業内容をよく理解できたように思われる。受講生はみんな熱心で、公認会計士の試験に「経済学」を選択する受講生はもちろんのこと、公務員や国税官などをを目指す受講生、さらに経済学の基礎を学びたいという受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの授業アンケートによると、「授業は非常に面白くてよく理解できるが、数式はやや苦手である」との意見もあったので、授業の説明や練習問題の解説には数式をあまり用いないで、多くは図を用いてよくわかるように授業を工夫した。その結果、受講生はよく理解できたと思っている、事実試験の結果も非常に良かった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

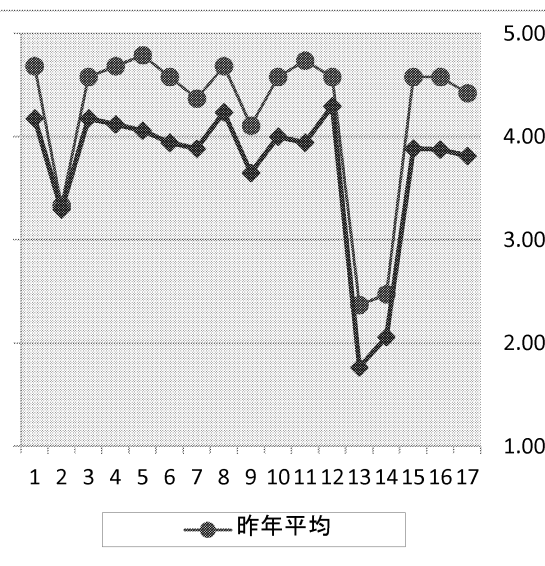
授業の理解を高めるために、高度な内容よりも初歩的な講義を多くするとしたが、そのように方向で、基礎的な事業内容を多くした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の授業は成功であったと考えている。試験の成績もよかったので、基礎的な内容の授業に重点を置いた講義を今後も続けたい。

科 目	国際会計基準論			
配当年次	2	開講時限	土4	
受講者数	18	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.68	4.18	4	5	1
2	3.33	3.29	3	4	3
3	4.58	4.18	4	5	1
4	4.68	4.12	4	5	1
5	4.79	4.06	4	5	1
6	4.58	3.94	4	5	1
7	4.37	3.88	4	5	1
8	4.68	4.24	4	5	1
9	4.11	3.65	4	5	1
10	4.58	4.00	4	5	1
11	4.74	3.94	4	5	1
12	4.58	4.29	5	5	1
13	2.37	1.76	1	4	1
14	2.47	2.06	2	4	1
15	4.58	3.88	4	5	1
16	4.58	3.88	4	5	1
17	4.42	3.81	4	5	1
回答者数	19	17			



受講生の傾向

- ・授業の評価に関する項目(1～11)について、多数の項目について前年よりも評価が下がっていた。
- ・学生自身の授業への取り組みの項目(12～17)をみると、出席率が高く、予習・復習を行わなくとも内容を十分に理解できるレベルにしていたつもりであったが、少し難しかったようである。
- ・授業の進度(2)についても、ちょうど良いと回答している学生が多数であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一昨年度のアンケートに職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、引き続きより実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。その目的を十分に果たしたこともあり、今年度は少しレベルをあげたが、それが裏目に出てしまったようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

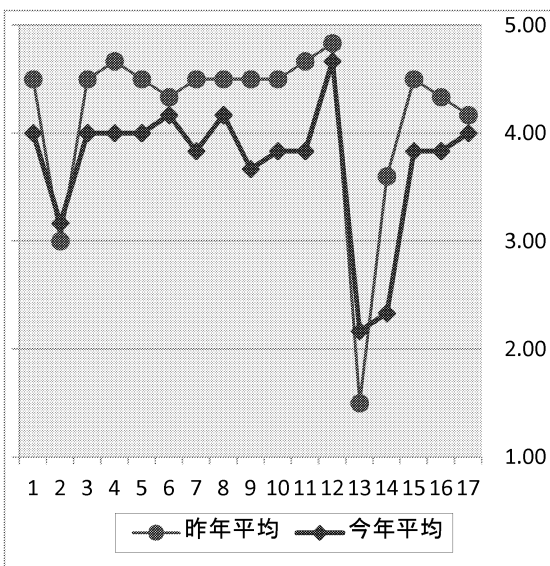
- ・いずれの評価項目についても昨年度より概ね向上している。翌期も実務を踏まえた講義を実施していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・いずれの評価項目についても昨年度より少し下落している。翌期は基礎に重点をおいた講義を実施するようにすべきであると思われる。

科 目	企業分析論			
配当年次	2	開講時限	金1	
受講者数	11	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.00	4	5	3
2	3.00	3.17	3	4	3
3	4.50	4.00	3・4・5	5	3
4	4.67	4.00	3・4・5	5	3
5	4.50	4.00	3・4・5	5	3
6	4.33	4.17	4	5	3
7	4.50	3.83	4	5	3
8	4.50	4.17	4	5	3
9	4.50	3.67	4	5	2
10	4.50	3.83	4	5	3
11	4.67	3.83	4	5	3
12	4.83	4.67	5	5	3
13	1.50	2.17	2	3	1
14	3.60	2.33	2	4	1
15	4.50	3.83	4・5	5	2
16	4.33	3.83	4	5	3
17	4.17	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	6	6			



受講生の傾向

ほとんどの受講生は欠席せずに受講していた。
欠席理由に就職活動を挙げる学生が複数いた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本講義では、講義だけではなく、実際の資料に当たって分析を進めていくよう留意した。
ただし、今年度より本講義を担当したため、工夫点について昨年度の比較はできない。

今後の対応

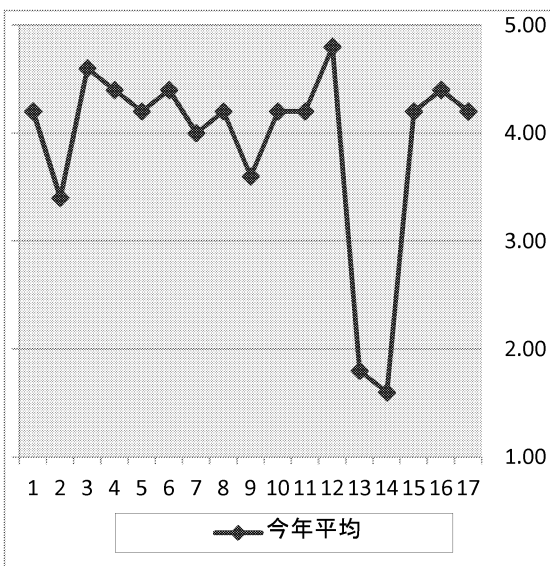
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度のアンケートよりもアンケートの評価値が低下しているため、今後の全体的な改善の必要性を感じている。

科 目	コストマネジメント論		
配当年次	2	開講時限	木3
受講者数	10	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.20	4	5	4
2	—	3.40	3	4	3
3	—	4.60	5	5	4
4	—	4.40	4	5	4
5	—	4.20	4	5	4
6	—	4.40	4	5	4
7	—	4.00	4	5	3
8	—	4.20	4	5	4
9	—	3.60	3	5	3
10	—	4.20	4・5	5	3
11	—	4.20	4	5	4
12	—	4.80	5	5	4
13	—	1.80	2	2	1
14	—	1.60	2	2	1
15	—	4.20	4	5	4
16	—	4.40	4	5	4
17	—	4.20	4	5	4
回答者数	—	5			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が欠席せずに授業に参加した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義に際しては、受講生が直接に各回のテーマに関する重要な論文にあたることによって、どのような背景から教科書の説明が導出されているかを理解できるよう留意した。

今後の対応

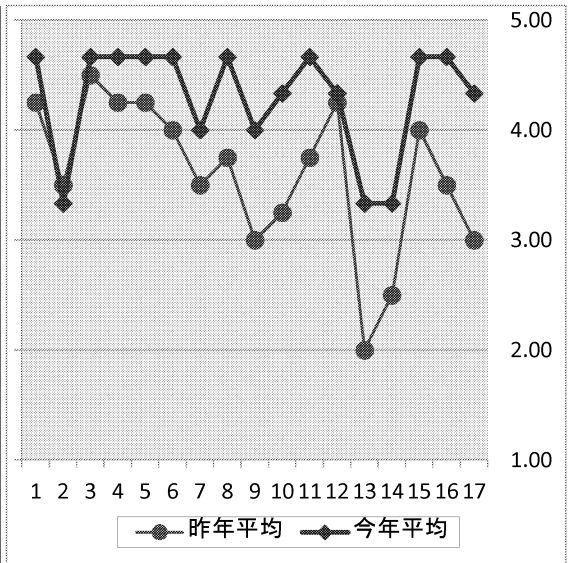
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果をもとに、講義中に配付する資料および提出課題の形式等について改善の必要があると考えている。

科 目	政府・自治体会計論			
配当年次	2	開講時限	金2	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.67	5	5	4
2	3.50	3.33	3	4	3
3	4.50	4.67	5	5	4
4	4.25	4.67	5	5	4
5	4.25	4.67	5	5	4
6	4.00	4.67	5	5	4
7	3.50	4.00	3・4・5	5	3
8	3.75	4.67	5	5	4
9	3.00	4.00	3・4・5	5	3
10	3.25	4.33	5	5	3
11	3.75	4.67	5	5	4
12	4.25	4.33	5	5	3
13	2.00	3.33	1・4・5	5	1
14	2.50	3.33	2・3・5	5	2
15	4.00	4.67	5	5	4
16	3.50	4.67	5	5	4
17	3.00	4.33	4	5	4
回答者数	4	3			



受講生の傾向

公的分野に興味を持つ少数の受講生が対象となったこともあり、授業対応は熱心であり、教えようとする姿勢に対し評価も高かったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

身近な事例から授業を始めたり、最近の経験を題材としたりして興味を引く努力をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

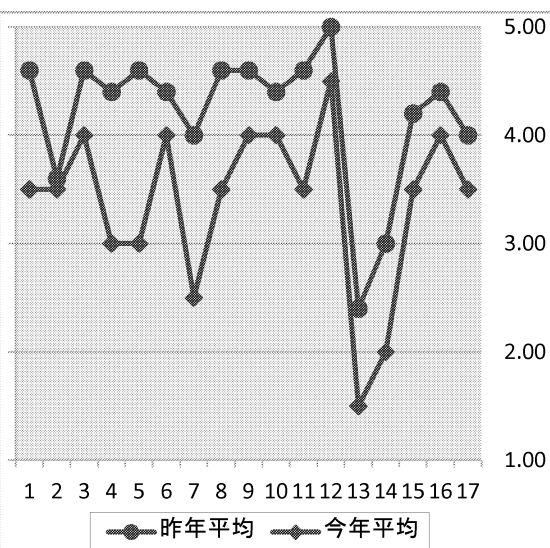
身近な市民生活に直結している内容であることを説明し興味をもたせるよう努力していく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

さらに最近の動向を加えて受講生の興味を引く内容にしていく。

科 目	金融商品取引法			
配当年次	2	開講時限	月2	
受講者数	7	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	3.50	4	4	3
2	3.60	3.50	4	4	3
3	4.60	4.00	3・5	5	3
4	4.40	3.00	2・4	4	2
5	4.60	3.00	2・4	4	2
6	4.40	4.00	4	4	4
7	4.00	2.50	2・3	3	2
8	4.60	3.50	3・4	4	3
9	4.60	4.00	4	4	4
10	4.40	4.00	4	4	4
11	4.60	3.50	3・4	4	3
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	2.40	1.50	1・2	2	1
14	3.00	2.00	1・3	3	1
15	4.20	3.50	3・4	4	3
16	4.40	4.00	4	4	4
17	4.00	3.50	3・4	4	3
回答者数	5	2			



受講生の傾向

受講生の人数は、少数であったが、概ね、受講態度は熱心であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も、できるだけ詳細なレジュメを用意し、図解した参考資料を配付するなどして、理解し易いように工夫した。また、各講義の冒頭に、前回の講義の復習問題を出題して、受講生に回答してもらい、前回の講義の内容を確認するとともに、理解を深められるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

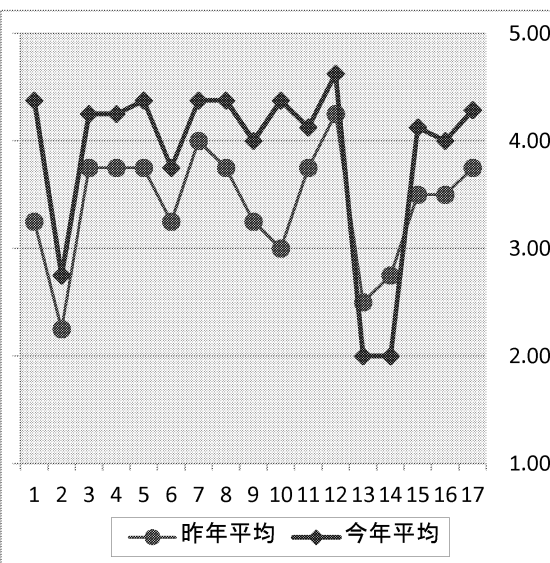
平成22年度は、進行がやや遅かったので、平成23年度は、少々進行を速めている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

平成22年度よりも、少し進行を速めたことが、受講生にとっては、少し理解しにくかった面があったかもしれない。今後は、受講生の理解の程度も確認しながら、講義を進行させていく所存である。

科 目	マクロ経済学			
配当年次	2	開講時限	土4	
受講者数	14	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.25	4.38	4	5	4
2	2.25	2.75	3	3	2
3	3.75	4.25	4	5	4
4	3.75	4.25	4	5	3
5	3.75	4.38	4	5	4
6	3.25	3.75	3	5	3
7	4.00	4.38	4	5	4
8	3.75	4.38	4	5	4
9	3.25	4.00	3・5	5	3
10	3.00	4.38	4	5	4
11	3.75	4.13	4・5	5	3
12	4.25	4.63	5	5	4
13	2.50	2.00	2	4	1
14	2.75	2.00	2	3	1
15	3.50	4.13	4	5	3
16	3.50	4.00	4	5	3
17	3.75	4.29	4	5	4
回答者数	4	8			



受講生の傾向

この授業は、公認会計士はもちろんのこと、公務員や国税官を目指す受講生も大勢出席している。マクロ経済学は、ミクロ経済学と並んで経済学の基礎をなす経済理論の一つであり、国民所得、雇用、利子率などの普段マスコミでよく見られる経済用語を分析に用いるので、受講生はミクロ経済学よりも早く理解することができるように思える。社会に出てからも、世界経済や日本経済の動きを理解するのに役立つマクロ経済学には、受講生は強い関心を示して授業に熱心に参加している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

マクロ経済学は、ミクロ経済学よりも身近でわかり易い経済用語が用いられるので、受講生の理解は早いと言える。世界経済、日本経済の実情を理論的に理解するために、理論だけでなく、毎日世界や日本で起こっている経済の動きを授業の時に解説することによって、受講生の関心を強めるように工夫した。さらに、数式をできる限り使わずに、図を用いて受講生に分かりやすく説明したので、よく理解できたと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

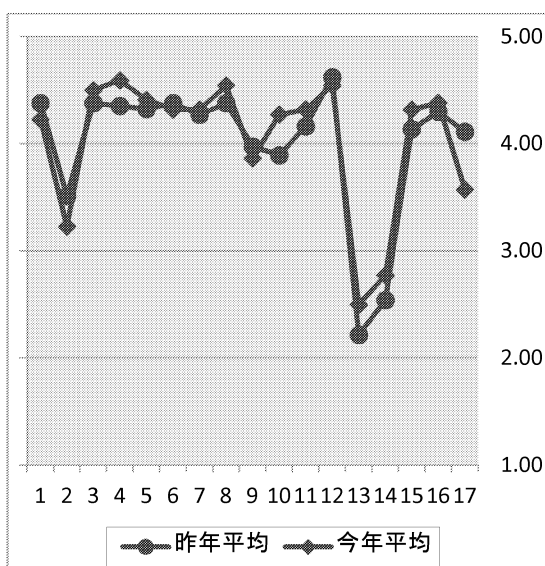
「基礎的なマクロ経済学の知識を講義したあとで、できるだけ多くの宿題や練習問題に取り組ませるようにする。」と記載したが、実際はあまり練習問題を解かせる時間が少なかったもので、試験を重視した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生にとっては、理解しやすい講義であるので、最初からある程度のレベルの授業を行うことができる。それで、今後はマクロ経済学的な理論と実際の経済の動きをリンクさせる講義を行い、受講生の興味と学力を引き上げるように努める。

科 目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	水1
受講者数	27	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.23	4・5	5	3
2	3.51	3.23	3	4	3
3	4.38	4.50	5	5	3
4	4.35	4.59	5	5	3
5	4.32	4.41	4	5	4
6	4.38	4.32	4	5	3
7	4.27	4.32	4	5	3
8	4.38	4.55	5	5	3
9	3.97	3.86	3	5	3
10	3.89	4.27	4	5	3
11	4.16	4.32	5	5	3
12	4.62	4.55	5	5	2
13	2.22	2.50	2	5	1
14	2.54	2.77	3	5	1
15	4.14	4.32	5	5	3
16	4.30	4.38	4	5	3
17	4.11	3.57	4	5	3
回答者数	37	22			



受講生の傾向

単位目的、より”楽しく学ぶ”イメージを重視している学生が多かったように見受けられた。あまり理論的に真剣に取り組まない一方で、直感に訴えるような内容には敏感に反応し、興味を示していたように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

株式評価について、実際の取引当事者（ベンチャーキャピタル等）として考えさせることで、より面白みを感じて、自分で考えることを楽しんでいたように思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

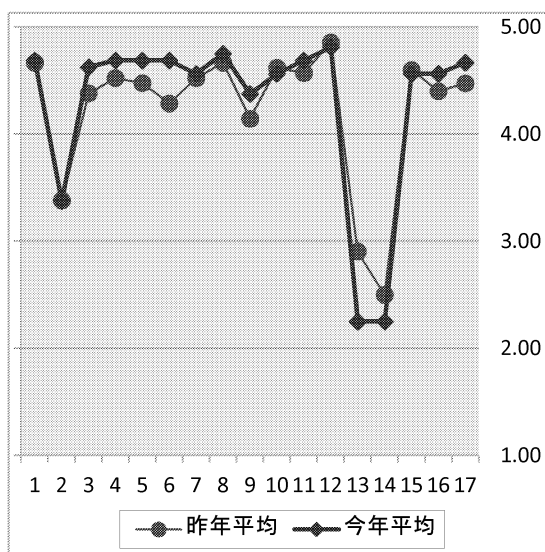
さらにゆっくりと、丁寧に進める必要がある。今年は、基準に関するケーススタディだけでなく、社会的なインパクトや考え方についてもグループディスカッションを取り入れ、より能動的に考えてもらうタイプの講義にしたいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度は本講座を担当しないため、該当なし。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	水3	
受講者数	18	回答者数	16	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.69	4.38	4	5	3
2	3.38	3.00	3	3	3
3	4.63	4.19	4	5	3
4	4.69	4.38	4	5	3
5	4.69	4.25	4	5	3
6	4.69	4.25	4	5	3
7	4.56	4.19	4	5	3
8	4.75	4.44	5	5	3
9	4.38	3.88	3・4	5	3
10	4.56	4.44	5	5	3
11	4.69	4.38	5	5	3
12	4.81	4.88	5	5	4
13	2.25	2.06	1・2	5	1
14	2.25	2.19	1・3	5	1
15	4.56	4.13	5	5	3
16	4.56	4.38	4	5	3
17	4.67	4.25	4	5	3
回答者数	16	16			



受講生の傾向

自分で判断をすることの大切さを、講義を通してしみじみと感じてくれた感触があった。
非常に純粋なものを感じた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

公認会計士の本当の仕事、本当の難しさとは何か、倫理観も含めて、自分の会計士としての経験を通じて伝えるように努力した。
また、グループワークでは、会計基準を実例にどのようにあてはめて、どのように判断を下すかという事を重視して指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

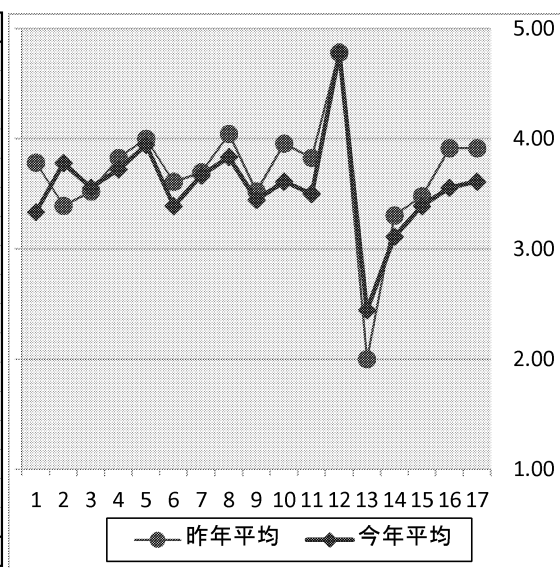
この授業に関しては、学生も非常に楽しみながら、ビビッドに現場の感覚や会計士としての心構えを習得してくれているように思う。
今年も、よりさまざまな切り口で、監査判断が行われているということを伝えるための情熱と工夫を維持したいと思う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

来年度は本講座を担当しないため、該当なし。

科 目	基本会計プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	水1	
受講者数	21	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.78	3.33	2・4	5	2
2	3.39	3.78	4	5	2
3	3.52	3.56	3	5	2
4	3.83	3.72	5	5	2
5	4.00	3.94	4	5	2
6	3.61	3.39	4	5	1
7	3.70	3.67	4	5	2
8	4.04	3.83	4	5	2
9	3.52	3.44	3	5	1
10	3.96	3.61	4	5	2
11	3.83	3.50	4	5	1
12	4.78	4.78	5	5	4
13	2.00	2.44	1	5	1
14	3.30	3.11	2・4・5	5	1
15	3.48	3.39	3	5	1
16	3.91	3.56	4	5	1
17	3.91	3.61	3	5	2
回答者数	23	19			



受講生の傾向

全体としては、概ね出席しているが、欠席や遅刻が目立った。
 研究科の性質上、プログラムというものに対する苦手意識が強いようであった。
 また、公認会計士試験と無関係であるとの意識が強い学生が散見された。
 課題の提出率は非常に高いが、課題をこなすことしか考えておらず、ともすると、他者のコピーですます学生も散見された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度を意識し、プログラムの入門部分に対する時間を多めに確保した。
 講義の進捗状況や予定されている講義の内容と目的を、頻回に説明した。
 学生の習熟度や理解度を認識するため、実習中の机間巡回を必ず行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

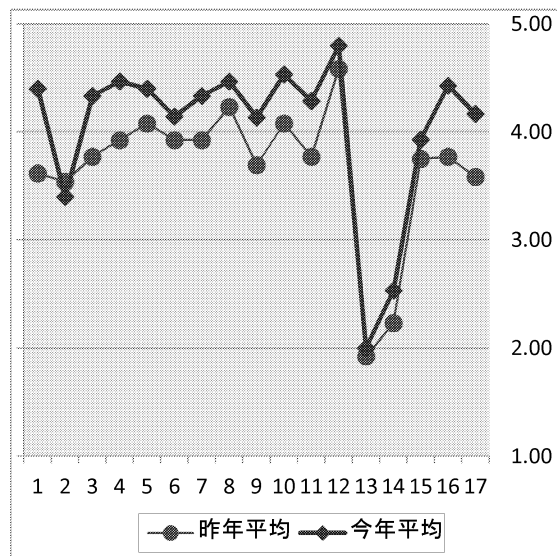
公認会計士試験と直接にはつながらないが公認会計士業務と本講義の内容との会計を伝え、意義を理解させる努力を講じる。予習用の教材が未だできていないため、鋭意作成に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

再度、昨年と同様の今後の対応の実現に努める。次年度の講義シラバスを見直し、より効果的な講義展開となるような策を講じる。

科 目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	火4	
受講者数	19	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.62	4.40	4	5	4
2	3.54	3.40	3	5	3
3	3.77	4.33	4	5	4
4	3.92	4.47	4	5	4
5	4.08	4.40	4	5	4
6	3.92	4.14	4	5	3
7	3.92	4.33	4	5	4
8	4.23	4.47	4	5	4
9	3.69	4.13	4	5	3
10	4.08	4.53	5	5	4
11	3.77	4.29	4	5	4
12	4.58	4.80	5	5	4
13	1.92	2.00	1	5	1
14	2.23	2.53	1	5	1
15	3.75	3.93	4	5	3
16	3.77	4.43	4	5	4
17	3.58	4.17	4	5	3
回答者数	13	15			



受講生の傾向

出席率(項目12)は約90%であったことから、参加意欲も高く積極的に学生は授業に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査実施に関する実務指針の改正があったため、当該改正を反映したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。これら前半の資料については、授業の都度、関西大学インフォメーション・システムにアップロードし復習用に提供した。

前半の講義で監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。また去年通り、前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。同時に前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

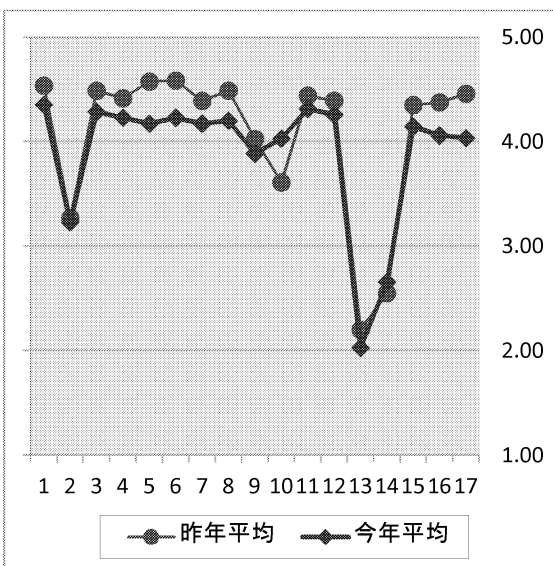
昨年度に比して相対的にモラルの高い受講生だったため、全体として受講生の授業に臨む姿勢も積極的であり、ほぼ全員が授業時間内の質疑応答に対して反応した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習に当たっての机間巡回を増やすことで、より一層の個別指導と発言機会の増加を図る必要があるかもしれない。

科 目	BATIC演習			
配当年次	1	開講時限	土3	
受講者数	39	回答者数	35	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.54	4.35	5	5	2
2	3.27	3.23	3	5	2
3	4.49	4.29	4	5	2
4	4.41	4.23	4	5	2
5	4.58	4.17	4	5	2
6	4.59	4.23	4	5	1
7	4.39	4.17	4	5	2
8	4.49	4.20	4	5	2
9	4.02	3.89	4	5	2
10	3.61	4.03	4	5	2
11	4.44	4.31	5	5	2
12	4.39	4.26	5	5	1
13	2.20	2.03	1	5	1
14	2.55	2.66	2	5	1
15	4.35	4.14	4	5	2
16	4.38	4.06	4	5	2
17	4.46	4.03	4	5	2
回答者数	41	35			



受講生の傾向

- ・昨年同様、欠席せず毎回出席する学生が多かったようである。
- ・アンケート結果からも明らかだが、特に予習・復習課題は課さずまた受講者も予習復習に時間を割いていないが、講義内容を理解しようと努める学生が多かった。ただし、昨年よりか少し学生の英語等に対する理解力が落ちているように感じられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一昨年度のアンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、昨年度は実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。今年度は、少しレベルを上げてSubject2の内容を増やしたが、それが難しかったようである。それが上記の結果に表れているように感じた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨年度に比べて受講者数が増えたが、アンケート結果の傾向がほぼ同様であることから、引き続き良質な講義を提供するよう努力したい。

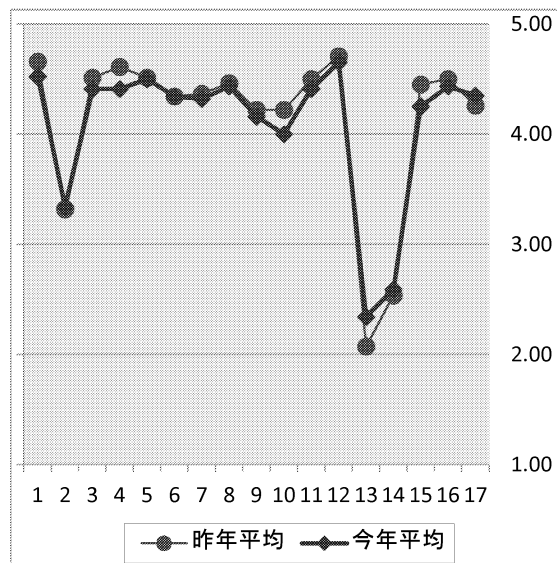
唯一、クラス規模に関してはポイントが悪化しているが、この点は検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比べて受講者数が少し減少したが、アンケート結果の傾向が全体的に少し下がっている。もっと学生のレベルに合わせて、基礎に重点をおく講義を提供するように心掛けたい。

科 目	IFRS実務			
配当年次	1	開講時限	土4	
受講者数	46	回答者数	44	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.66	4.52	5	5	4
2	3.32	3.34	3	5	3
3	4.51	4.41	4	5	3
4	4.61	4.41	4	5	3
5	4.51	4.50	5	5	3
6	4.34	4.34	5	5	1
7	4.37	4.32	4	5	3
8	4.46	4.43	5	5	2
9	4.22	4.16	5	5	2
10	4.22	4.00	5	5	2
11	4.50	4.41	4	5	3
12	4.71	4.65	5	5	3
13	2.07	2.34	1	5	1
14	2.54	2.59	2	5	1
15	4.45	4.25	4	5	1
16	4.50	4.43	5	5	3
17	4.26	4.35	4・5	5	1
回答者数	41	44			



受講生の傾向

- ・欠席せず毎回出席する学生が多かったようである。
- ・アンケート結果からも明らかだが、特に予習・復習課題は課さずまた受講者も予習復習に時間を割いていないが、講義内容を理解しようと努める学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度アンケートによれば職業的会計人としての理解が深まったか否かという問いに対しては良～普通程度の回答が多かったため、引き続きより実務経験を踏まえた講義を実施するよう心がけた。しかしながら、学生のIFRSに対する勉強意欲は昨年に比べて少し低下しており、もっと基礎に重点をおいた講義をする必要があるように感じられた。その点での改善が今後の課題として残った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

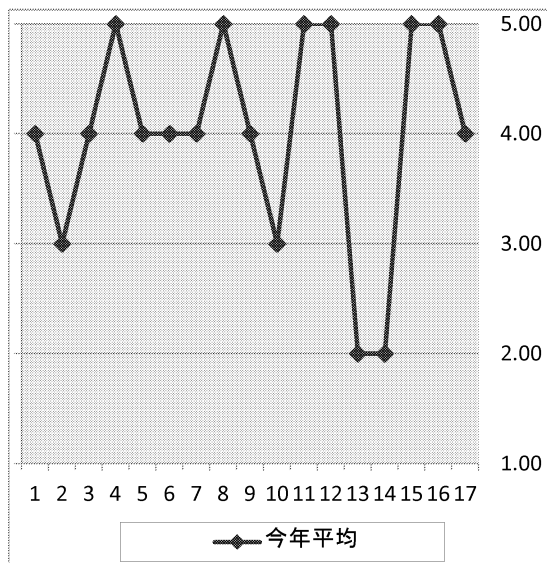
昨年度に比べて受講者数が増えたが、アンケート結果の傾向がほぼ同様であることから、引き続き良質な講義を提供するよう努力したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後は、今まで以上にIFRSの実務を基礎から理解してもらえるような講義形態を取るよう心がけ、学生の興味をもっと引けるようにしていきたい。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	土4	
受講者数	2	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	4	4	4
10	—	3.00	3	3	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.00	2	2	2
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



受講生の傾向

公務員試験を受験している学生が一人だけであった。まじめに出席し、ディスカッションを行ったが、企業会計の知識が必ずしも十分ではなく、基礎的な考え方から教授する必要があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生が実質一人であったため、受講生に合わせて会計の基礎的な考え方からディスクロージャーへの流れをディスカッションを中心に教授した。

今後の対応

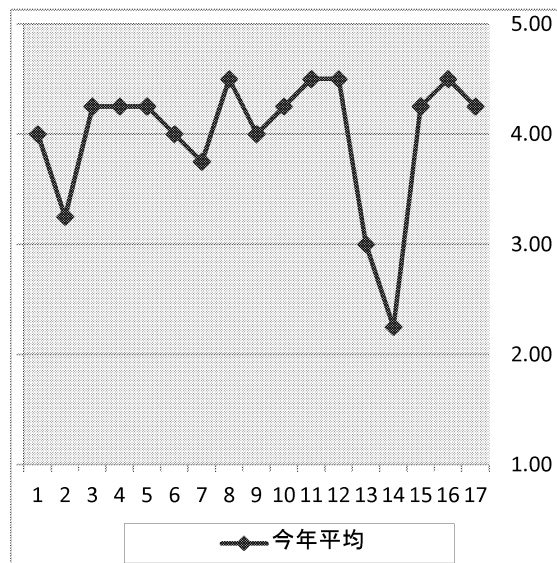
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ディスクロージャーの基本的な考え方ならびに現状についてレポートさせてディスカッションさせる等、考える授業を行っていく。

科 目	企業法判例演習		
配当年次	2	開講時限	水3
受講者数	7	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.25	3	4	3
3	—	4.25	4	5	4
4	—	4.25	4	5	4
5	—	4.25	4	5	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	3.75	4	4	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.00	4	4	4
10	—	4.25	4	5	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.50	4・5	5	4
13	—	3.00	2・4	4	2
14	—	2.25	2	3	2
15	—	4.25	4	5	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.25	4	5	4
回答者数	—	4			



受講生の傾向

受講態度は、概ね熱心であった。ただし、以前からの傾向ではあるが、発表者以外の受講生から、ほとんど意見が出ず、発表者と教官の間のやり取りに終始し、受講生全体の議論になりにくいという問題がある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

当該判例の事案が如何なる事実関係にあったのか、その事実関係において、どのような法的問題が抽出されるのか、その法的問題に対して判例はどのような理由でどう判断したのか、その判断については、どのような考え方があるかといった点について、発表者との質疑応答や議論を通じて、理解を深め、受講生自らに考えてもらうように工夫をした。

今後の対応

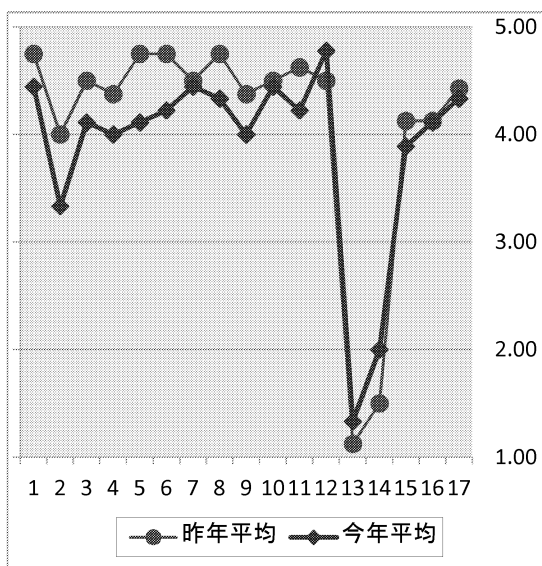
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

判例を素材として、法的な思考方法を習得できるように、今後とも、発表者及びそれ以外の受講生との質疑応答や議論を重視していきたい。

科 目	実践会計プログラム演習			
配当年次	2	開講時限	火4	
受講者数	11	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.44	5	5	4
2	4.00	3.33	3	5	3
3	4.50	4.11	4	5	3
4	4.38	4.00	4	5	3
5	4.75	4.11	4	5	3
6	4.75	4.22	4	5	4
7	4.50	4.44	5	5	3
8	4.75	4.33	4	5	4
9	4.38	4.00	3・4・5	5	3
10	4.50	4.44	4	5	4
11	4.63	4.22	4	5	3
12	4.50	4.78	5	5	4
13	1.13	1.33	1	3	1
14	1.50	2.00	1	5	1
15	4.13	3.89	4	5	3
16	4.13	4.11	4	5	2
17	4.43	4.33	4・5	5	3
回答者数	8	10			



受講生の傾向

全員がほとんど欠席することなく、修了後のスキルを考えて受講しているようであった。
受講には熱心であるが、予習・復習の時間が、昨年度以上に少ない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

復習に利用しやすいよう、教材にはハードコピーを多く使用した。
また、復習になるような課題を適宜課すことにした。

今後の対応

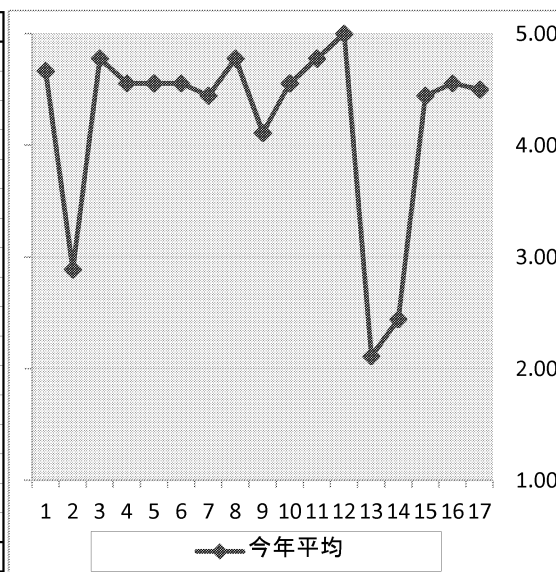
昨年度の受講生の予復習時間が今年度より長い。
まずは、昨年度の講義担当者の教授法を聴取した後、今後の講義に活かしていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の受講への姿勢が年々悪化しているように感じるため、潜在的なものも含んだニーズを確認し、講義内容に反映するよう努める。

科 目	アカデミック・ソリューションA（坂口クラス）		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	9	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	3
2	—	2.89	3	3	2
3	—	4.78	5	5	4
4	—	4.56	5	5	4
5	—	4.56	5	5	4
6	—	4.56	5	5	4
7	—	4.44	5	5	3
8	—	4.78	5	5	4
9	—	4.11	4	5	3
10	—	4.56	5	5	3
11	—	4.78	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.11	2	5	1
14	—	2.44	2	5	1
15	—	4.44	5	5	3
16	—	4.56	5	5	3
17	—	4.50	5	5	3
回答者数	—	9			



受講生の傾向

管理会計に興味を持つ学生が多い。ただし、学生が目標とする進路は多様(たとえばCPAだけでなく一般企業への就職や公務員受験など)である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

管理会計の基本的な項目(とくに計算に関する項目、たとえば伝統的原価計算、ABC、TDABC)を中心に議論を進めた。これにより、受講生の計算方法に関する基本的な理解を促進できたと考える。また、メタファーや事例などを用いて学生の理解が進むように授業を組み立て説明した。

今後の対応

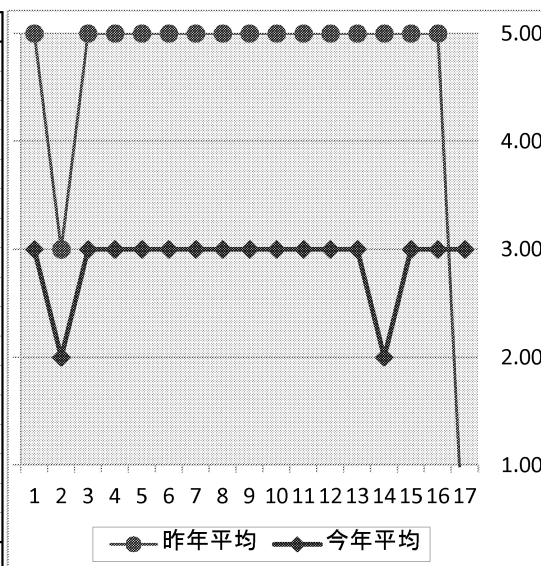
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションA（柴クラス）			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	3.00	5	5	1
2	3.00	2.00	3	3	1
3	5.00	3.00	5	5	1
4	5.00	3.00	5	5	1
5	5.00	3.00	5	5	1
6	5.00	3.00	5	5	1
7	5.00	3.00	5	5	1
8	5.00	3.00	5	5	1
9	5.00	3.00	5	5	1
10	5.00	3.00	5	5	1
11	5.00	3.00	5	5	1
12	5.00	3.00	5	5	1
13	5.00	3.00	5	5	1
14	5.00	2.00	3	3	1
15	5.00	3.00	5	5	1
16	5.00	3.00	5	5	1
17	無回答	3.00	5	5	1
回答者数	1	2			



受講生の傾向

同じ回答者2名が秋学期では5点中心の回答をしているので、この春学期の1は記入間違いと思われる。それゆえ、平均点からは全体像を明らかにできない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数年来定着してきた徹底的な質疑の形式を踏襲している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

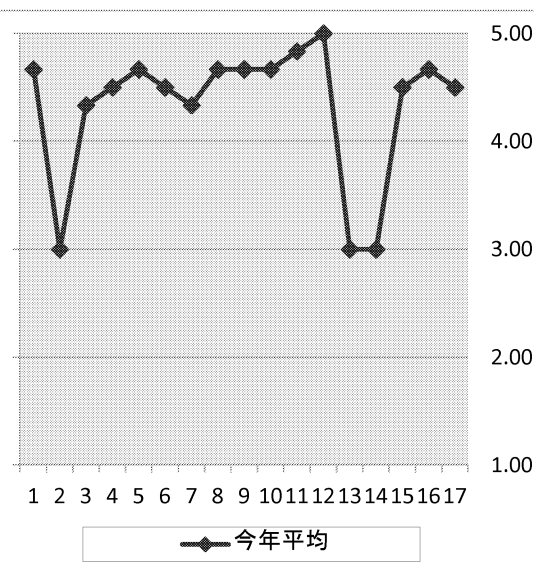
ソリューションでは徹底した対話型（質疑応答）が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでは徹底した対話型（質疑応答）が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションA（清水クラス）		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	6	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.33	5	5	3
4	—	4.50	5	5	4
5	—	4.67	5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.33	4	5	4
8	—	4.67	5	5	4
9	—	4.67	5	5	4
10	—	4.67	5	5	4
11	—	4.83	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	2・3・4	4	2
14	—	3.00	2	5	2
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	4.67	5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	6			



受講生の傾向

学習意欲が受講者によてばらつきがみられた。例年、学習意欲が月を経るにつれ低下していく傾向がみられるが一部でその傾向が強かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
受講者間のディスカッションを奨励し考える力を養成する努力をした。

今後の対応

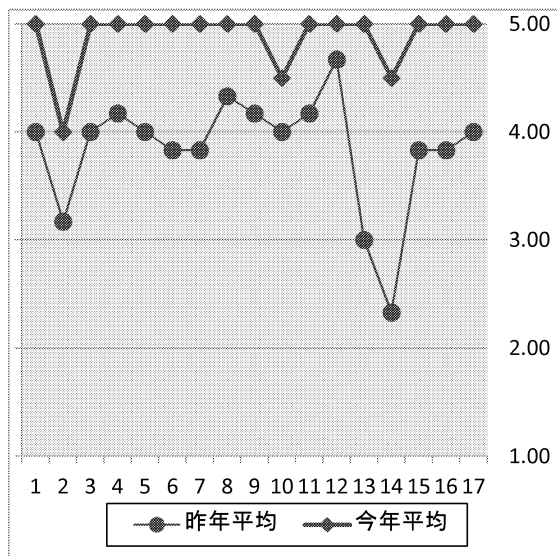
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学習意欲を持続させる工夫が必要だと認識した。

科 目	アカデミック・ソリューションA(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.17	4.00	5	5	3
3	4.00	5.00	4	4	3
4	4.17	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.83	5.00	5	5	5
7	3.83	5.00	5	5	5
8	4.33	5.00	5	5	5
9	4.17	5.00	5	5	5
10	4.00	4.50	4	4	3
11	4.17	5.00	4・5	5	4
12	4.67	5.00	5	5	5
13	3.00	5.00	5	5	5
14	2.33	4.50	4・5	5	4
15	3.83	5.00	5	5	5
16	3.83	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	6	2			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が、欠席することなく参加していた。
 予習・復習も充分に行い、講義時間中のディスカッションも熱心であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

報告・ディスカッションに、学生たちが対応できるような指導に注力した。
 随時、小テストを行い、理解度の確認に努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

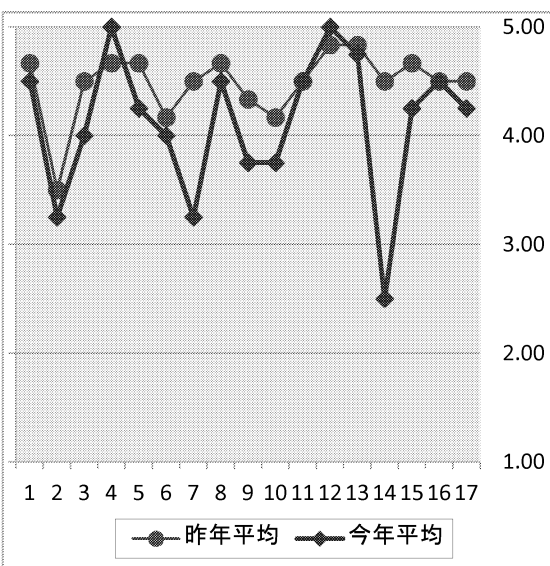
春学期に開講されることを考慮し、より導入しやすい、また、学生が意欲を高めやすい工夫を模索したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の意欲を高めるという点では、昨年度の「今後の対応」をある程度クリアしたと思えるが、学生がより主体的に対象に望むような工夫を模索したい。

科 目	アカデミック・ソリューションA（松本クラス）		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3.25	3	4	3
3	4.50	4.00	4	5	3
4	4.67	5.00	5	5	5
5	4.67	4.25	4	5	4
6	4.17	4.00	4	4	4
7	4.50	3.25	3	4	3
8	4.67	4.50	4	5	4
9	4.33	3.75	3	5	3
10	4.17	3.75	4	4	3
11	4.50	4.50	4	5	4
12	4.83	5.00	5	5	5
13	4.83	4.75	4	5	4
14	4.50	2.50	1・2・3・4	4	1
15	4.67	4.25	4	5	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.50	4.25	5	5	3
回答者数	6	4			



受講生の傾向

全員が真面目にほぼ100%出席している(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

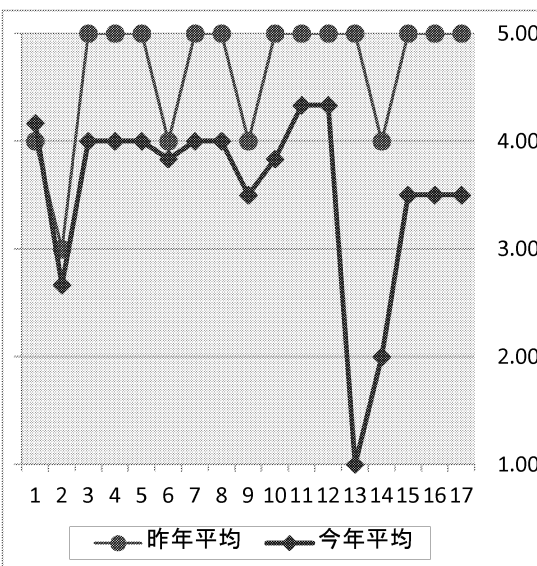
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間外で確認テスト等を実施した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も正規の時間外で、個別能力に応じた指導を導入する必要がある。

科 目	アカデミック・ソリューションA（宮本クラス）			
配当年次	1	開講時限	土1	
受講者数	7	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.17	5	5	1
2	3.00	2.67	3	3	1
3	5.00	4.00	5	5	1
4	5.00	4.00	5	5	1
5	5.00	4.00	5	5	1
6	4.00	3.83	4	5	1
7	5.00	4.00	5	5	1
8	5.00	4.00	5	5	1
9	4.00	3.50	4	5	1
10	5.00	3.83	4	5	1
11	5.00	4.33	5	5	1
12	5.00	4.33	5	5	1
13	5.00	1.00	1	1	1
14	4.00	2.00	1	4	1
15	5.00	3.50	4	5	1
16	5.00	3.50	4	5	1
17	5.00	3.50	4	4	1
回答者数	1	6			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションAは、公認会計士以外に、公務員、国税官、民間企業などを旨とする受講生も多かった。この授業は、ミクロ経済学の消費の理論、生産の理論、市場の理論などを中心に、基本的な理論をわかり易く丁寧に解説したので、受講生は非常に興味をもって、熱心に受講してくれた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の多くは、学部時代に経済学を受講したと答えている受講生が多かったが、授業内容をほとんど覚えていないとのことであったので、初歩のミクロ経済学から授業をスタートした。その結果、受講生は理解度を深めてくれたと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

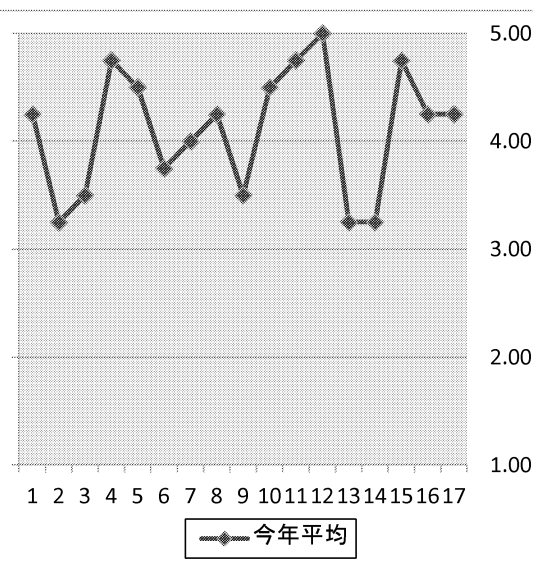
最初は、基礎的な内容で理解しやすい授業を行い、経済学の考え方に慣れてくれば授業の回数を重ねるにつれて徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで学力を引き上げるとした。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまでの授業は効果があったと考えているので、今後も最初は基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めて行き、徐々に内容を高度化して、最後は模擬試験レベルの問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように努める。

科 目	アカデミック・ソリューションA（宗岡クラス）		
配当年次	1	開講時限	木5
受講者数	6	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.25	4	5	4
2	—	3.25	3	4	3
3	—	3.50	3・4	4	3
4	—	4.75	4	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	3.75	4	4	3
7	—	4.00	4	4	4
8	—	4.25	4	5	4
9	—	3.50	3・4	4	3
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	4.75	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.25	1・3・4・5	5	1
14	—	3.25	1・3・4・5	5	1
15	—	4.75	5	5	4
16	—	4.25	4	5	4
17	—	4.25	5	5	3
回答者数	—	4			



受講生の傾向

会計専門職大学院への進学が、公認会計士試験受験のためではなく、会計専門職として有利な就職を行うためと目的意識のはっきりした学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

目的意識と学習目標の明確化、発表、ディスカッションの活発化等を通して、企業に有益な人材を育成すること。

今後の対応

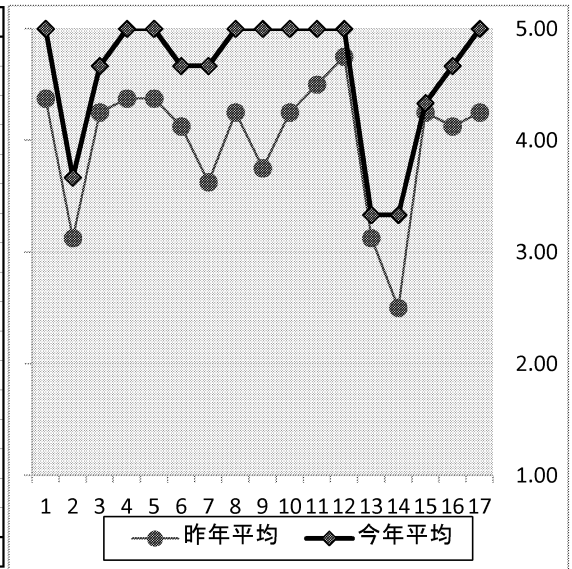
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

目的意識を踏まえ学習目標を明確化させた上で、発表、ディスカッションの活発化等を通して、企業に有益な人材を育成するということを継続して行いたい。

科 目	アカデミック・ソリューションA（中村クラス）			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	5.00	5	5	5
2	3.13	3.67	3	5	3
3	4.25	4.67	5	5	4
4	4.38	5.00	5	5	5
5	4.38	5.00	5	5	5
6	4.13	4.67	5	5	4
7	3.63	4.67	5	5	4
8	4.25	5.00	5	5	5
9	3.75	5.00	5	5	5
10	4.25	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	4.75	5.00	5	5	5
13	3.13	3.33	2・3・5	5	2
14	2.50	3.33	1・4・5	5	1
15	4.25	4.33	5	5	3
16	4.13	4.67	5	5	4
17	4.25	5.00	5	5	5
回答者数	8	8			



受講生の傾向

昨年平均をすべて上回る平均が出ていることからわかる通り、非常に優秀で熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、いきなり所得税法を取り扱ったが、今年度は租税法総論を行った後に、所得税法を取り扱うことにした。これにより、受講生は、総論とのつながりから所得税法を理解することができた模様である。また、受講生には報告レジュメを作成させただけでなく、課題レポートも課し、自宅学習時間を増やすように努めた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

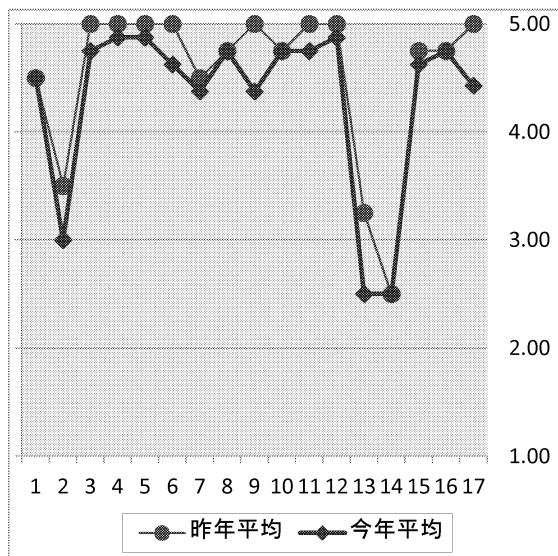
受講生にもっと所得税法を学ぶ時間をとらせるべく、課題レポートの回数を増やす必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

代表的な租税法判例を講義内でできる限り多く取り扱っていきたい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(坂口クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	9	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.50	4	4	4
2	3.50	3.00	3	5	3
3	5.00	4.75	5	5	5
4	5.00	4.88	5	5	5
5	5.00	4.88	4	5	4
6	5.00	4.63	4	4	4
7	4.50	4.38	3	4	3
8	4.75	4.75	5	5	4
9	5.00	4.38	3	4	3
10	4.75	4.75	4	4	2
11	5.00	4.75	5	5	5
12	5.00	4.88	5	5	4
13	3.25	2.50	2	2	1
14	2.50	2.50	1・2・3	3	1
15	4.75	4.63	4	5	4
16	4.75	4.75	5	5	4
17	5.00	4.43	5	5	4
回答者数	4	8			



受講生の傾向

管理会計に興味を持つ学生が多い。また、前掲のアカデミック・ソリューションAと受講生が全く同じであるため、学生が目標とする進路は同様に多様(たとえばCPAだけでなく一般企業への就職や公務員受験など)である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

管理会計の基本的な項目(とくに理論に関する項目、たとえば予算管理、分権組織の管理会計)を中心に議論を進めた。これにより、受講生の管理会計に関する理論への基本的な理解を促進できたと考える。また、春学期に引き続き、メタファーや事例などを用いて学生の理解が進むように授業を組み立て説明した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

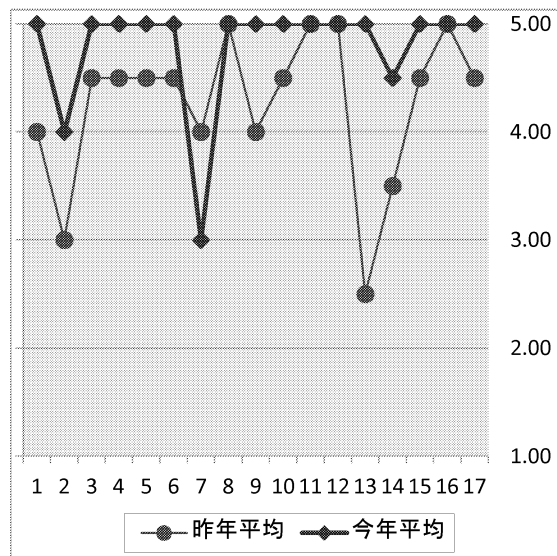
基本理論、企業事例だけでなく、実際に企業で実務に従事している人から事例を聞くことが必要であるため、今後そうした機会を探索していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションB(柴クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	4.00	3・5	5	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.00	3.00	1・5	5	1
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.50	5.00	5	5	5
14	3.50	4.50	4・5	5	4
15	4.50	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	2	2			



受講生の傾向

ともに高い評価を得ている。ただし、ディスカッション中心であるため教育機材は使わない。これに対する評価は5と1で分かれており、判定不能である。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

秋学期になってなれてきたので、英語の文献を輪読するようにした。受講生はこれを望んでいるようであり、満足度を高めることになった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

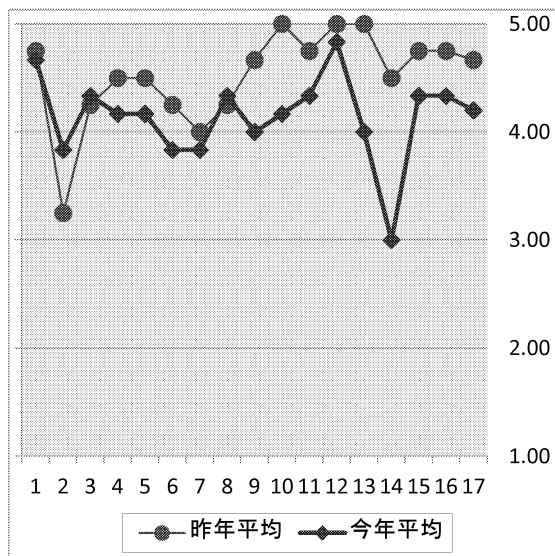
ソリューションでは徹底した対話型(質疑応答)が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでは徹底した対話型(質疑応答)が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションB(清水クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.67	5	5	4
2	3.25	3.83	3	5	3
3	4.25	4.33	5	5	3
4	4.50	4.17	5	5	3
5	4.50	4.17	5	5	3
6	4.25	3.83	5	5	2
7	4.00	3.83	3	5	3
8	4.25	4.33	5	5	3
9	4.67	4.00	3・4・5	5	3
10	5.00	4.17	5	5	2
11	4.75	4.33	5	5	3
12	5.00	4.83	5	5	4
13	5.00	4.00	3・4・5	5	3
14	4.50	3.00	3	5	1
15	4.75	4.33	5	5	3
16	4.75	4.33	5	5	3
17	4.67	4.20	5・4	5	3
回答者数	4	6			



受講生の傾向

学習意欲が受講者によてばつきがみられた。例年、学習意欲が月を経るにつれ低下していく傾向がみられるが一部でその傾向が強かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者間のディスカッションを奨励し考える力を養成する努力をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

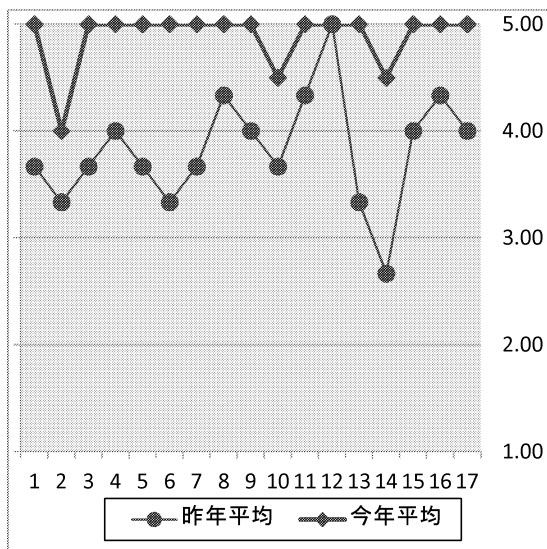
全般的な満足度は維持しつつメンバー全員が自発的に勉学に励むようなきっかけづくりを模索したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学習意欲を持続させる工夫が必要だと認識した。

科 目	アカデミック・ソリューションB(富田クラス)		
配当年次	1	開講時限	月5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.67	5.00	5	5	5
2	3.33	4.00	3・5	5	3
3	3.67	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	3.67	5.00	5	5	5
6	3.33	5.00	5	5	5
7	3.67	5.00	5	5	5
8	4.33	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	3.67	4.50	4・5	5	4
11	4.33	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.33	5.00	5	5	5
14	2.67	4.50	4・5	5	4
15	4.00	5.00	5	5	5
16	4.33	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	2			



受講生の傾向

受講生の欠席は一度もなかった。
 予習も復習も十分に行って、本講義に臨んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

学生の予習が行いやすいよう、各回で行う内容を明示し、修正が必要である場合は、受講生と相談の上、修正を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

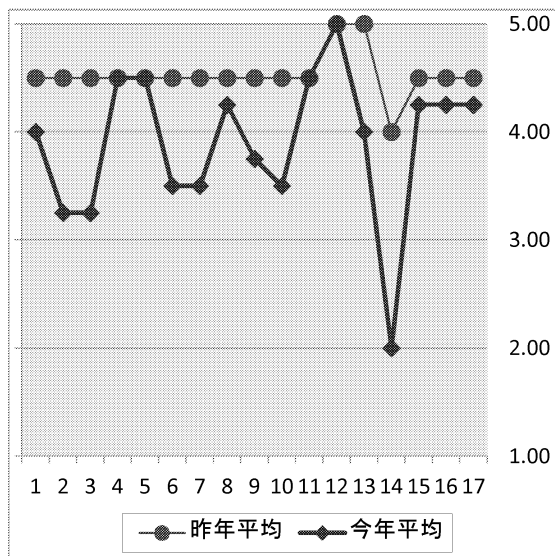
「アカデミック・ソリューション」という科目の趣旨を受講生に周知し、学生が積極的に参加する状態を作るのに必要な模索をしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生が積極的に参加しつつあるように思えるが、より一層の工夫を講じたい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(松本クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.00	4	4	4
2	4.50	3.25	3	4	3
3	4.50	3.25	3	4	3
4	4.50	4.50	4・5	5	4
5	4.50	4.50	4・5	5	4
6	4.50	3.50	3・4	4	3
7	4.50	3.50	3・4	4	3
8	4.50	4.25	3・4	5	3
9	4.50	3.75	4・5	5	3
10	4.50	3.50	3・4	4	3
11	4.50	4.50	4・5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.00	3・5	5	3
14	4.00	2.00	2	3	1
15	4.50	4.25	3・4	5	3
16	4.50	4.25	3・4	5	3
17	4.50	4.25	3・4	5	3
回答者数	2	4			



受講生の傾向

全員が真面目に100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

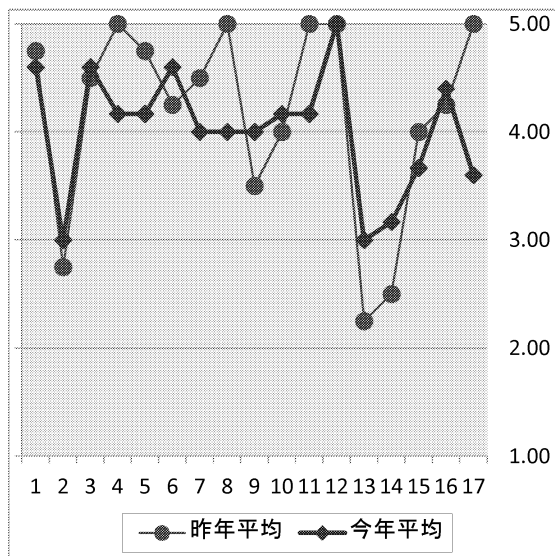
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間外で確認テスト等を実施している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も個々の能力差に応じて、正規の時間外で指導を行なう必要がある。

科 目	アカデミック・ソリューションB(宮本クラス)			
配当年次	1	開講時限	土1	
受講者数	7	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.60	5	5	4
2	2.75	3.00	3	3	3
3	4.50	4.60	5	5	4
4	5.00	4.17	5	5	2
5	4.75	4.17	5	5	2
6	4.25	4.60	5	5	4
7	4.50	4.00	5	5	1
8	5.00	4.00	5	5	1
9	3.50	4.00	5	5	1
10	4.00	4.17	5	5	2
11	5.00	4.17	5	5	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.25	3.00	3	4	2
14	2.50	3.17	3	5	1
15	4.00	3.67	4・5	5	1
16	4.25	4.40	4	5	4
17	5.00	3.60	4	5	1
回答者数	4	6			



受講生の傾向

アカデミック・ソリューションBでは、Aから引き続き受講した多くの学生とアカデミック・ソリューションBから新たに受講した若干の学生が混在したが、新たに授業に参加した学生は、もともと経済学の基礎学力を持っていたことと、平行してミクロ経済学を受講することを勧めたので、両者の間に学力差はほとんどなく、レベルの高い授業を行うことができるようになった。受講生の多くは熱心に受講した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業アンケートによると、「授業は非常によく理解できるが、模擬試験の問題などはやや難しいと感じた」との意見もあったので、アカデミック・ソリューションBでは授業と模擬試験を繋ぐ意味で、過去の公認会計士を中心に多くの練習問題を取り上げて、学生に解答をホワイトボードに書かせて、全員で順番に解かせて解法能力を高めるように努めた。かなりの効果があったと思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

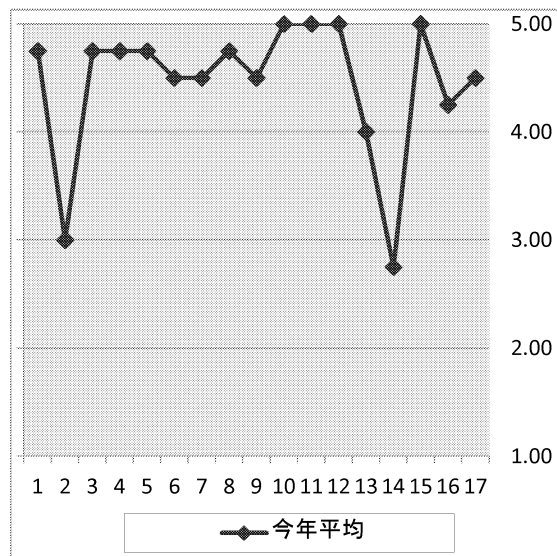
「最初はある限り初心者向けのわかりやすい授業を心がける。そして、徐々にレベルを引き上げる。」と記載していたが、昨年度は効果があったので、本年度も同じよう方針で授業を行った。特に練習問題の特訓は効果があったと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最初は基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、その後経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針でやってきて非常に効果があったと考えている。したがって、今後もこの方向で授業を行う方針である。

科 目	アカデミック・ソリューションB(宗岡クラス)		
配当年次	1	開講時限	木5
受講者数	5	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	－	4.75	5	5	4
2	－	3.00	3	3	3
3	－	4.75	5	5	3
4	－	4.75	5	5	4
5	－	4.75	5	5	4
6	－	4.50	5	5	3
7	－	4.50	5	5	3
8	－	4.75	5	5	4
9	－	4.50	5	5	3
10	－	5.00	5	5	5
11	－	5.00	5	5	5
12	－	5.00	5	5	5
13	－	4.00	5	5	1
14	－	2.75	1・2・3・5	5	1
15	－	5.00	5	5	5
16	－	4.25	5	5	3
17	－	4.50	4・5	5	4
回答者数	－	4			



受講生の傾向

会計専門職大学院への進学が、公認会計士試験受験のためではなく、会計専門職として有利な就職を行うためと目的意識のはっきりした学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

目的意識と学習目標の明確化、発表、ディスカッションの活発化等を通して、企業に有益な人材を育成すること。

今後の対応

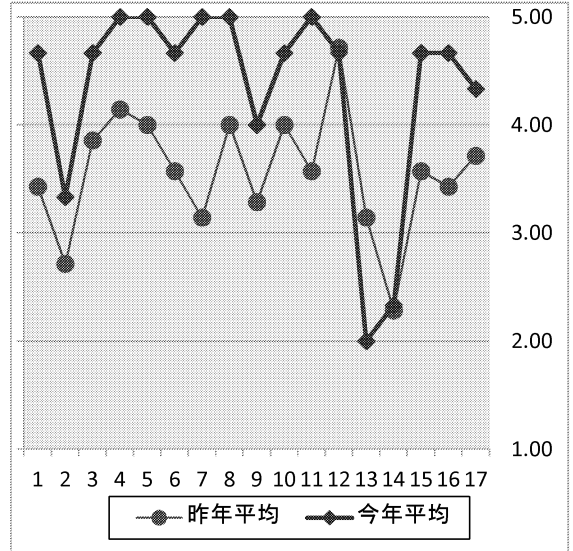
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

目的意識を踏まえ学習目標を明確化させた上で、発表、ディスカッションの活発化等を通して、企業に有益な人材を育成するということを継続して行いたい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	月5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.43	4.67	5	5	4
2	2.71	3.33	3	4	3
3	3.86	4.67	5	5	4
4	4.14	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.57	4.67	5	5	4
7	3.14	5.00	5	5	5
8	4.00	5.00	5	5	5
9	3.29	4.00	3・4・5	5	3
10	4.00	4.67	5	5	4
11	3.57	5.00	5	5	5
12	4.71	4.67	5	5	4
13	3.14	2.00	1・2・3	3	1
14	2.29	2.33	1・2・4	4	1
15	3.57	4.67	5	5	4
16	3.43	4.67	5	5	4
17	3.71	4.33	4	5	4
回答者数	7	3			



受講生の傾向

質問No. 13(予習時間)の今年平均は昨年平均を下回っているが、アカデミック・ソリューションAと同様、非常に優秀で熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、テキストを昨年度のものから変更した。次に、法人税法の理解向上を図るため、重要な租税判例を輪読した。さらに、疑問点が多く生じることが予想されたため、受講生間にディスカッションの時間を多く提供し、講義スタイルをできる限りとらないように努めた。最後に、会計士試験の理論問題を一緒に解く時間も設けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

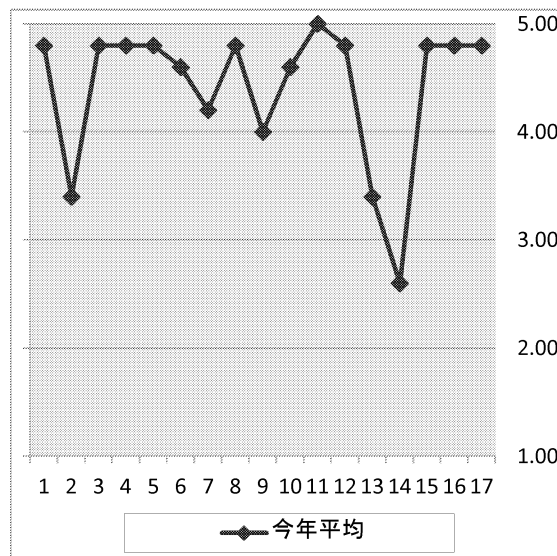
今回使用したテキスト(本庄資・藤井保憲『法人税法 実務と理論』弘文堂・2008)が難解であるとの意見を受講生から受け取っている。テキストの見直しを行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法人税法の条文を十分に読むことなく、報告レジュメを作成しているところが散見された。すべての条文を読むことはできないが、重要な条文については、講義内でフォローしていきたいと考えている。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(坂口クラス)			
配当年次	2	開講時限	金5	
受講者数	5	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.80	5	5	4
2	—	3.40	3	5	3
3	—	4.80	5	5	4
4	—	4.80	5	5	4
5	—	4.80	5	5	4
6	—	4.60	5	5	4
7	—	4.20	4・5	5	3
8	—	4.80	5	5	4
9	—	4.00	3・5	5	3
10	—	4.60	5	5	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.80	5	5	4
13	—	3.40	2・5	5	2
14	—	2.60	2	5	1
15	—	4.80	5	5	4
16	—	4.80	5	5	4
17	—	4.80	5	5	4
回答者数	—	5			



受講生の傾向

管理会計に興味を持ち、学習が進んだ学生が多い。また、多くの学生はCPAを目指している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

管理会計の発展的な項目(たとえば戦略的コストマネジメント、BSC、TOC、BFC、MFCA)を中心に議論を進めた。これにより、全体像を鳥瞰し受講生の管理会計に関する包括的な理解を促進できたと考える。また、発展的な知識を着実に身に着けるため、問題点を考えることに重点を置いた。

今後の対応

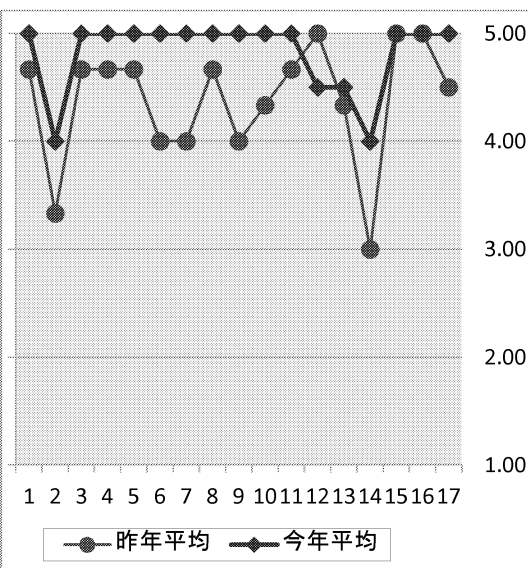
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(柴クラス)			
配当年次	2	開講時限	火1	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	5.00	5	5	5
2	3.33	4.00	3・5	5	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.67	5.00	5	5	5
5	4.67	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.33	5.00	5	5	5
11	4.67	5.00	5	5	5
12	5.00	4.50	4・5	5	4
13	4.33	4.50	4・5	5	4
14	3.00	4.00	3・5	5	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	3	2			



受講生の傾向

学習意欲、学習満足度および講義内容のいずれについても高い評価を得ている。ひとつには受講者が2名という学習環境が原因であろうと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
効果の高い討論中心の講義を継続している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

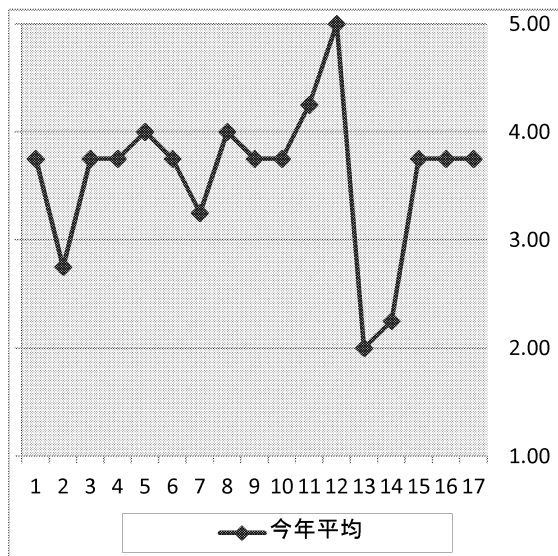
可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(富田クラス)			
配当年次	2	開講時限	火5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	3.75	4	4	3
2	—	2.75	3	3	2
3	—	3.75	4	4	3
4	—	3.75	4	4	3
5	—	4.00	4	5	6
6	—	3.75	3	5	3
7	—	3.25	3	4	3
8	—	4.00	4	4	4
9	—	3.75	4	4	3
10	—	3.75	4	4	3
11	—	4.25	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.00	2	3	1
14	—	2.25	2	4	2
15	—	3.75	4	4	3
16	—	3.75	4	4	3
17	—	3.75	4	4	3
回答者数	—	4			



受講生の傾向

ほとんど欠席することなく、受講している。
英文の教材に対しても、大きな抵抗なく対応していた。
より具体的な事象を考察するとき、ディスカッションから雑談めいた状態になることが少なくなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の担当なしであるが、より対象が明確になるように、そして、必要に応じて、英文であってもその題材を使用することとした。

今後の対応

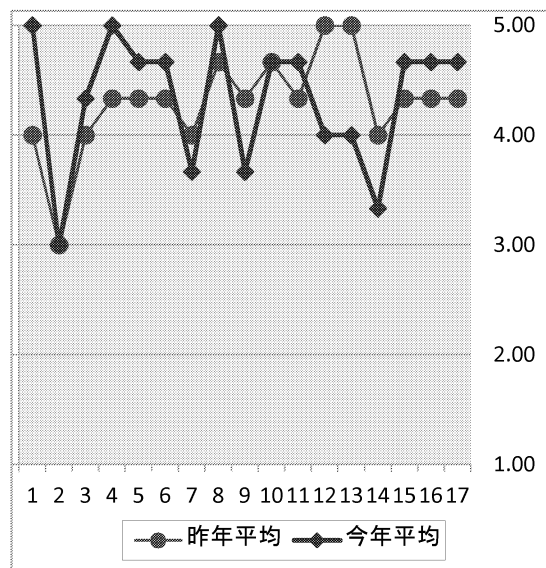
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

具体的な事象の考察のディスカッションから雑談めいた状態にならないよう意識し、ディスカッションと雑談の違いを受講生に識別させる。その上で、活発なディスカッションを促す。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(松本クラス)			
配当年次	2	開講時限	金5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.33	4	5	4
4	4.33	5.00	5	5	5
5	4.33	4.67	5	5	4
6	4.33	4.67	5	5	4
7	4.00	3.67	3	5	3
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.33	3.67	4	4	3
10	4.67	4.67	5	5	4
11	4.33	4.67	5	5	4
12	5.00	4.00	5	5	2
13	5.00	4.00	3・4・5	5	3
14	4.00	3.33	2・3・5	5	2
15	4.33	4.67	5	5	4
16	4.33	4.67	5	5	4
17	4.33	4.67	5	5	4
回答者数	3	3			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自の能力に応じて課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

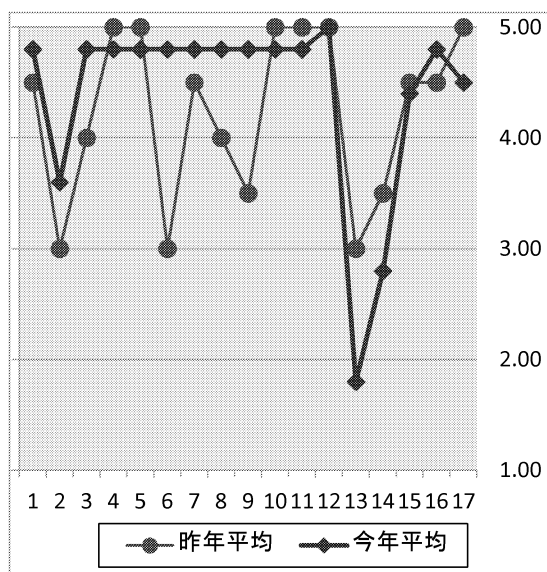
受講生の知識・能力レベルに差がある場合に、個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない学生に、一定の追加的な課題を考える必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(宮本クラス)			
配当年次	2	開講時限	土5	
受講者数	6	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.80	5	5	4
2	3.00	3.60	3・5	5	2
3	4.00	4.80	5	5	4
4	5.00	4.80	5	5	4
5	5.00	4.80	5	5	4
6	3.00	4.80	5	5	4
7	4.50	4.80	5	5	4
8	4.00	4.80	5	5	4
9	3.50	4.80	5	5	4
10	5.00	4.80	5	5	4
11	5.00	4.80	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	1.80	1・2	3	1
14	3.50	2.80	1・2・5	5	1
15	4.50	4.40	4	5	4
16	4.50	4.80	5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	2	5			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューションAでは、日常マスコミで目にするマクロ経済学の国民所得諸概念、乗数効果、IS-LM分析、オープンマクロなどの理論を解説するので、受講生は非常に興味をもって、熱心に受講してくれた。受講生は、公認会計士以外に、公務員、国税官、民間企業を目指す受講生が多かった。全員のレベルは非常に高く、熱心に受講した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全員学部時代に経済学を受講していて、経済学に関心のある受講生ばかりであった。しかし、授業をあまり覚えていないとのことであったので、マクロ経済学の基本から授業をスタートした。図などを用いて、分かり易い授業をすることに努めたので、受講生はかなり理解度を深めてくれたものと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

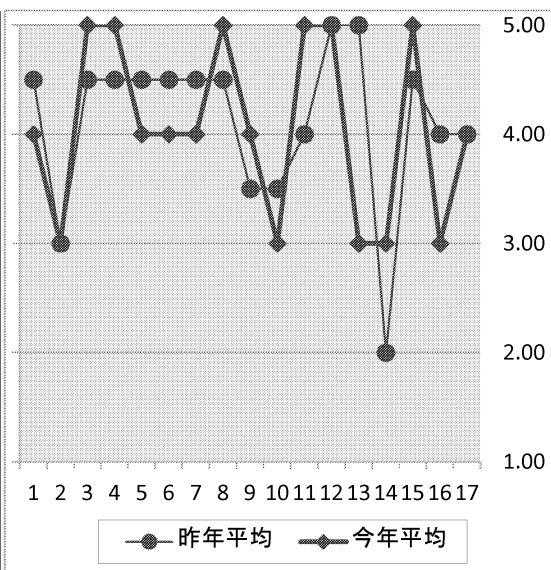
「最初は、基礎的で内容の分かりやすい授業を行い、授業の回数を重ねるにつれて徐々に内容を高めて、最後には種々の試験問題が解けるレベルまで学力を引き上げる。」と記載していたが、本年度はこの方針の授業がよい方向で実施できたと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果を踏まえて、最初は基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めて行き、徐々に内容を高度化して、最後は種々の試験問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように工夫したが、非常に効果があったと考えているので、今後もこの方針で授業を行う。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	火5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.00	4	4	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	4.00	4	4	4
6	4.50	4.00	4	4	4
7	4.50	4.00	4	4	4
8	4.50	5.00	5	5	5
9	3.50	4.00	4	4	4
10	3.50	3.00	3	3	3
11	4.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	3.00	3	3	3
14	2.00	3.00	3	3	3
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.00	3.00	3	3	3
17	4.00	4.00	4	4	4
回答者数	2	1			



受講生の傾向

昨年度に租税法のアカデミック・ソリューションを受講しており、租税法全般の基本的な知識を有していた。また、学習態度も非常に真面目であった。なお、質問No. 13、14が示す通り、昨年度に比べ、予習時間は減ったが、復習時間は増えている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、事例問題を通じて、所得税法・法人税法の理解向上を目指したが、今年度はテキストを変えて、判例分析を中心に、条文解釈力の向上を目指した。また、取り扱う判例もいきなり所得税法から始めるのではなく、租税法総論から始めることにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

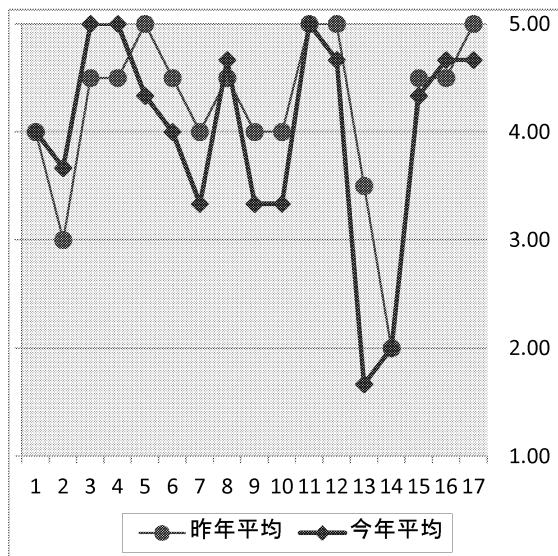
公認会計士試験への対応としては、事例問題だけでなく、重要な租税判例についても取り扱う必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義内で取り扱う判例数をもっと増やしたい。この場合、テキストの変更も検討する必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(坂口クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	4	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.00	4	4	4
2	3.00	3.67	3	5	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	5.00	4.33	4	5	4
6	4.50	4.00	4	4	4
7	4.00	3.33	3	4	3
8	4.50	4.67	5	5	4
9	4.00	3.33	3	4	3
10	4.00	3.33	4	4	2
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	4.67	5	5	4
13	3.50	1.67	2	2	1
14	2.00	2.00	1・2・3	3	1
15	4.50	4.33	4	5	4
16	4.50	4.67	5	5	4
17	5.00	4.67	5	5	4
回答者数	2	3			



受講生の傾向

管理会計に興味を持ち、学習が進んだ学生が多い。ただし、前掲のプロフェッショナル・ソリューションAと比べて学生の変動があったため、学生の進路について多様性(たとえば一般企業への就職など)が見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

管理会計の基礎的および発展的な項目を踏まえて、架空の企業事例などを用いて管理会計の適用に関する議論を実施した。これにより、管理会計の知識を現実に応用するためのポイントやそこにおいて生じる(生じうる)組織的な問題に関する理解を促進できたと考える。また、発展的な知識を身に着けるため、考えることやこれを相手に伝えること(コミュニケーションの側面)に重点を置いた。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

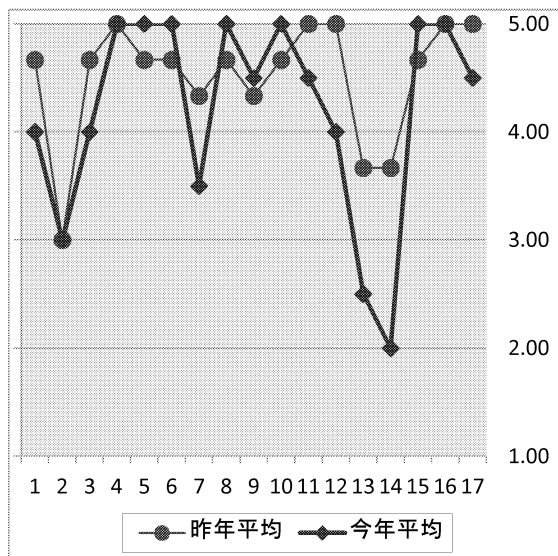
習熟度に圧倒的な差がある場合は、個別にレベルの異なるタスクを設定することを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の取り組みを継続する。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(柴クラス)			
配当年次	2	開講時限	金5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.00	3・5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.67	4.00	4	4	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.67	5.00	5	5	5
6	4.67	5.00	5	5	5
7	4.33	3.50	3・4	4	3
8	4.67	5.00	5	5	5
9	4.33	4.50	4・5	5	4
10	4.67	5.00	5	5	5
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.00	3・5	5	3
13	3.67	2.50	2・3	3	2
14	3.67	2.00	2	2	2
15	4.67	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

秋学期には、学習意欲が減退する一方、学習満足度は一定で、講義への評価はややばらつきが出始めた。秋学期に短答式試験に集中することから、講義への集中力を欠いたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は春秋で大きな変化が出なかったなので、例年どおりに、質疑の多い形式の演習を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

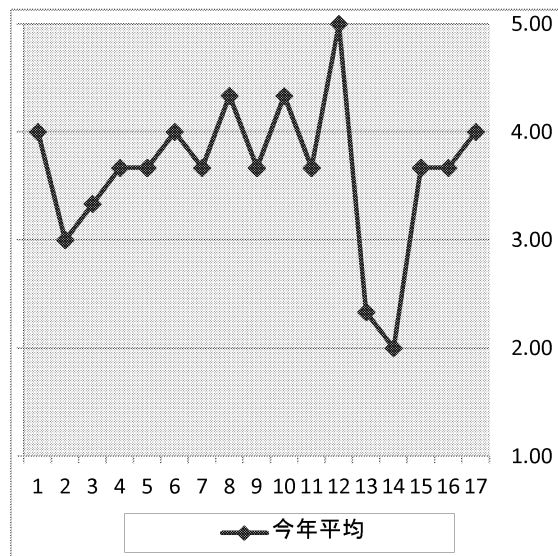
可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。ただし、秋学期の集中力が続くように工夫する。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(富田クラス)		
配当年次	2	開講時限	火5
受講者数	4	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	3・4・5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	3.33	3	4	3
4	—	3.67	4	4	3
5	—	3.67	4	4	3
6	—	4.00	4	4	4
7	—	3.67	4	4	3
8	—	4.33	4	5	4
9	—	3.67	4	4	3
10	—	4.33	4	5	4
11	—	3.67	4	4	3
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.33	1・2・4	4	1
14	—	2.00	1・2・3	3	1
15	—	3.67	4	4	3
16	—	3.67	4	4	3
17	—	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	—	3			



受講生の傾向

ほとんど欠席することなく、受講している。
英文の教材に対しても、大きな抵抗なく対応していた。
より具体的な事象を考察するとき、ディスカッションから雑談めいた状態になることが少なくなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の担当なしであるが、より対象が明確になるように、そして、必要に応じて、英文であってもその題材を使用することとした。

今後の対応

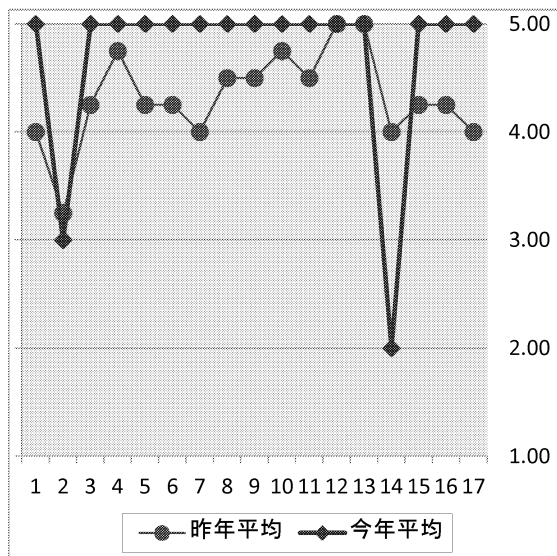
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

具体的な事象の考察のディスカッションから雑談めいた状態にならないよう意識し、ディスカッションと雑談の違いを受講生に識別させる。その上で、活発なディスカッションを促す。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.25	3.00	3	3	3
3	4.25	5.00	5	5	5
4	4.75	5.00	5	5	5
5	4.25	5.00	5	5	5
6	4.25	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.50	5.00	5	5	5
10	4.75	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	4.00	2.00	2	2	2
15	4.25	5.00	5	5	5
16	4.25	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	4	1			



受講生の傾向

まじめに100%出席した(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、受講生の目的と能力に応じて課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

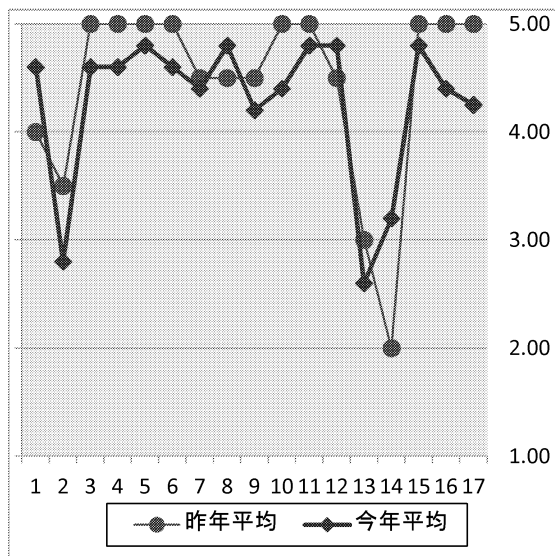
受講生に対して能力・目的に応じた個別的な対応が必要となり、正規の時間のみでは対応できない場合に一定の追加的な課題を考える必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(宮本クラス)		
配当年次	2	開講時限	±5
受講者数	6	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.60	5	5	4
2	3.50	2.80	3	3	2
3	5.00	4.60	5	5	4
4	5.00	4.60	5	5	4
5	5.00	4.80	5	5	4
6	5.00	4.60	5	5	4
7	4.50	4.40	5	5	3
8	4.50	4.80	5	5	4
9	4.50	4.20	5	5	3
10	5.00	4.40	5	5	3
11	5.00	4.80	5	5	4
12	4.50	4.80	5	5	4
13	3.00	2.60	2	5	1
14	2.00	3.20	5	5	1
15	5.00	4.80	5	5	4
16	5.00	4.40	4	5	4
17	5.00	4.25	4	5	4
回答者数	2	5			



受講生の傾向

プロフェッショナル・ソリューションBでは、高度なマクロ経済学について授業を行ったが、全員がAから引き続き受講した受講生であったので、全員がマクロ経済学に関してかなりレベルの高い学力を持っていた。それで高度な内容の授業を行うことができた。全員15回の講義にほとんど欠席はなく、熱心に授業を受講した。効率の高い授業ができたと考えている。公認会計士のみならず、公務員、民間企業希望の受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業アンケートによると、「授業は面白くて、非常によく理解できるが、練習問題などは時々難しいと感じたこともあった」との意見もあったので、プロフェッショナル・ソリューションBでは、講義とさまざまな試験問題を繋ぐ意味で、過去の公認会計士の問題をはじめ種々の練習問題を例題としてかなり多くを取り上げた。そして、毎回学生に解答を書かせて、全員で解き、解法能力を高めるように努めた。非常に効果があったと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

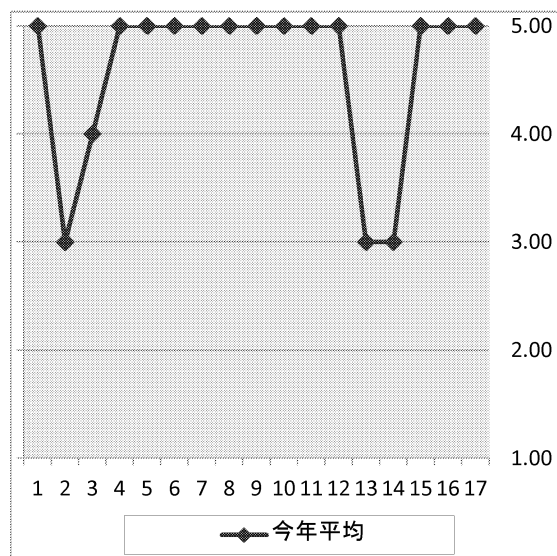
基本はマスターしていると考えられるので、練習問題を最初から数多く取り上げて、それらの解法を全員で議論して考察するとしていたが、その方向で授業ができたと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後は、受講生のレベルの向上をはかるために、多くの練習問題を取り上げて、全員で分析する。最初は初歩的・基礎的な内容の問題から、最後は難問であっても自分の力で解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針である。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(宗岡クラス)		
配当年次	2	開講時限	金5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	3・5	5	3
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	3	3	3
14	—	3.00	3	3	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	2			



受講生の傾向

就職も決まり、就職後に備えた対策を行うことが必要という意識が高かったが、一方、最後の学生時代ということで一種浮ついたところもあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
学生との話し合いで、学習内容を決めてそれを行った。

今後の対応

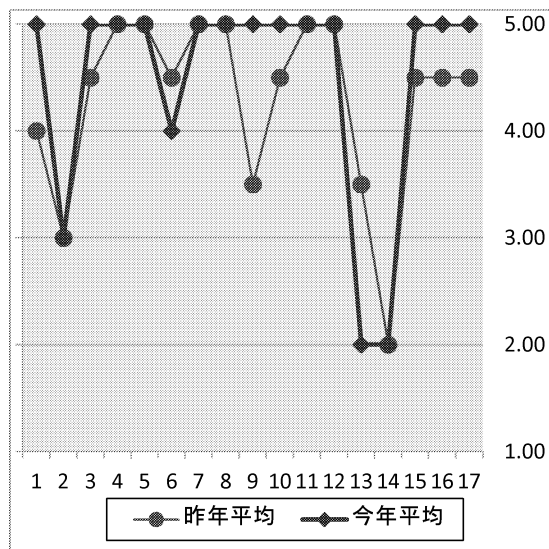
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

将来の武器となるようなことを学習するきっかけとなるように授業すること。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(中村クラス)			
配当年次	2	開講時限	火5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	4.50	4.00	4	4	4
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	3.50	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.50	2.00	2	2	2
14	2.00	2.00	2	2	2
15	4.50	5.00	5	5	5
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.50	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

昨年度のアカデミック・ソリューション、及び、今年度のプロフェッショナル・ソリューションAで、租税法を1年半学習しており、租税法全般の知識を有していた。ただ、法人税法を苦手としているようであった。質問No. 13、14が示す通り、学習時間が不足していると思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内容を国内税法(法人税法)へ変更した。また、講義内容を判例分析による条文解釈とした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

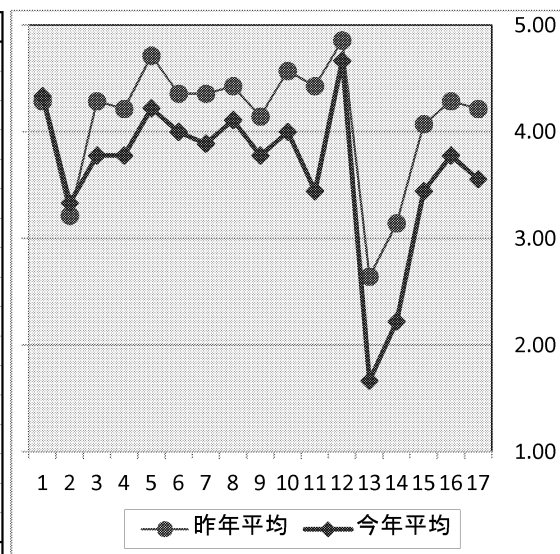
国際租税法を理解するために要求される国内税法の知識が残念ながら十分とはいえず、講義はあまり進まなかった。今後の対応としては、国内税法をきちんと学習することが先決であるため、講義内容を国際租税法から国内税法へ切り替える必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ロースクール用のテキストを使用したのが、難解につき、もう少し難度を下げたテキストに変更する必要がある。また、取り扱う判例を増やすことや、会計士試験の理論問題を解くことも今後の課題である。さらに、自宅学習時間を増やすべく、課題レポートを課すことも検討する必要がある。

科 目	無形資産会計論			
配当年次	2	開講時限	火2	
受講者数	13	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.29	4.33	4・5	5	3
2	3.21	3.33	3	4	3
3	4.29	3.78	4	5	2
4	4.21	3.78	3	5	3
5	4.71	4.22	4	5	4
6	4.36	4.00	4	5	3
7	4.36	3.89	4	5	3
8	4.43	4.11	4	5	3
9	4.14	3.78	4	5	2
10	4.57	4.00	4	5	2
11	4.43	3.44	3	5	1
12	4.86	4.67	5	5	4
13	2.64	1.67	1	3	1
14	3.14	2.22	2	4	1
15	4.07	3.44	3	5	1
16	4.29	3.78	4	5	1
17	4.21	3.56	3・4	5	1
回答者数	14	9			



受講生の傾向

遅刻する受講生は少なく、講義中は静穏な環境が保たれており、受講態度は真面目であった。論文式の小テストでは、おおよその理解は見られるものの、得点力のある文章表現が少なく、論理を展開して説明することに苦慮している様子であった。しかし、小論文の課題では探究心が見られ、興味をもったことを調べて自分なりの視点で説明しようとする姿勢があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年と同様に、パワーポイントを使って考え方の手順を示し、効率的に要点を説明できるようにした。パワーポイントは、コンバージェンスの観点から最新の動向を取り入れて作成した。現行基準の概要を説明するだけでなく、歴史的な論争や基準設定の経緯、国際的な改定動向等を示すことで、現行基準に対する理解が深まるようにした。また、無形資産会計の将来的な展望を示すことで、受講生の興味関心を高めるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

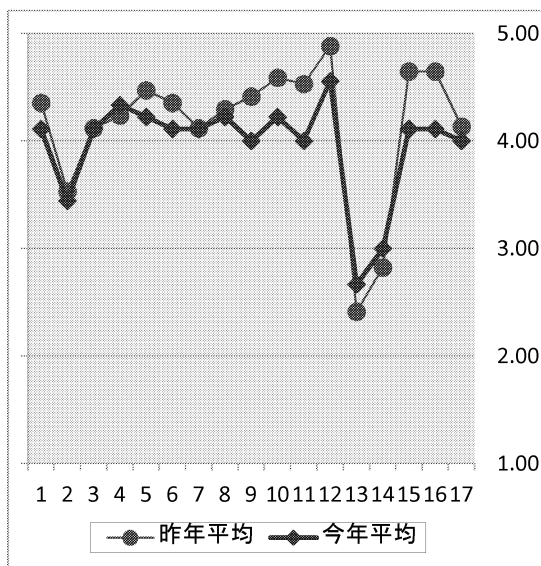
この講義に対して興味関心が高まるように工夫する。コンバージェンスの観点から現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供する。個別指導ではないので限界はあるが、専門用語を正しく使って論理を展開できるようにアドバイスしたい。

科目	金融商品会計論			
配当年次	2	開講時限	火4	
受講者数	11	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.35	4.11	4	5	3
2	3.53	3.44	3	5	3
3	4.12	4.11	4	5	3
4	4.24	4.33	4	5	4
5	4.47	4.22	4	5	3
6	4.35	4.11	4	5	3
7	4.12	4.11	4	5	3
8	4.29	4.22	4	5	4
9	4.41	4.00	4	5	3
10	4.59	4.22	4	5	3
11	4.53	4.00	4	5	3
12	4.88	4.56	5	5	3
13	2.41	2.67	2・3	4	1
14	2.82	3.00	3	5	2
15	4.65	4.11	4	5	3
16	4.65	4.11	4	5	3
17	4.13	4.00	4	5	3
回答者数	17	9			



受講生の傾向

全体として、学習態度、学習満足度、講義への評価が低くなっている。昨年が高かったことにもよるが、教授法への満足度にバラツキを生じたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の好評を受けて授業方法を踏襲したが、満足度が下がったようである。少し説明が詳細に過ぎたのかもしれない。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

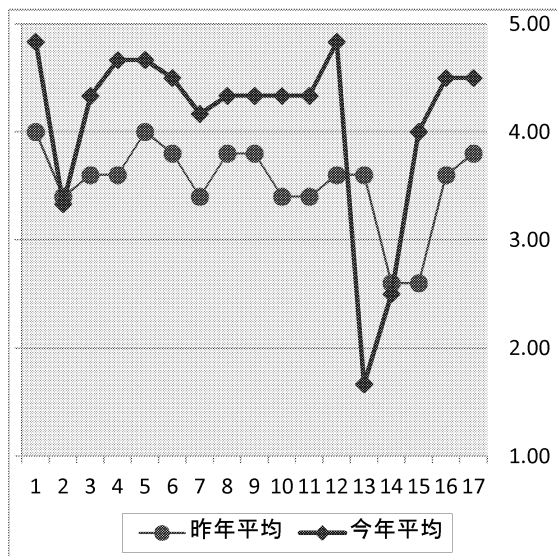
かつて50名を超えていたこの科目もここ2年は21名の履修である。より専門的な内容を学びたいという要求が明確になったと思われるので、それに合わせて講義内容も専門性を高めてきた。その水準を落とさないで、なお、わかりやすい講義を心がける。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

少人数による効果が出るように工夫するため、予習か復習を強制する仕組みを導入する。

科 目	非営利会計論			
配当年次	2	開講時限	金4	
受講者数	7	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.83	5	5	4
2	3.40	3.33	3	4	3
3	3.60	4.33	4	5	4
4	3.60	4.67	5	5	4
5	4.00	4.67	5	5	4
6	3.80	4.50	4・5	5	4
7	3.40	4.17	5	5	3
8	3.80	4.33	4	5	4
9	3.80	4.33	3	3	1
10	3.40	4.33	4	5	4
11	3.40	4.33	4	5	4
12	3.60	4.83	5	5	4
13	3.60	1.67	1	4	1
14	2.60	2.50	2	5	1
15	2.60	4.00	3・4・5	5	3
16	3.60	4.50	4・5	5	4
17	3.80	4.50	4・5	5	4
回答者数	5	6			



受講生の傾向

非営利会計に興味を持つ受講生が多く、内容に関心を持って学習する様子が見えてきた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

非営利会計の位置付、意義、今後の発展性に力点を置き授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

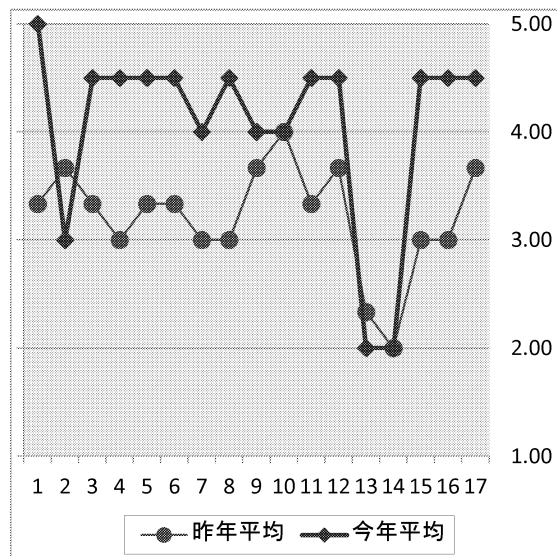
非営利会計の魅力の伝え方についてもう少し工夫が必要と感じる。今後検討する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

非営利法人会計の大きな潮流を少しずつ教えることができるようになってきたと感じるが、この傾向を続けたい。

科 目	国際公会計制度論			
配当年次	2	開講時限	月4	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.33	5.00	5	5	5
2	3.67	3.00	3	3	3
3	3.33	4.50	4・5	5	4
4	3.00	4.50	4・5	5	4
5	3.33	4.50	4・5	5	4
6	3.33	4.50	4・5	5	4
7	3.00	4.00	3・5	5	3
8	3.00	4.50	4・5	5	4
9	3.67	4.00	3・5	5	3
10	4.00	4.00	3・5	5	3
11	3.33	4.50	4・5	5	4
12	3.67	4.50	4・5	5	4
13	2.33	2.00	2	2	2
14	2.00	2.00	2	2	2
15	3.00	4.50	4・5	5	4
16	3.00	4.50	4・5	5	4
17	3.67	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	2			



受講生の傾向

少人数の関心の高い受講生による授業となったため相対的に評価は高かったといえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
最近のトピック、企業会計の対比等受講生の興味を引くように努めた。

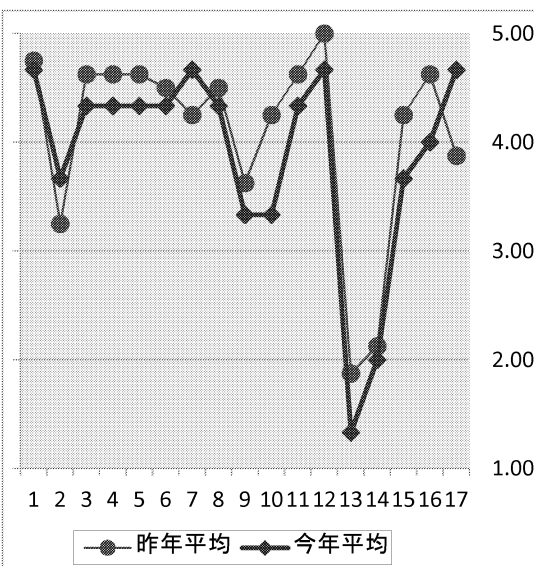
今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
会計全般に共通する理論的な基礎を説明することは重要なことであるが、興味を引くように教える工夫が必要。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」
国際的な潮流をさらにわかりやすく教える必要があると感じたため、この半年間の研修を生かして内容を工夫する。

科目	保証業務論			
配当年次	2	開講時限	水1	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.67	5	5	4
2	3.25	3.67	3	5	3
3	4.63	4.33	4	5	4
4	4.63	4.33	4	5	4
5	4.63	4.33	5	5	3
6	4.50	4.33	4	5	4
7	4.25	4.67	5	5	4
8	4.50	4.33	4	5	4
9	3.63	3.33	3	4	3
10	4.25	3.33	3	4	3
11	4.63	4.33	5	5	3
12	5.00	4.67	5	5	4
13	1.88	1.33	1	2	1
14	2.13	2.00	2	2	2
15	4.25	3.67	3	5	3
16	4.63	4.00	4	4	4
17	3.88	4.67	5	5	4
回答者数	8	3			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」とその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、配当時限が水曜1限であるにもかかわらず出席率が90%となっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、自らが提案する当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに相互評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目（情報収集の程度や情報分析の程度等）について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。最終的に当該業務に関する提案書をレポートの形で提出させ、それを含めて評価した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

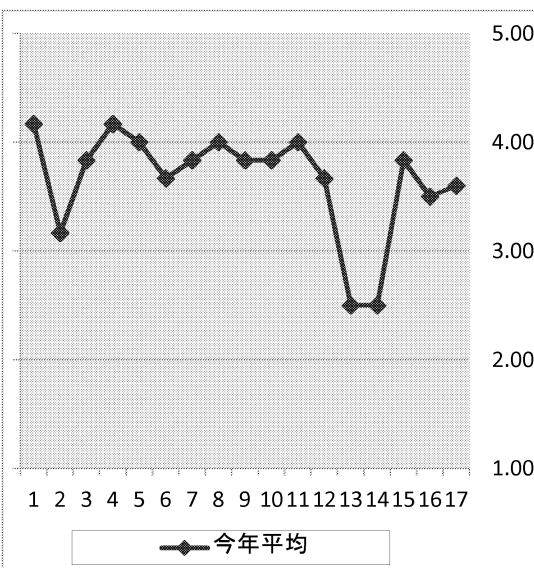
本科目で採る講義スタイルであれば、前半における保証業務の枠組みや内容に関する理解度が完全になされていない場合、後半における保証業務の提案書の精緻さや説得力に反映されない。このため前半では質疑応答を適宜導入した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に続き1限に配置されたことで、応用科目という科目の性質上、極めて少数となっている。時間割上、年度間で連続して1限に配当することについて、一定の配慮が必要と考えられる。

科 目	法人税法		
配当年次	2	開講時限	金3
受講者数	8	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.17	4	5	4
2	—	3.17	3	4	3
3	—	3.83	4	5	2
4	—	4.17	4	5	3
5	—	4.00	4	5	3
6	—	3.67	4	5	2
7	—	3.83	4	5	2
8	—	4.00	4	5	3
9	—	3.83	4	5	2
10	—	3.83	4	5	1
11	—	4.00	4	5	3
12	—	3.67	4	5	1
13	—	2.50	1・3	5	1
14	—	2.50	1・4	4	1
15	—	3.83	4	4	1
16	—	3.50	3	3	2
17	—	3.60	3	3	2
回答者数	—	6			



受講生の傾向

法人税法の基礎となる租税法総論や所得税法を全く学習しておらず、また、法人所得計算の知識も忘れていた受講生が多かった。さらに、質問No. 13、14に示す通り、予習・復習に充てる時間が明らかに不足していた。このため、受講生に判例分析のレポートを複数回課したが、その内容について質問しても十分に答えることのできない場面が数多く見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

租税法総論と所得税法について、時間の許す限り、講義内で補足した。また、各回の講義内容に関する判例について、事前にレポートを課しておき、講義内でそのレポートに基づく質疑応答を行い、受講生の理解向上を目指した。

今後の対応

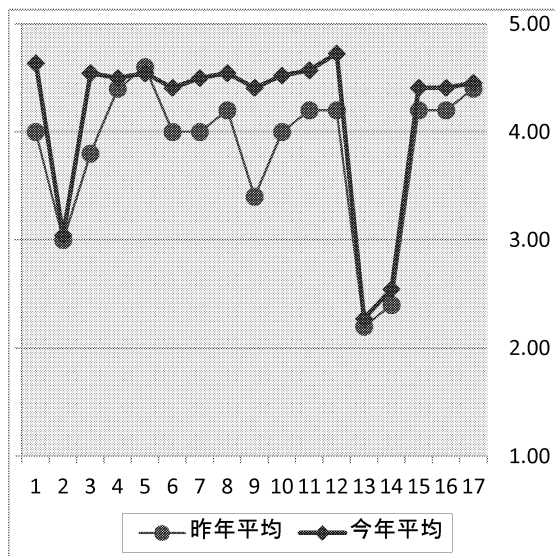
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

法人税法をきちんと理解してもらうため、講義内で小テストを実施する必要がある。また、最終評価を課題レポートで行うことを改め、定期試験により判定する必要がある。

科 目	公共経済学			
配当年次	2	開講時限	火2	
受講者数	29	回答者数	22	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.64	5	5	4
2	3.00	3.05	3	5	2
3	3.80	4.55	5	5	4
4	4.40	4.50	4・5	5	4
5	4.60	4.55	5	5	3
6	4.00	4.41	5	5	3
7	4.00	4.50	5	5	3
8	4.20	4.55	5	5	3
9	3.40	4.41	5	5	3
10	4.00	4.52	5	5	3
11	4.20	4.57	5	5	3
12	4.20	4.73	5	5	4
13	2.20	2.27	1	5	1
14	2.40	2.55	2	5	1
15	4.20	4.41	5	5	3
16	4.20	4.41	4	5	3
17	4.40	4.45	5	5	3
回答者数	5	22			



受講生の傾向

公共経済学の受講生は以前と比べるとかなり多くなってきている。経済学、財政学、地方財政学などに関心のある受講生が出席している。さらに、公認会計士のみならず、将来国や地方自治体の公務員や国税官を目指す受講生も受講している。さらに、民間企業希望者も数多く受講している。講義内容は、税制や財政が中心になるが、受講生のほとんどが目的意識や関心がはっきりしているので、非常に熱心な受講生が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業アンケートによると、公共経済学の分野で特に関心のある分野、つまり税制、財政などのポイントを抑えた公共経済学の話を知りたいという希望があったので、授業では日常マスコミで多く目にする税の説明、税の転嫁、超過負担、そして補助金の超過負担、自治体の財政などについて図を用いて分かりやすく説明した。そして、財政の問題も詳細に解説するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

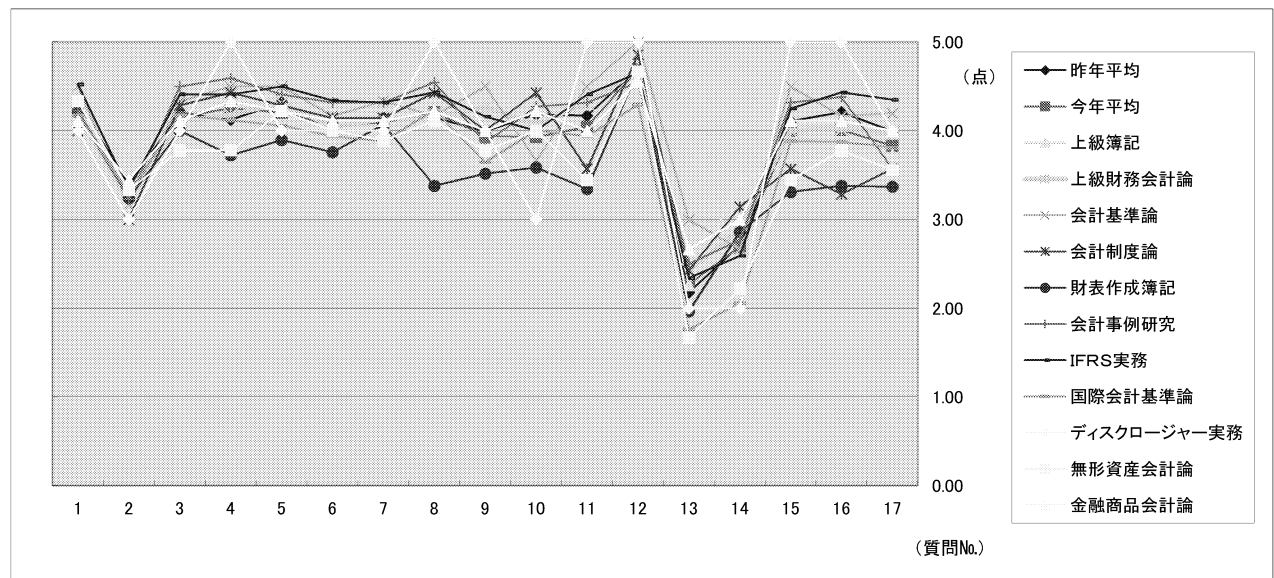
これまでの授業評価アンケートでは、「公共経済学の理論を受講生に理解させて、理論的な問題の解決だけではなく、実社会に出て役立つような応用力が身に付くことができるように授業を工夫したい。」としていたが、本年度も基本的にはその方針で授業を行い、効果があったと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨今の日本財政では、税収の健全化が叫ばれているので、今後はまず日本の財政の状況を分析し、さらに日本の税の種類を詳しく説明する。それから理論分析では数式を少なくして、すべて図を用いてわかり易く解説する。

系： 財務会計
 受講者数:291 回答者数:251

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記	上級財務会計論	会計基準論	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	IFRS実務	国際会計基準論	ディスクロージャー実務	無形資産会計論	金融商品会計論
1	4.31	4.22	4.18	4.20	4.50	4.00	4.21	4.23	4.52	4.18	4.00	4.33	4.11
2	3.39	3.28	3.80	3.20	3.17	3.00	3.24	3.23	3.34	3.29	3.00	3.33	3.44
3	4.21	4.15	4.00	4.11	4.33	4.29	4.00	4.50	4.41	4.18	4.00	3.78	4.11
4	4.12	4.25	3.74	4.18	4.50	4.43	3.72	4.59	4.41	4.12	5.00	3.78	4.33
5	4.32	4.21	3.85	4.31	4.50	4.29	3.90	4.41	4.50	4.06	4.00	4.22	4.22
6	4.05	4.06	3.82	4.04	4.17	4.14	3.76	4.32	4.34	3.94	4.00	4.00	4.11
7	4.15	4.09	3.84	4.14	4.33	4.14	4.07	4.32	4.32	3.88	4.00	3.89	4.11
8	4.15	4.21	3.60	4.16	4.17	4.43	3.38	4.55	4.43	4.24	5.00	4.11	4.22
9	3.99	3.94	3.65	4.27	4.50	4.00	3.52	3.86	4.16	3.65	4.00	3.78	4.00
10	4.18	3.93	3.98	4.07	3.67	4.43	3.59	4.27	4.00	4.00	3.00	4.00	4.22
11	4.17	4.04	3.64	4.31	4.50	3.57	3.34	4.32	4.41	3.94	5.00	3.44	4.00
12	4.70	4.69	4.70	4.68	5.00	4.86	4.68	4.55	4.65	4.29	5.00	4.67	4.56
13	2.18	2.27	2.26	2.42	3.00	2.43	1.97	2.50	2.34	1.76	2.00	1.67	2.67
14	2.71	2.70	3.44	2.89	2.67	3.14	2.86	2.77	2.59	2.06	2.00	2.22	3.00
15	4.11	4.00	3.66	4.00	4.50	3.57	3.31	4.32	4.25	3.88	5.00	3.44	4.11
16	4.21	4.01	3.67	4.02	4.17	3.29	3.38	4.38	4.43	3.88	5.00	3.78	4.11
17	3.99	3.83	3.72	3.98	4.20	3.57	3.37	3.57	4.35	3.81	4.00	3.56	4.00
回答者数	252	251	61	45	6	8	29	22	44	17	1	9	9



受講生の傾向

進歩(項目2)と理解度(項目17)及び満足度(項目11)が包括的な指標として利用できる。講義の進歩は上級簿記論が突出しており改善が望まれる。理解度は、IFRS実務と会計基準論が高く、財表作成簿記、無形資産会計論、会計制度論、会計事例研究、上級簿記論が低い。満足度は、会計基準論、IFRS実務、会計事例研究が高く、財表作成簿記、無形資産会計論、会計制度論、上級簿記論が低い。会計事例研究は満足度が高いが理解度が低いという異例の結果となっている。上級簿記論などの同一担当者が相対的に低評価を受けている点はFDなどで検討し、改善が望まれる。別の教員が会計基準論で評価を高める一方で、会計制度論では変化なしの結果にいたっている点はクラス運営の方法を2科目で変えたことによる。これも分析を必要とする。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。ただし、一昨年、昨年に続いて、IFRS実務が高い評価を得ている。満足度では例年評価の高くなかった会計基準論が大幅にアップ、会計事例研究もアップ。理解度は会計基準論が大幅にアップ。これらの理由を分析する必要がある。会計事例研究は満足度が高いのに理解度が低い一つの理由を分析する必要がある。満足度、理解度の下がった科目はFD等において「今後の対応」が生かされたかどうか分析されたい。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

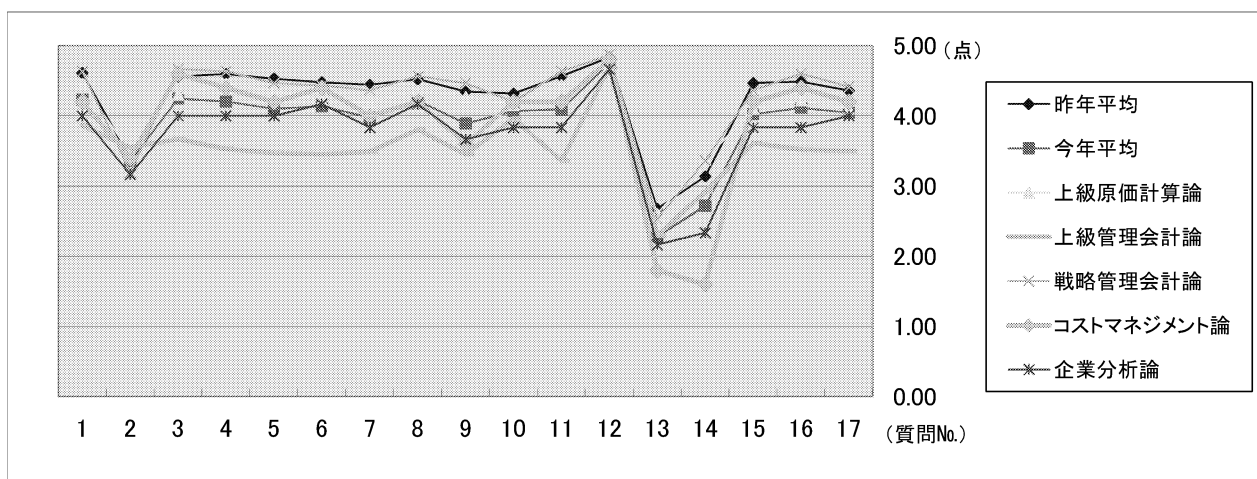
科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。

系： 管理会計

受講者数： 192

回答者数： 153

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論	上級管理会計論	戦略管理会計論	コストマネジメント論	企業分析論
1	4.61	4.23	4.46	3.86	4.63	4.20	4.00
2	3.40	3.36	3.47	3.55	3.20	3.40	3.17
3	4.56	4.25	4.31	3.67	4.67	4.60	4.00
4	4.60	4.20	4.46	3.53	4.63	4.40	4.00
5	4.53	4.10	4.36	3.47	4.47	4.20	4.00
6	4.48	4.13	4.22	3.45	4.43	4.40	4.17
7	4.44	3.98	4.20	3.49	4.37	4.00	3.83
8	4.52	4.22	4.36	3.80	4.57	4.20	4.17
9	4.35	3.89	4.27	3.45	4.47	3.60	3.67
10	4.32	4.07	4.15	3.96	4.20	4.20	3.83
11	4.56	4.09	4.44	3.37	4.63	4.20	3.83
12	4.84	4.75	4.71	4.69	4.87	4.80	4.67
13	2.68	2.28	2.60	2.29	2.53	1.80	2.17
14	3.14	2.72	3.37	2.92	3.37	1.60	2.33
15	4.47	4.02	4.10	3.62	4.37	4.20	3.83
16	4.49	4.11	4.22	3.52	4.60	4.40	3.83
17	4.36	4.04	4.11	3.50	4.41	4.20	4.00
回答者数	200	153	59	52	31	5	6



受講生の傾向

受講生の習熟度(計算だけでなく理論も含む)のバラつきが拡大傾向にあった。そのため、こうしたバラつきを考慮してそれぞれの授業を進めることや、担当者同士の意見交換をより積極的に行うことが必要であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

特に学生の理解を促進するために、簡単な事例を含めて説明をするようにした。また、担当者同士での授業にかかわる意見交換をこれまで以上に実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後も担当者がそれぞれ工夫し、学生の興味を刺激するような授業に取り組むことを予定している。

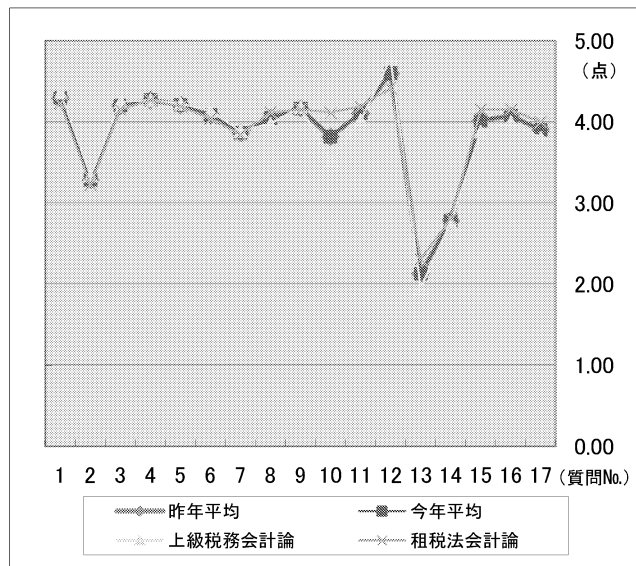
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、担当者同士で授業にかかわる意見交換を継続し、それぞれの授業に活用することを予定している。

系： 税務会計

受講者数： 27 回答者数： 21

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	4.30	4.00	4.00	4.00
2	3.29	2.96	3.07	2.86
3	4.20	3.96	4.07	3.86
4	4.27	4.25	4.36	4.14
5	4.21	4.11	4.21	4.00
6	4.09	3.89	3.93	3.86
7	3.87	4.00	4.00	4.00
8	4.05	4.18	4.21	4.14
9	4.17	4.29	4.29	4.29
10	3.82	3.96	4.07	3.86
11	4.11	4.00	4.14	3.86
12	4.60	4.32	4.21	4.43
13	2.13	1.89	1.93	1.86
14	2.78	2.62	2.38	2.86
15	4.02	3.82	3.64	4.00
16	4.08	3.86	3.86	3.86
17	3.90	3.71	3.82	3.60
回答者数	70	21	14	7



受講生の傾向

今年度の質問No. 2の平均値が、昨年度よりも0.33減少している。これは、既習者と初学者との間に、今年度は非常に大きな知識の差があり、初学者に配慮せざるを得なかったためである。また、質問No. 13と14における昨年度の平均値も、税務会計を学習する時間としては不十分であったが、今年度はさらに減少した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、学習すべき内容を基本項目と応用項目に分け、それぞれを「上級税務会計論」と「租税法会計論」で取り扱うようにし、難易度の引き上げを緩やかに上昇させた。また、臨時試験を成績評価に含める旨を受講生に予め通知しておき、学習時間を多くとるインセンティブを高めようと試みた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

税務会計の初学者が多いことを配慮し、講義内容の難易度を徐々に引き上げる方式に切り替える必要がある。また、臨時試験を実施し、受講生に税務会計の学習時間をできるだけ多くとらせるよう方向づけをする必要もある。

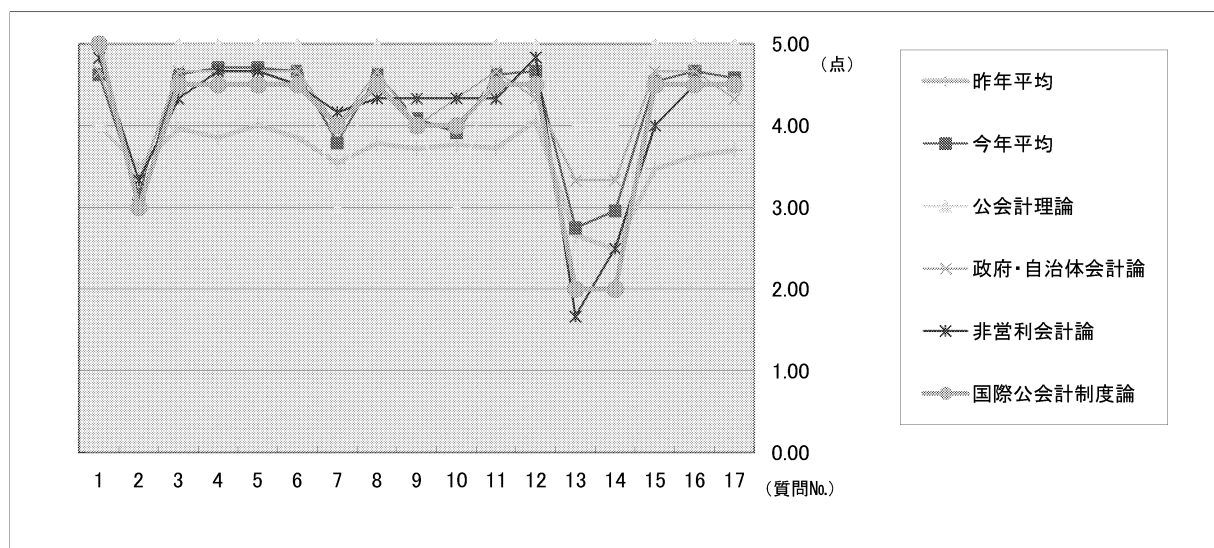
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

「上級税務会計論」と「租税法会計論」とを組み合わせ、難易度を徐々に引き上げる方式は、本年度において有効であったと実感しているため、次年度も継続して採用したい。また、受講生に学習時間を多くとってもらうため、新たに課題レポートを課す必要がある。

系： 公会計

受講者数： 31 回答者数 12

質問No.	昨年平均	今年平均	公会計理論	政府・自治体会計論	非営利会計論	国際公会計制度論
1	4.00	4.63	4.00	4.67	4.83	5.00
2	3.50	3.17	3.00	3.33	3.33	3.00
3	3.97	4.63	5.00	4.67	4.33	4.50
4	3.86	4.71	5.00	4.67	4.67	4.50
5	4.00	4.71	5.00	4.67	4.67	4.50
6	3.85	4.67	5.00	4.67	4.50	4.50
7	3.55	3.79	3.00	4.00	4.17	4.00
8	3.78	4.63	5.00	4.67	4.33	4.50
9	3.72	4.08	4.00	4.00	4.33	4.00
10	3.77	3.92	3.00	4.33	4.33	4.00
11	3.73	4.63	5.00	4.67	4.33	4.50
12	4.06	4.67	5.00	4.33	4.83	4.50
13	2.66	2.75	4.00	3.33	1.67	2.00
14	2.49	2.96	4.00	3.33	2.50	2.00
15	3.47	4.54	5.00	4.67	4.00	4.50
16	3.63	4.67	5.00	4.67	4.50	4.50
17	3.70	4.58	5.00	4.33	4.50	4.50
回答者数	19	12	1	3	6	2



受講生の傾向

受講者が少ないアンケート回答者もさらに少なくなっており、回答者の満足度を反映した評価となっている。その結果、事業内容については概ね満足しているが、講義形式としたため、レポートを課した公会計理論以外は、「予復習の時間は少ない」と回答している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者の理解度を確認しつつ授業を進めた。また、受講者が関心を寄せるトピック等の事項を抽出して興味をもって講義が聞けるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講者の理解度を確認しつつ、関心の所在も踏まえて、講義内容を構成していきたい。

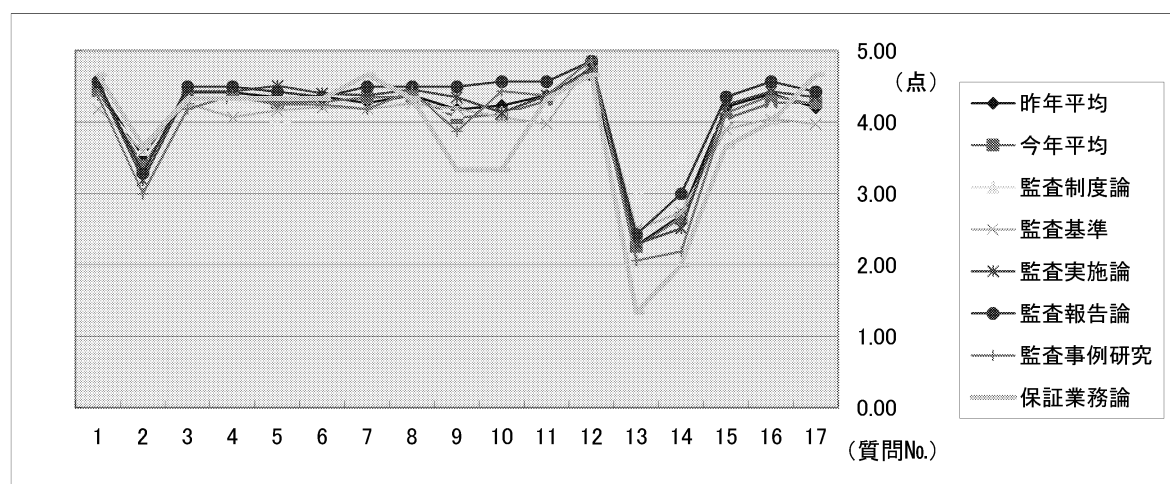
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講者の興味を引き付ける講義内容とする努力は継続する。一方、それを切り口として理論的、体系的に公会計が学べるよう理論的枠組みを作る工夫をしたい。

系： 監査
受講者数：184

回答者数：162

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論	監査基準	監査実施論	監査報告論	監査事例研究	保証業務論
1	4.48	4.45	4.33	4.19	4.54	4.57	4.38	4.67
2	3.52	3.39	3.62	3.60	3.19	3.29	3.00	3.67
3	4.42	4.35	4.36	4.26	4.43	4.50	4.19	4.33
4	4.42	4.34	4.32	4.07	4.43	4.50	4.38	4.33
5	4.35	4.28	3.96	4.17	4.51	4.43	4.25	4.33
6	4.36	4.29	4.16	4.21	4.41	4.36	4.25	4.33
7	4.27	4.35	4.16	4.19	4.38	4.50	4.19	4.67
8	4.38	4.37	4.20	4.26	4.46	4.50	4.44	4.33
9	4.18	4.07	4.14	4.19	4.35	4.50	3.88	3.33
10	4.24	4.12	4.14	4.07	4.14	4.57	4.44	3.33
11	4.38	4.30	4.18	3.98	4.38	4.57	4.38	4.33
12	4.64	4.76	4.54	4.86	4.76	4.86	4.88	4.67
13	2.28	2.26	2.94	2.50	2.30	2.43	2.06	1.33
14	2.70	2.66	3.50	2.74	2.51	3.00	2.19	2.00
15	4.22	4.05	4.00	3.90	4.24	4.36	4.13	3.67
16	4.40	4.27	4.21	4.05	4.43	4.57	4.38	4.00
17	4.21	4.27	3.98	3.97	4.35	4.43	4.25	4.67
回答者数	174	162	50	42	37	14	16	3



受講生の傾向

受講生の出席情況（項目12）は、最も低いもので90%、高いもので100%近くとなっており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目（必修科目）以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての科目で、講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置を講じており、これは2011年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションとディスカッションで行なわれている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

教育効果の高止まりが期待されるべき基本科目について、モラル向上を志向したにもかかわらず、昨年度と異なり今年度の評価の相対的低下が生じたのは残念である。このため、年度毎に履修学生の質の違いを考慮した講義計画が必要となると考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

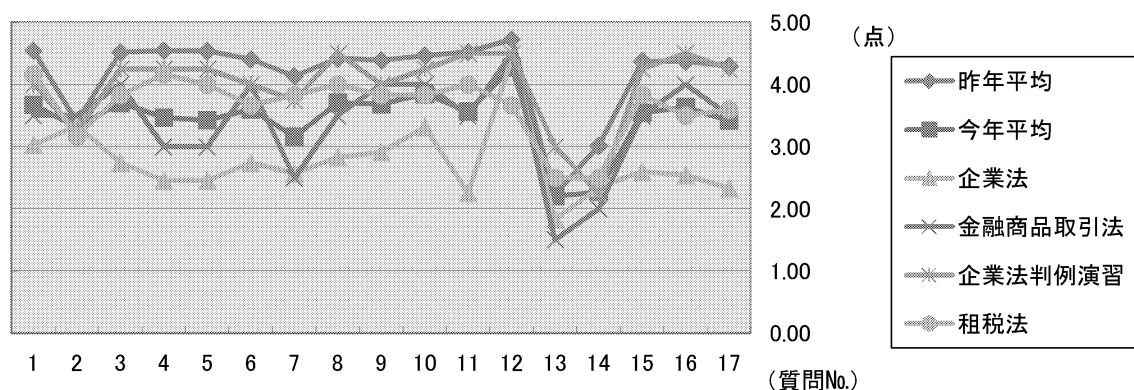
今年度対応された履修学生の質の違いに応じた講義計画のみならず、極端に履修登録者数が少なくなったケースを想定し、出席人数の相違による柔軟な授業運営が必要であると思われる。

系： 法律

受講者数： 78

回答者数： 47

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法	金融商品取引法	企業法判例演習	租税法
1	4.54	3.67	3.03	3.50	4.00	4.17
2	3.40	3.31	3.34	3.50	3.25	3.17
3	4.52	3.71	2.74	4.00	4.25	3.83
4	4.55	3.47	2.46	3.00	4.25	4.17
5	4.54	3.43	2.46	3.00	4.25	4.00
6	4.41	3.60	2.74	4.00	4.00	3.67
7	4.14	3.16	2.57	2.50	3.75	3.83
8	4.42	3.71	2.83	3.50	4.50	4.00
9	4.39	3.69	2.91	4.00	4.00	3.83
10	4.47	3.85	3.31	4.00	4.25	3.83
11	4.52	3.56	2.26	3.50	4.50	4.00
12	4.73	4.27	4.43	4.50	4.50	3.67
13	2.24	2.21	1.83	1.50	3.00	2.50
14	3.01	2.27	2.34	2.00	2.25	2.50
15	4.37	3.55	2.60	3.50	4.25	3.83
16	4.37	3.64	2.54	4.00	4.50	3.50
17	4.30	3.42	2.33	3.50	4.25	3.60
回答者数	130	47	35	2	4	6



受講生の傾向

各法律系科目に必要な基礎知識を十分持たない受講生が、多かった。また、質問No. 13と14が示すように、受講生は30分～1時間程度を法律系科目の復習に充てているが、科目の重要性とボリュームから考慮すると、不十分といわざるをえなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

具体例を題材に、質疑応答を取り入れた講義を実施した。また、前回講義の内容を受講生に確認させること、あるいは、講義で取り扱う判例を事前にレポート提出させることにより、受講生の理解向上を目指した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

法律系科目を苦手とする受講生が多い現状を踏まえ、法の具体的な事実関係への当てはめをより多く行い、受講生の苦手意識を改善していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

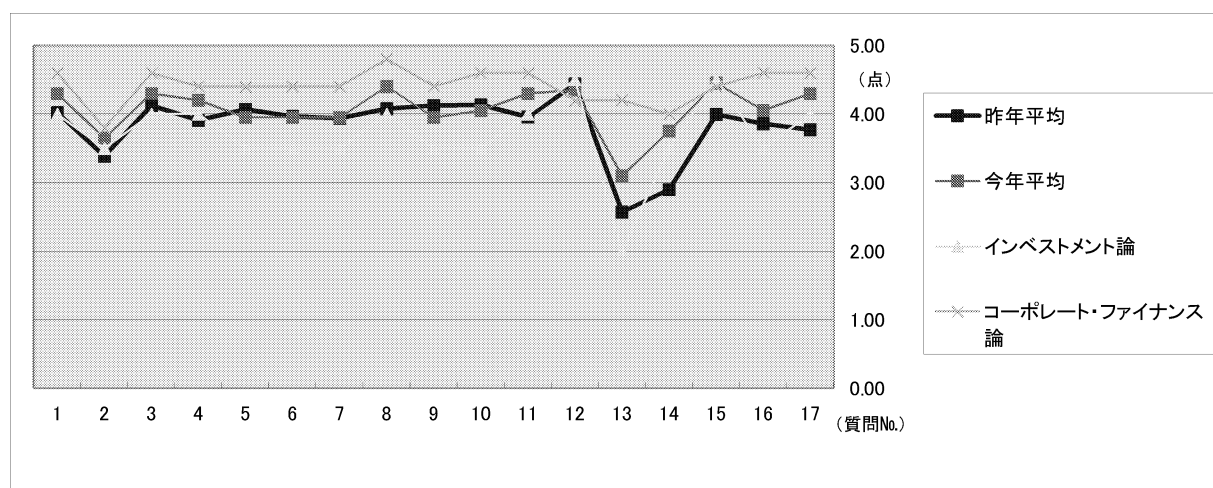
学習すべきボリュームは多いが、できる限り、ポイントを絞り込むこと、そして、質疑応答を取り入れることによって、受講生の消化不良を解消していきたい。また、学習時間を増やすため、課題レポートを課すことも検討したい。

系: ファイナンス

受講者数:13

回答者数:8

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論
1	4.02	4.30	4.00	4.60
2	3.39	3.65	3.50	3.80
3	4.12	4.30	4.00	4.60
4	3.91	4.20	4.00	4.40
5	4.07	3.95	3.50	4.40
6	3.97	3.95	3.50	4.40
7	3.94	3.95	3.50	4.40
8	4.08	4.40	4.00	4.80
9	4.12	3.95	3.50	4.40
10	4.13	4.05	3.50	4.60
11	3.96	4.30	4.00	4.60
12	4.44	4.35	4.50	4.20
13	2.57	3.10	2.00	4.20
14	2.90	3.75	3.50	4.00
15	3.99	4.45	4.50	4.40
16	3.86	4.05	3.50	4.60
17	3.77	4.30	4.00	4.60
回答者数	23	8	2	6



受講生の傾向

工学部出身等の数学がかなり得意な学生が多かった。また、公認会計士試験で経営学を受験する、あるいは、証券アナリスト試験を受験する等の目的のはっきりした学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

数学が苦手な学生に対し、数学を使わずに考え方の説明等を行う予定であったが、今年度の受講生は数学の得意な学生が多く、数学を使った説明に十分についてきてくれたので、広い範囲を深く学習することができた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ファイナンス論について、公認会計士試験の経営学の「財務管理」に当たることについて、シラバスで明示するとともに、少なくとも高校レベルの数学について基礎から復習するようにしたい。国際財務戦略論について、レポートについて、ディスカッションの前と後で2回書かせるようにして、理解が高まったかどうかを確かめるようにしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

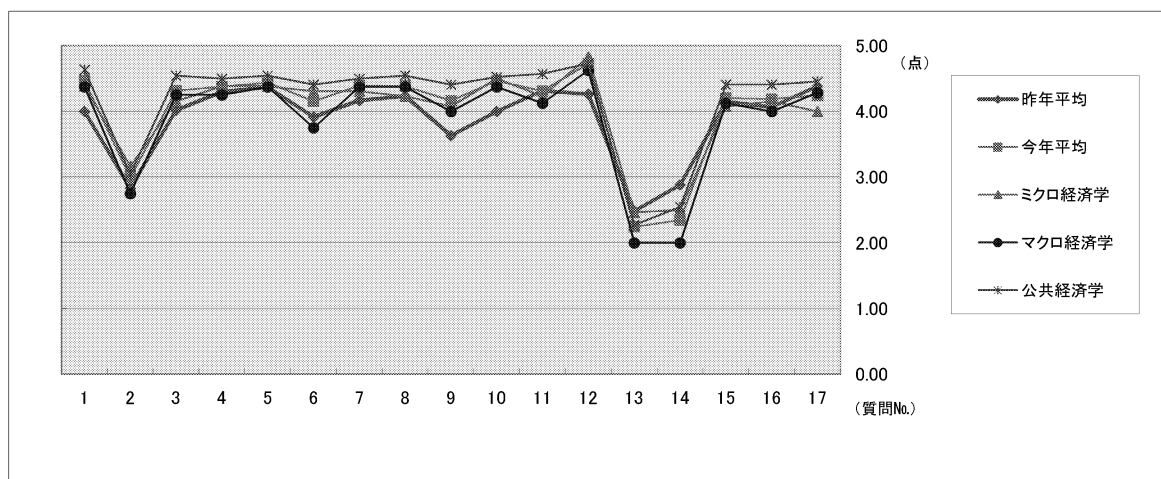
当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。

系： 経済・統計

受講者数： 63

回答者数： 43

質問No.	昨年平均	今年平均	ミクロ経済学	マクロ経済学	公共経済学
1	4.00	4.47	4.38	4.38	4.64
2	2.83	2.99	3.17	2.75	3.05
3	4.02	4.32	4.15	4.25	4.55
4	4.30	4.38	4.38	4.25	4.50
5	4.37	4.44	4.38	4.38	4.55
6	3.92	4.16	4.31	3.75	4.41
7	4.17	4.39	4.31	4.38	4.50
8	4.23	4.38	4.23	4.38	4.55
9	3.63	4.16	4.08	4.00	4.41
10	4.00	4.47	4.50	4.38	4.52
11	4.32	4.31	4.23	4.13	4.57
12	4.26	4.73	4.83	4.63	4.73
13	2.48	2.24	2.46	2.00	2.27
14	2.88	2.35	2.50	2.00	2.55
15	4.15	4.20	4.08	4.13	4.41
16	4.07	4.19	4.15	4.00	4.41
17	4.38	4.25	4.00	4.29	4.45
回答者数	13	43	13	8	22



受講生の傾向

経済・統計系の講義を受講する学生は、基本的に学部時代に経済学、経営学、数学などを受講した経験を持つ受講生が大部分であり、経済学や経営学の基礎をよく理解している。さらに、この系の講義の受講生には、会計専門職業数学を合わせて受講するように勧めるので、基礎的な数学の知識を持っている。したがって、理論的分析力を持った受講生が多く、どの授業においても講義内容の進展がスムーズで、最後はかなり高度な内容の授業ができる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートでは、授業はよく理解できて興味深いのが、練習問題には時々手こずることがあるとの指摘があったので、今年度は受講生の理解度をチェックするために、授業中に多くの練習問題を取り上げて受講生に解かせて、模範解答を解説し、さらに中間テストも実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

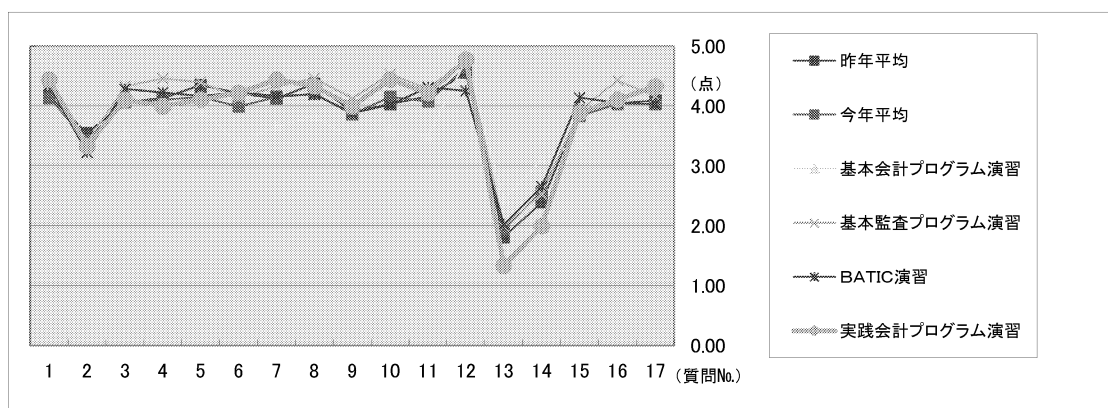
受講生のレベルが高いので、基礎的な学力の吸収は、比較的容易であったように思える。それでもまず基礎的な知識の習得を徹底的に行い、その後、講義の進展とともに徐々に内容を高める工夫をした。その結果、練習問題や中間テストや宿題は前年よりもはるかにいい結果を得た。したがって、来年もこの方針を継続する計画である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の授業方針、つまり最初は徹底的に基礎学力をつける授業を行い、次に受講生の理解度を確認する練習問題、中間テストなどを実施し、授業内容を十分理解していることがわかれば、さらにステップアップする授業を行う授業方針は効果があったと考えているので、今後も踏襲したいと考えている。

系： IT・ビジネススキル
 受講者数： 90 回答者数： 79

質問No.	昨年平均	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習	BATIC演習	実践会計プログラム演習
1	4.17	4.13	3.33	4.40	4.35	4.44
2	3.55	3.43	3.78	3.40	3.23	3.33
3	4.07	4.07	3.56	4.33	4.29	4.11
4	4.13	4.10	3.72	4.47	4.23	4.00
5	4.35	4.16	3.94	4.40	4.17	4.11
6	4.22	4.00	3.39	4.14	4.23	4.22
7	4.13	4.15	3.67	4.33	4.17	4.44
8	4.38	4.21	3.83	4.47	4.20	4.33
9	3.90	3.87	3.44	4.13	3.89	4.00
10	4.04	4.15	3.61	4.53	4.03	4.44
11	4.16	4.08	3.50	4.29	4.31	4.22
12	4.56	4.65	4.78	4.80	4.26	4.78
13	1.81	1.95	2.44	2.00	2.03	1.33
14	2.40	2.58	3.11	2.53	2.66	2.00
15	3.93	3.84	3.39	3.93	4.14	3.89
16	4.05	4.04	3.56	4.43	4.06	4.11
17	4.10	4.04	3.61	4.17	4.03	4.33
回答者数	85	79	19	15	35	10



受講生の傾向

概ね参加意欲も高く、まじめにとりくんでいるようである。配置された曜日・時限の問題か講義科目の違いが問題かは明確ではないが、講義によって出席(遅刻を含む)態度に違いが出ているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートの結果や、実際の講義での感触を受けて、科目や担当者に応じて、工夫が講じられている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生の発言を促したり、机間巡回をするなどし、受講生の理解度を随時確認しつつ、より実務を意識できるような講義展開を図る。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

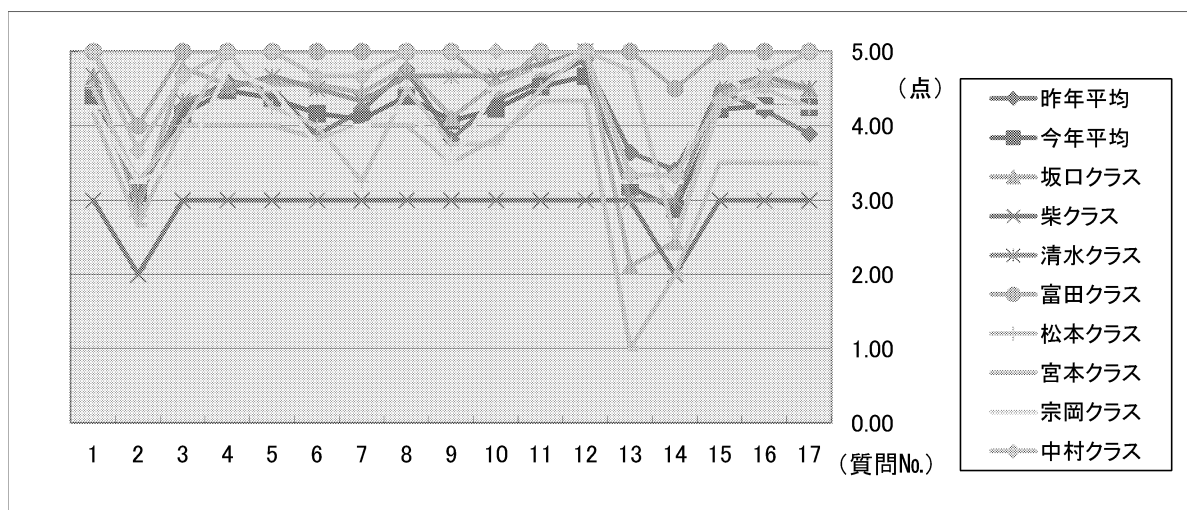
より一層の机間巡回を行い、受講生の理解度を正確に把握しつつ、より基礎的な部分に重点を置いた講義を実施できるよう工夫する。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)

受講者数: 40

回答者数: 25

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス	中村クラス
1	4.43	4.41	4.67	3.00	4.67	5.00	4.50	4.17	4.25	5.00
2	3.11	3.09	2.89	2.00	3.00	4.00	3.25	2.67	3.25	3.67
3	4.25	4.16	4.78	3.00	4.33	5.00	4.00	4.00	3.50	4.67
4	4.60	4.48	4.56	3.00	4.50	5.00	5.00	4.00	4.75	5.00
5	4.51	4.37	4.56	3.00	4.67	5.00	4.25	4.00	4.50	5.00
6	3.88	4.16	4.56	3.00	4.50	5.00	4.00	3.83	3.75	4.67
7	4.21	4.09	4.44	3.00	4.33	5.00	3.25	4.00	4.00	4.67
8	4.75	4.40	4.78	3.00	4.67	5.00	4.50	4.00	4.25	5.00
9	3.82	4.07	4.11	3.00	4.67	5.00	3.75	3.50	3.50	5.00
10	4.35	4.23	4.56	3.00	4.67	4.50	3.75	3.83	4.50	5.00
11	4.60	4.52	4.78	3.00	4.83	5.00	4.50	4.33	4.75	5.00
12	4.89	4.67	5.00	3.00	5.00	5.00	5.00	4.33	5.00	5.00
13	3.64	3.18	2.11	3.00	3.00	5.00	4.75	1.00	3.25	3.33
14	3.40	2.88	2.44	2.00	3.00	4.50	2.50	2.00	3.25	3.33
15	4.46	4.22	4.44	3.00	4.50	5.00	4.25	3.50	4.75	4.33
16	4.21	4.27	4.56	3.00	4.67	5.00	4.50	3.50	4.25	4.67
17	3.89	4.25	4.50	3.00	4.50	5.00	4.25	3.50	4.25	5.00
回答者数	25	41	9	2	6	2	4	6	4	8



受講生の傾向

概ね熱心に受講しているようである。一方で、担当者によって、あるいは、同じ担当者でも学生によって、学生の受講態度にバラつきがあるようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各担当者、共通して、受講生のディスカッションが活発になるよう、工夫している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

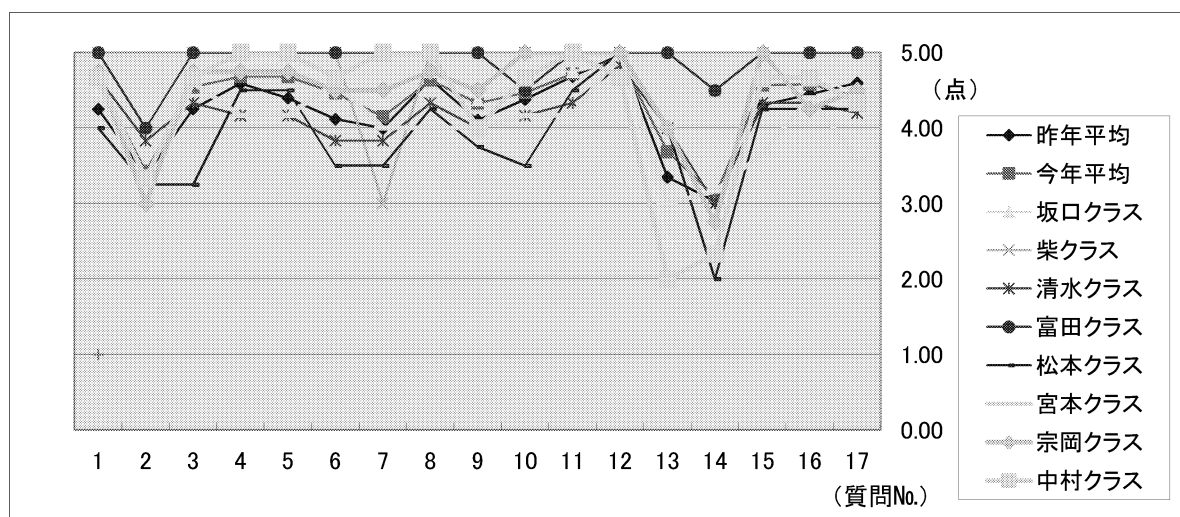
上記の内容(扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい)を引き続き、継続していくとともに、アカデミック・ソリューションの役割を明確にして、担当者間で共通認識としていきたい。

系:個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)

受講者数: 38

回答者数: 35

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	清水クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス	中村クラス
1	4.25	4.65	4.50	5.00	4.67	5.00	4.00	4.60	4.75	4.67
2	3.38	3.43	3.00	4.00	3.83	4.00	3.25	3.00	3.00	3.33
3	4.25	4.54	4.75	5.00	4.33	5.00	3.25	4.60	4.75	4.67
4	4.59	4.68	4.88	5.00	4.17	5.00	4.50	4.17	4.75	5.00
5	4.40	4.68	4.88	5.00	4.17	5.00	4.50	4.17	4.75	5.00
6	4.12	4.47	4.63	5.00	3.83	5.00	3.50	4.60	4.50	4.67
7	4.00	4.15	4.38	3.00	3.83	5.00	3.50	4.00	4.50	5.00
8	4.65	4.64	4.75	5.00	4.33	5.00	4.25	4.00	4.75	5.00
9	4.11	4.33	4.38	5.00	4.00	5.00	3.75	4.00	4.50	4.00
10	4.38	4.47	4.75	5.00	4.17	4.50	3.50	4.17	5.00	4.67
11	4.68	4.72	4.75	5.00	4.33	5.00	4.50	4.17	5.00	5.00
12	4.97	4.92	4.88	5.00	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	4.67
13	3.35	3.69	2.50	5.00	4.00	5.00	4.00	3.00	4.00	2.00
14	3.03	3.09	2.50	4.50	3.00	4.50	2.00	3.17	2.75	2.33
15	4.30	4.57	4.63	5.00	4.33	5.00	4.25	3.67	5.00	4.67
16	4.45	4.58	4.75	5.00	4.33	5.00	4.25	4.40	4.25	4.67
17	4.60	4.41	4.43	5.00	4.20	5.00	4.25	3.60	4.50	4.33
回答者数	30	35	8	2	6	2	4	6	4	3



受講生の傾向

概ね熱心に受講しているようである。一方で、担当者によって、あるいは、同じ担当者でも学生によって、学生の受講態度にバラつきがあるようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各担当者、共通して、受講生のディスカッションが活発になるよう、工夫している。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

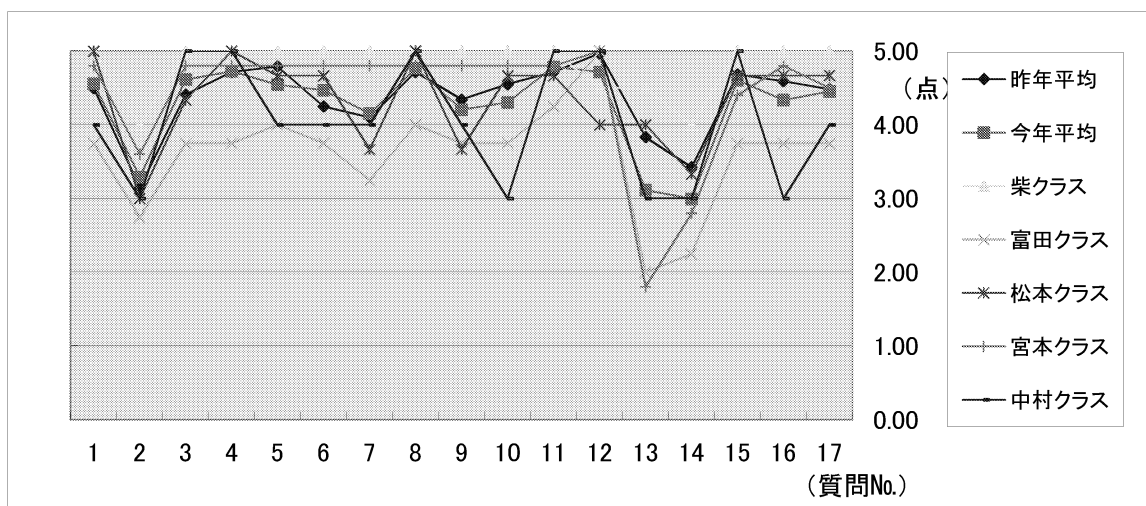
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の内容(扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい)を引き続き、継続していくとともに、アカデミック・ソリューションの役割を明確にして、担当者間で共通認識としていきたい。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)

受講者数: 21 回答者数: 20

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	中村クラス
1	4.50	4.56	4.80	5.00	3.75	5.00	4.80	4.00
2	3.15	3.29	3.40	4.00	2.75	3.00	3.60	3.00
3	4.41	4.61	4.80	5.00	3.75	4.33	4.80	5.00
4	4.72	4.73	4.80	5.00	3.75	5.00	4.80	5.00
5	4.79	4.54	4.80	5.00	4.00	4.67	4.80	4.00
6	4.25	4.47	4.60	5.00	3.75	4.67	4.80	4.00
7	4.10	4.15	4.20	5.00	3.25	3.67	4.80	4.00
8	4.72	4.77	4.80	5.00	4.00	5.00	4.80	5.00
9	4.34	4.20	4.00	5.00	3.75	3.67	4.80	4.00
10	4.55	4.30	4.60	5.00	3.75	4.67	4.80	3.00
11	4.72	4.79	5.00	5.00	4.25	4.67	4.80	5.00
12	4.97	4.72	4.80	4.50	5.00	4.00	5.00	5.00
13	3.83	3.12	3.40	4.50	2.00	4.00	1.80	3.00
14	3.43	3.00	2.60	4.00	2.25	3.33	2.80	3.00
15	4.68	4.60	4.80	5.00	3.75	4.67	4.40	5.00
16	4.59	4.34	4.80	5.00	3.75	4.67	4.80	3.00
17	4.48	4.45	4.80	5.00	3.75	4.67	4.50	4.00
回答者数	25	20	5	2	4	3	5	1



受講生の傾向

受講生のほとんどが、どの担当者であれ、熱心に受講しているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各担当者それぞれの得意分野を活かした素材を扱いながら、その対象の理解やディスカッションの深度を深めるよう工夫しているようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

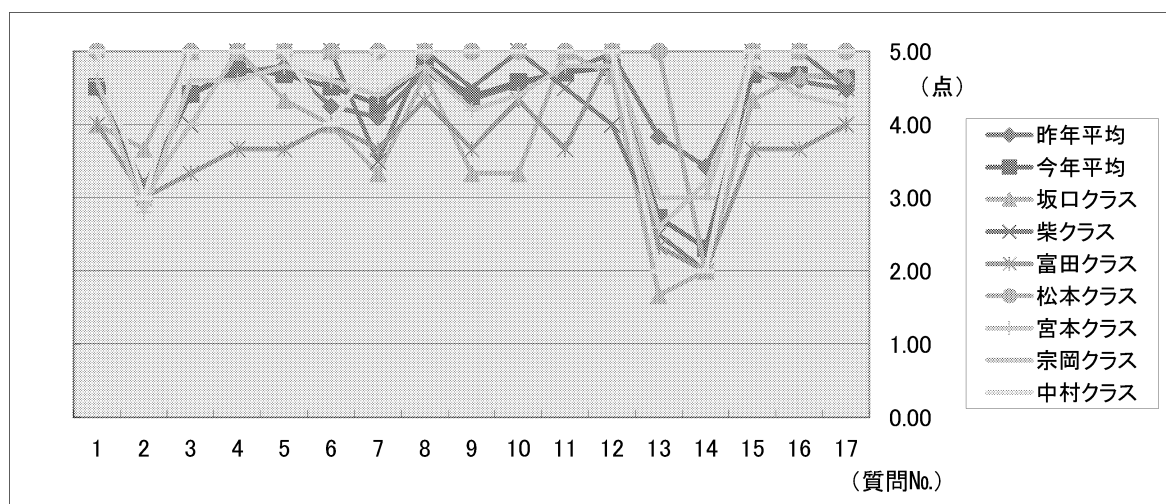
引き続き、上記の内容(受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい)をより一層の対応としたい。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)

受講者数: 20

回答者数: 18

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス	中村クラス
1	4.50	4.51	4.00	4.00	4.00	5.00	4.60	5.00	5.00
2	3.15	3.07	3.67	3.00	3.00	3.00	2.80	3.00	3.00
3	4.41	4.42	5.00	4.00	3.33	5.00	4.60	4.00	5.00
4	4.72	4.75	5.00	5.00	3.67	5.00	4.60	5.00	5.00
5	4.79	4.69	4.33	5.00	3.67	5.00	4.80	5.00	5.00
6	4.25	4.51	4.00	5.00	4.00	5.00	4.60	5.00	4.00
7	4.10	4.27	3.33	3.50	3.67	5.00	4.40	5.00	5.00
8	4.72	4.83	4.67	5.00	4.33	5.00	4.80	5.00	5.00
9	4.34	4.39	3.33	4.50	3.67	5.00	4.20	5.00	5.00
10	4.55	4.58	3.33	5.00	4.33	5.00	4.40	5.00	5.00
11	4.72	4.71	5.00	4.50	3.67	5.00	4.80	5.00	5.00
12	4.97	4.78	4.67	4.00	5.00	5.00	4.80	5.00	5.00
13	3.83	2.73	1.67	2.50	2.33	5.00	2.60	3.00	2.00
14	3.43	2.31	2.00	2.00	2.00	2.00	3.20	3.00	2.00
15	4.68	4.69	4.33	5.00	3.67	5.00	4.80	5.00	5.00
16	4.59	4.68	4.67	5.00	3.67	5.00	4.40	5.00	5.00
17	4.48	4.63	4.67	4.50	4.00	5.00	4.25	5.00	5.00
回答者数	25	17	3	2	3	1	5	2	1



受講生の傾向

受講生のほとんどが、どの担当者であれ、熱心に受講しているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各担当者それぞれの得意分野を活かした素材を扱いながら、その対象の理解やディスカッションの深度を深めるよう工夫しているようである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

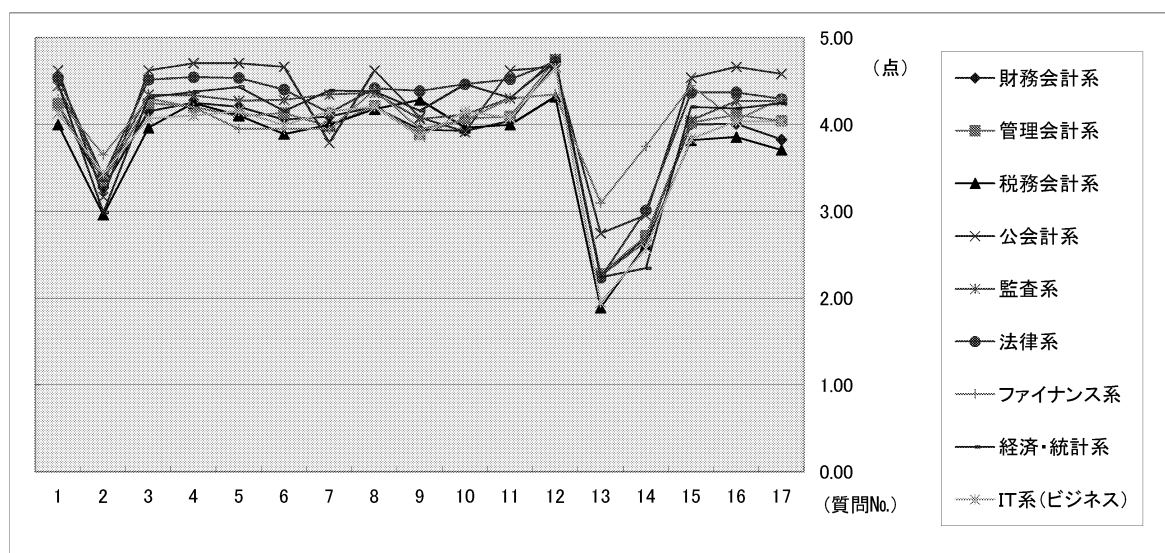
受講生が最終学期として学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、上記の内容(受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい)をより一層の対応としたい。

系列平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT系(ビジネス)
1	4.22	4.23	4.00	4.63	4.45	4.54	—	4.30	4.47	4.13
2	3.28	3.36	2.96	3.17	3.39	3.40	—	3.65	2.99	3.43
3	4.15	4.25	3.96	4.63	4.35	4.52	—	4.30	4.32	4.07
4	4.25	4.20	4.25	4.71	4.34	4.55	—	4.20	4.38	4.10
5	4.21	4.10	4.11	4.71	4.28	4.54	—	3.95	4.44	4.16
6	4.06	4.13	3.89	4.67	4.29	4.41	—	3.95	4.16	4.00
7	4.09	3.98	4.00	3.79	4.35	4.14	—	3.95	4.39	4.15
8	4.21	4.22	4.18	4.63	4.37	4.42	—	4.40	4.38	4.21
9	3.94	3.89	4.29	4.08	4.07	4.39	—	3.95	4.16	3.87
10	3.93	4.07	3.96	3.92	4.12	4.47	—	4.05	4.47	4.15
11	4.04	4.09	4.00	4.63	4.30	4.52	—	4.30	4.31	4.08
12	4.69	4.75	4.32	4.67	4.76	4.73	—	4.35	4.73	4.65
13	2.27	2.28	1.89	2.75	2.26	2.24	—	3.10	2.24	1.95
14	2.70	2.72	2.62	2.96	2.66	3.01	—	3.75	2.35	2.58
15	4.00	4.02	3.82	4.54	4.05	4.37	—	4.45	4.20	3.84
16	4.01	4.11	3.86	4.67	4.27	4.37	—	4.05	4.19	4.04
17	3.83	4.04	3.71	4.58	4.27	4.30	—	4.30	4.25	4.04
回答者数	251	153	21	12	162	130	—	8	43	79



受講生の傾向

毎年指摘している通り、どの科目も出席率が高いのに対して、予習・復習にあまり時間をかけていないという実態に大きな変化はない。講義の理解度(項目17)と進捗(項目2)であるが、相関関係はなく、公会計系の進捗は適度で理解度は高く、ファイナンス系は進捗が早い理解度も高い。税務会計系は進捗は適度だが理解度が低いという特徴が出た。昨年は早いと感じられた監査系とIT系の進捗がやや遅くなった。系列に理解度が昨年度より落ちているのが、財務会計、管理会計、税務会計、法律、経済統計、ITであり、理解度が高まったのが公会計、監査、ファイナンスである。全体的な低下が気になる。他の質問項目を包括しているといえる満足度(項目11)をみると、公会計、経済統計、監査、ファイナンスが高く、理解度と相関関係があると思われる。

今後の対応

系列別、あるいは、全系列平均でみると、個別科目の特徴が見えなくなるので、この評価にとどまらず、個別科目の担当教員による自己評価を合わせて読む必要がある。この点は例年指摘している通りである。ただ、先に指摘したように、理解度と満足度において系列に差異がみられることから、FD活動においてその理由を明らかにして、他の系にも好影響を与える必要がある。

Ⅲ. 2011 年度授業評価アンケートフォーム

2011 年度 関西大学「会計専門職大学院学生による授業評価」アンケート

会計専門職大学院 FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。

- ・アンケートの回答は、マークシートに記入してください。
- ・授業科目、クラス及び担任者を記入してください。
- ・このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

I. 授業の評価

II. 授業への取組み

I. 授業の評価

1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
2	この授業の進捗はどうでしたか。
5. かなり早い 4. 早い 3. ちょうどよい 2. 遅い 1. かなり遅い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
7	ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	

裏面につづく

Ⅱ. 授業への取組み

12	この授業への出席状況はどうでしたか。
5. 90%以上 4. 70%以上 3. 50%以上 2. 30%以上 1. 30%未満	

13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間	

14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間	

15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	

16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	

17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。
5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない	

—以上—

ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

2011 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■中央大学大学院戦略経営研究科特任教授／国際会計基準委員会財団評議員

藤沼亜起氏（客員教授）

演題「会計プロフェッションの将来像～IFRS 時代の国際的会計人を目指して～」

[平成 23 年 4 月 4 日(月)開催]

■慶応義塾大学教授／グローバルセキュリティ研究所長／元総務大臣

竹中平蔵氏（客員教授）

演題「日本経済～大震災を超えて～」

[平成 23 年 10 月 6 日(木)開催]

■米国ブリッジウォーター州立大学准教授 Martin Grossman 氏（招へい研究者）

演題「Knowledge management (KM) and social network analysis (SNA)」(院生対象)

[平成 23 年 10 月 12 日(水)開催]

■米国ブリッジウォーター州立大学准教授 Martin Grossman（招へい研究者）

演題「Trategies for teaching the non-traditional student」(教員対象)

[平成 23 年 10 月 12 日(水)開催]

■PHP 総合研究所コンサルティング・フェロー／元金融担当大臣 伊藤達也氏（客員教授）

演題「野田政権と日本の課題」

[平成 23 年 10 月 19 日(水)開催]

■第 3 回会計ルネッサンス・フォーラム

[平成 23 年 11 月 16 日(水)開催]

□あずさ監査法人代表社員／日本公認会計士協会常務理事 佐伯 剛氏

演題「我が国の公認会計士の活用に向けた現状と課題」

□阪急阪神ホールディングス代表取締役社長 角 和夫氏（客員教授）

演題「沿線価値向上を目指して」

■名古屋経済大学大学院教授／前公認会計士・監査審査会委員 脇田良一氏（客員教授）

演題「改めて監査基準を考える」

[平成 23 年 11 月 30 日(水)開催]

■参議院議員/日本学術院会員 猪口邦子氏（客員教授）

演題「世界の予算・日本の予算～国会の予算委員会の役割～」

[平成 23 年 12 月 7 日(水)開催]

■青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授 八田進二氏（客員教授）

演題「今なぜ、倫理教育が求められるのか？」

[平成 23 年 12 月 21 日(水)開催]

■関西学院大学商学部教授 平松一夫氏（客員教授）

演題「IFRS 導入の行方と会計人のあり方」

[平成 24 年 1 月 18 日(水)開催]

■あずさ監査法人代表社員 大阪事務所長 吉田享司氏（客員教授）

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

[平成 24 年 3 月 24 日(土)開催]

会計専門職大学院

新 入 生 歡 迎 講 演 会

日 時 2011 年 4 月 4 日（月） 14：40～15：40

場 所 第 2 学舎 2 号館 5 階 C507 教室

講演者 藤沼亜起氏

- ・ 関西大学会計専門職大学院客員教授
- ・ 中央大学大学院戦略経営研究科特任教授
- ・ 日本公認会計士協会相談役

演 題 「会計プロフェッションの将来像・・・」

I F R S 時代の国際的会計人を目指して」

会計専門職大学院 竹中平蔵 客員教授講演会

会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授、元総務大臣・郵政民営化担当大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 23 年 10 月 6 日（木）
16：20～17：50
- 場所：千里山キャンパス第3学舎
ソシオAV大ホール
- 演題：日本経済～大震災を超えて～
- 聴講自由・事前申込は不要です。

会場案内図(関大前駅南口からエスカレーターをご利用ください。)



講師 竹中平蔵 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

会計研究科 招へい研究者講演会の開催について（ご案内）

会計研究科では、招へい研究者の米国ブリッジウォーター州立大学准教授の Martin Grossman 氏の講演会を下記のとおり開催します。

会計研究科を含む大学院生諸君は、奮って参加してください。

記

日 時 平成 23 年 10 月 12 日（水）1 時限（9：00～10：30）

場 所 第 2 学舎 2 号館 6 階 C603 教室

講 師 米国ブリッジウォーター州立大学准教授

Martin Grossman 氏（会計研究科招へい研究者）

演 題 「Knowledge management (KM)

and social network analysis (SNA)」

対 象 会計研究科院生及び他研究科大学院生

以 上

平成 23 年 10 月 5 日

会計研究科

会計研究科 招へい研究者講演会の開催について（ご案内）

招へい研究者の米国ブリッジウォーター州立大学准教授
の Martin Grossman 氏の講演会を下記のとおり開催します。

記

日 時 平成 23 年 10 月 12 日（水） 11：15～12：45

場 所 第 2 学舎 2 号館 7 階 会計研究科会議室

講 師 米国ブリッジウォーター州立大学准教授

Martin Grossman 氏（会計研究科招へい研究者）

演 題 「Trategies for teaching

the non-traditional student」

対 象 会計研究科専任教員

以 上

平成 23 年 10 月 5 日

会計研究科

伊藤達也 客員教授講演会

PHP総研コンサルティング・フェロー、元金融担当大臣

～野田政権と日本の課題～

会計専門職大学院では、政策シンクタンクPHP総研コンサルティング・フェロー、元金融担当大臣の伊藤達也客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成23年10月19日（水）
14：40～16：10（4時限目）
- 場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館5階 C507教室
- 演題：野田政権と日本の課題
- 聴講自由・事前申込は不要です。



講師 伊藤達也 氏

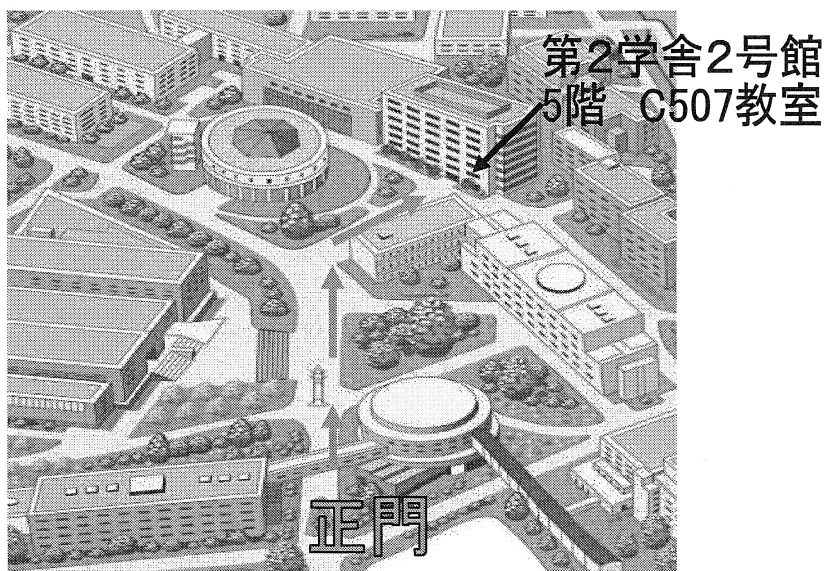
関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikai@ml.kandai.jp



第3回会計ルネッサンス・フォーラム

～会計大学院からのキャリア設計を考える～

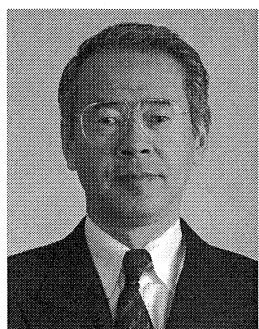
関西大学会計専門職大学院では、会計大学院協会の後援により、第3回会計ルネッサンス・フォーラムを開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

～聴講自由・事前申込は不要～

■日時：平成23年11月16日（水）13：00～16：10 <12：40開場>

■場所：千里山キャンパス 尚文館1階 AV大教室



佐伯 剛 氏

<第1部> 13：00～14：30

■演題 我が国の公認会計士の活用に向けた
現状と課題

■講師 佐伯 剛 氏 有限責任あずさ監査法人代表社員
日本公認会計士協会常務理事

■コーディネーター
柴 健次

関西大学大学院会計研究科長・教授
会計大学院協会副理事長

<第2部> 14：40～16：10

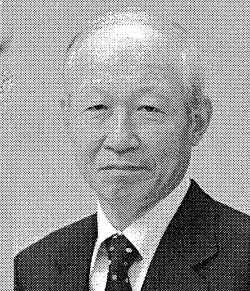
■演題 沿線価値向上を目指して

■講師 角 和夫 氏（関西大学客員教授）

阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役社長

■司会 宮本 勝浩 関西大学大学院会計研究科教授

<会場案内図>



角 和夫 氏

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikei@ml.kandai.jp

脇田良一 客員教授講演会

名古屋経済大学大学院教授、前公認会計士・監査審査会常勤委員

～改めて監査基準を考える～

会計専門職大学院では、名古屋経済大学大学院会計学研究科教授、前公認会計士・監査審査会常勤委員の脇田良一客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

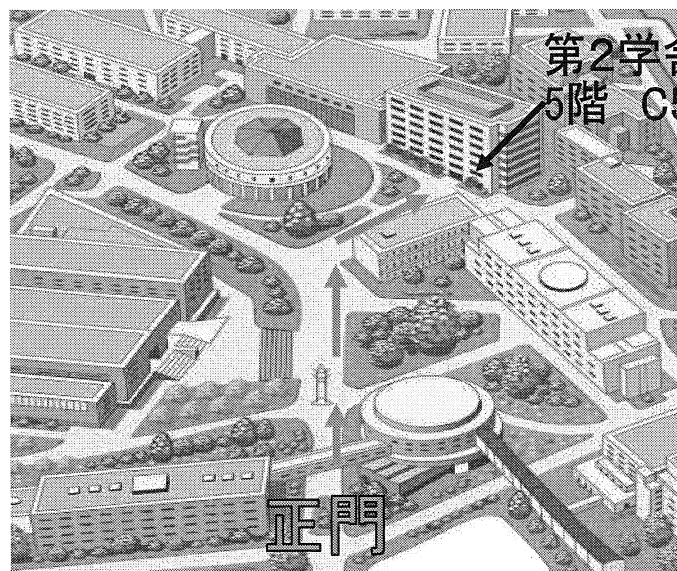
学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：平成23年11月30日（水）
16：20～17：50（5時限目）

■場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館5階 C507教室

■演題：改めて監査基準を考える

■聴講自由・事前申込は不要です。



講師 脇田良一 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikei@ml.kandai.jp

猪口邦子 客員教授講演会

参議院議員、元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画)

「世界の予算・日本の予算～国会の予算委員会の役割～」

会計専門職大学院では、参議院議員、元内閣府特命担当大臣(少子化、男女共同参画)、日本学術会議会員(政治学)の猪口邦子客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 23 年 12 月 7 日(水)
16:20～17:50(5 時限目)
- 場所：千里山キャンパス
尚文館(1 階)AV 大教室
- 演題：世界の予算・日本の予算
～国会の予算委員会の役割～
- 聴講自由・事前申込は不要です。

<会場案内図>



講師 猪口邦子 氏

関西大学客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

Mail kaikai@ml.kandai.jp

八田進二 客員教授講演会

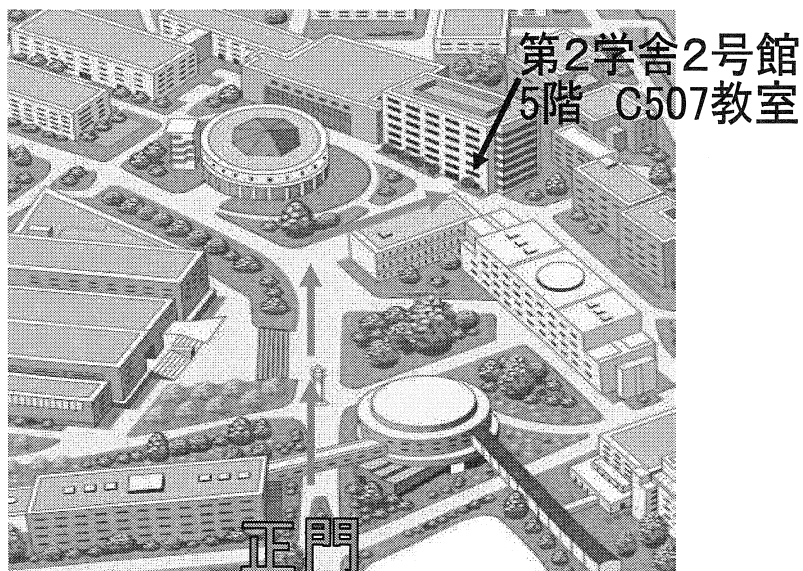
青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授、会計大学院協会理事長

～今なぜ、倫理教育が求められるのか？～

会計専門職大学院では、青山学院大学会計プロフェッション研究科教授、会計大学院協会理事長の八田進二客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 23 年 12 月 21 日（水）
16：20～17：50（5 時限目）
- 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 5 階 C507 教室
- 演題：今なぜ、
倫理教育が求められるのか？
- 聴講自由・事前申込は不要です。



講師 八田進二 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

E-Mail kaikei@ml.kandai.jp

平松一夫 客員教授講演会

関西学院大学商学部教授、国際会計士連盟・国際会計教育基準審議会委員

～IFRS導入の行方と会計人のあり方～

会計専門職大学院では、関西学院大学商学部教授の平松一夫客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

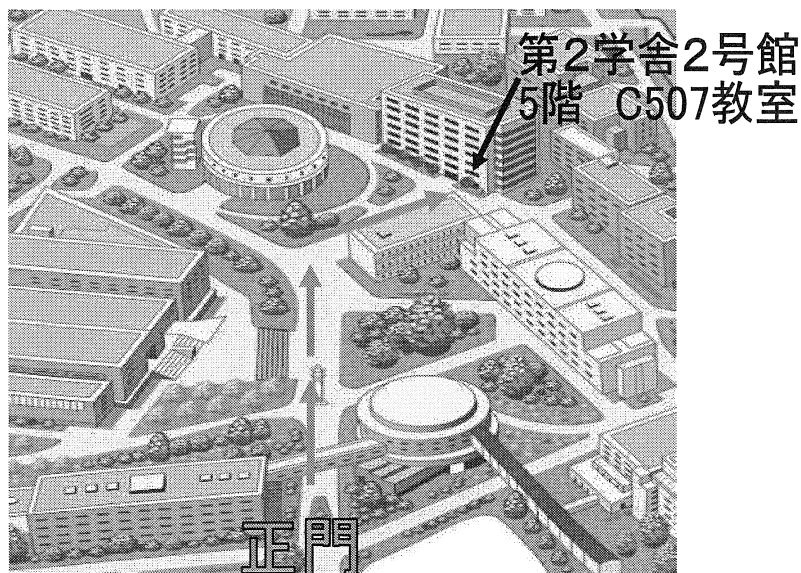
学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：平成24年1月18日（水）
16：20～17：50（5時限目）

■場所：千里山キャンパス第2学舎
2号館5階 C507教室

■演題：IFRS導入の行方と
会計人のあり方

■聴講自由・事前申込は不要です。



講師 平松一夫 氏

関西大学会計専門職大学院
客員教授・教育顧問

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

吉田 享司 客員教授講演会

あずさ監査法人代表社員・大阪事務所長(公認会計士・米国公認会計士)

～監査を取り巻く環境変化と求められる人材～

会計専門職大学院では、2012 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人代表社員・大阪事務所長の吉田享司客員教授をお招きし、講演会を開催します。公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■日時：平成 24 年 3 月 24 日 (土)

11:30～13:00

■場所：千里山キャンパス第 2 学舎

2 号館 5 階 C507 教室

■演題：監査を取り巻く環境変化と
求められる人材

■聴講自由・事前申込は不要です。



講師 吉田享司 氏

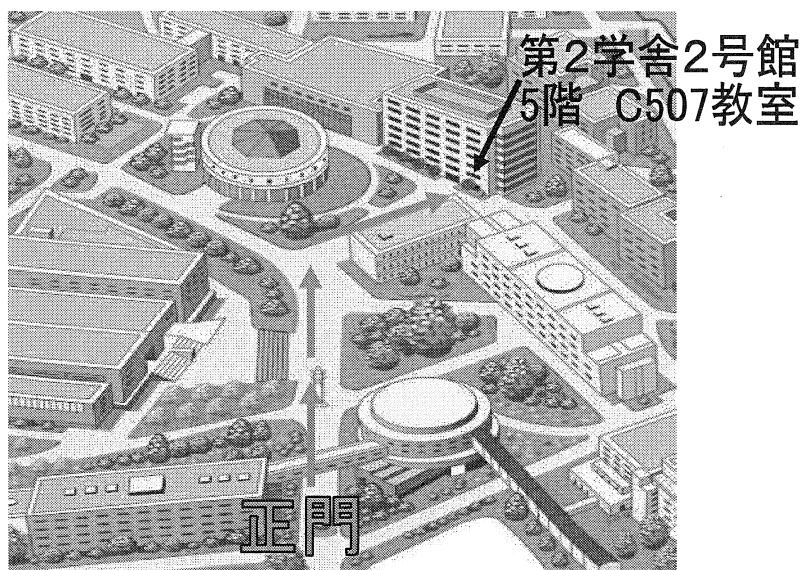
関西大学会計専門職大学院
客員教授

＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

E-Mail kaikai@ml.kandai.jp



関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610